

欧米豪をターゲットとした 九州観光関心度等の基礎調査 報告書

平成 30 年 11 月
国土交通省 九州運輸局

調査委託先：(公財)九州経済調査協会

目 次

はじめに	1
I 欧米豪旅行者の行動実態調査	6
1. 「Tripadvisor」を活用した観光資源の評価分析	6
2. 「FF-Data」を活用した行動経路分析	22
3. 九州内外国人観光案内所へのヒアリング	38
II 欧米豪旅行者の九州観光知名度・関心度調査	42
(1) 調査方法	42
(2) 調査内容	42
(3) 調査結果	53
① イギリス	53
② フランス	60
③ ドイツ	67
④ アメリカ	74
⑤ オーストラリア	81
おわりに	88
参考資料	89

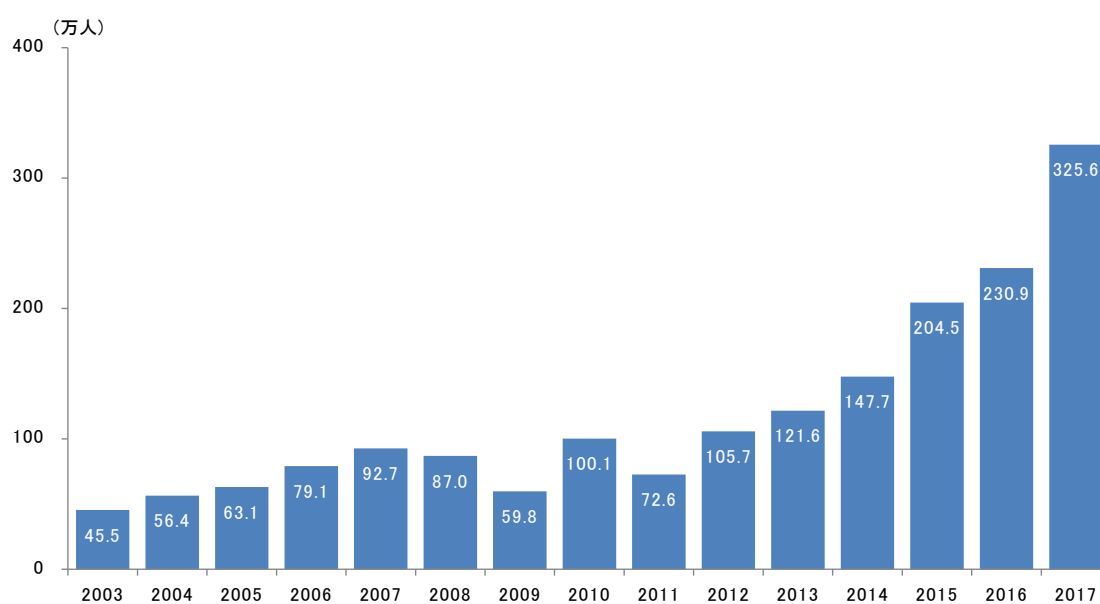
はじめに

■急増するインバウンド

2017年に九州7県で入国した外国人は過去最高を更新し325.6万人であった(外国クルーズ船の乗客＝寄港地上陸は除く)。旺盛なインバウンド需要を背景に九州各県の空港が東アジアとの路線の新規就航・増便を図ることができたことで、前年比41.0%の大幅増となっている。

この対前年比41.0%増という伸び率は過去10年間の中でも3番目に高い伸び率だが、2010年(同67.4%増)と2012年(同45.5%増)は、それぞれリーマンショックと東日本大震災というインバウンド減少要因が発生した翌年の反動増を含んだ伸び率であり、増加基調にある中での伸び率としては最大である。

図0-1 入国外国人数の推移(九州7県)



資料)法務省「出入国管理統計」

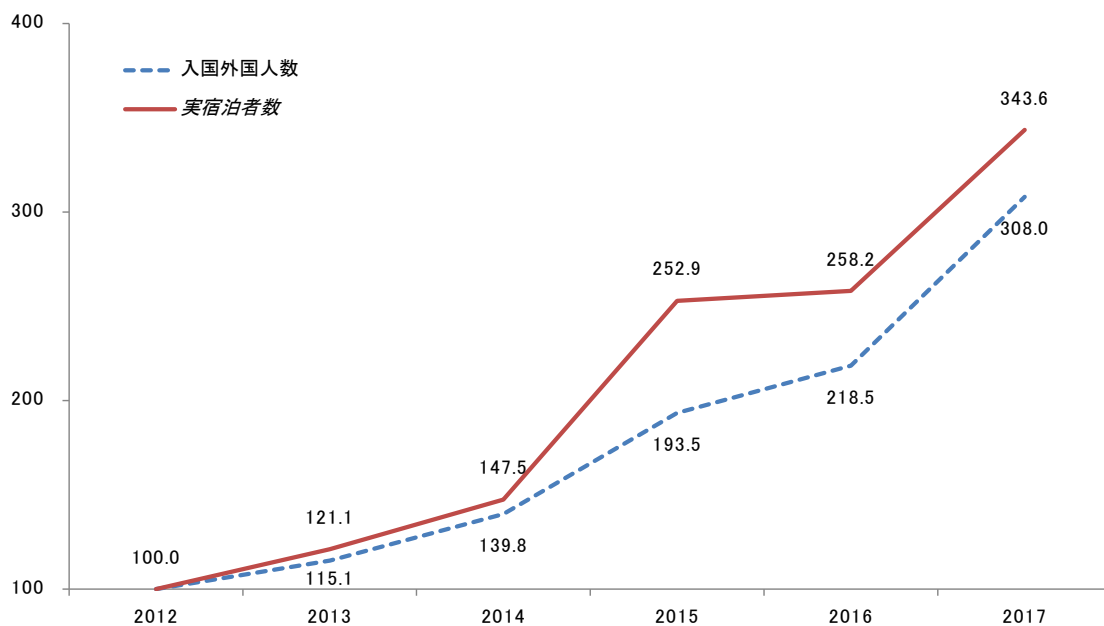
■ 存在感高まる九州外での入国

九州7県の外国人宿泊者数も同様に増加しており、2017年の実宿泊者数は564.9万人（前年比33.1%増）、延べ宿泊者数は751.5万人泊（同31.4%増）であった。先述した入国外国人数と外国人実宿泊者数の伸びを比べてみると、2012年からの5年間で入国外国人数は約3倍となった一方、外国人実宿泊者数は約3.5倍にまで増加していることが分かる。

入国外国人数の伸びを実宿泊者数が上回っているのは、九州外の空港で入国してから九州を訪れるインバウンドが増加しているためと考えられ、九州内で完結する旅行に加えて、より広域を旅行するスタイルが浸透していると言える。

九州は、欧米豪との直航便ネットワークを一部のヨーロッパ便を除きほとんど有していないが、訪日旅行者のリピート化が進み「大都市＋地方」という旅行スタイルが増えてきたことで、直航便ネットワークの弱い欧米豪からの旅行者が増える可能性がより高まってきたのである。

図 0-2 入国外国人数と外国人実宿泊者数の推移（九州7県）



注) 2012年の値を100として以降の値を算出したもの
資料) 法務省「出入国管理統計」、観光庁「宿泊旅行統計」

■欧米豪インバウンドの重要性

2019 年に開催予定のラグビーワールドカップ(RWC)、2020 年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、訪日外国人数の増加だけでなく、より多様な国・地域から観光客が日本を訪れるようになることが期待されている。特に、RWC は九州でも福岡・熊本・大分の3県での試合開催が決定しており、ラグビーが盛んな地域であるオセアニアやヨーロッパからのインバウンド増が期待される。こうした世界的なイベントの開催決定等のインバウンドニーズの高まりを契機に、わが国はいっそうの国際観光の振興を目指しており、2016 年 3 月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では、訪日外国人数を従来目標の 2 倍にあたる 4,000 万人まで増加させる新たな目標を掲げ、「観光先進国・日本」へと飛躍を図ることを目指している。

インバウンドの誘客は各地でも積極的に進められており、九州でも7県の官民が一体的に進める「第二期九州観光戦略」第二次アクションプランにおいて、「旅行消費額が高く、訪日旅行での滞在日数が長い欧米豪の旅行者を九州に呼び込むための積極的なプロモーションを展開する」と盛り込まれ、アジアからの旅行者が大部分を占めている九州のインバウンドに欧米豪を取り込むための動きが活発化している。国民一人あたりの国際観光支出額をみれば、上位には軒並み欧米豪が名を連ねており、インバウンドの数だけでなく旅行消費額の増加も目指していくうえで、欧米豪は重要なターゲットであると言える。

表 0-1 国・地域別にみた国民1人あたり国際観光支出額(2017 年)

国・地域名	国民1人あたり 国際観光支出 (ドル)	人口 (百万人)	訪日中の 平均滞在日数 (日/回)	国・地域名	国民1人あたり 国際観光支出 (ドル)	人口 (百万人)	訪日中の 平均滞在日数 (日/回)
1 オーストラリア	1,360	25	13.2	9 スペイン	480	46	13.4
2 ドイツ	1,008	83	15.5	10 イタリア	444	61	13.1
3 イギリス	961	66	12.2	11 アメリカ	416	325	13.8
4 カナダ	865	37	13.8	12 ロシア	217	143	19.4
5 台湾	746	24	6.7	13 中国	185	1,391	10.9
6 フランス	637	65	15.7	14 日本	143	127	—
7 韓国	600	51	4.3	15 ブラジル	91	208	—
8 サウジアラビア	541	32	—	16 インド	14	1,317	23.1

注)人口 2,000 万人未満の国は除く

資料)UNWTO「World Tourism Barometer」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに九経調作成

■九州における欧米豪インバウンドの現状

欧米豪インバウンドの九州観光の現状を明らかにするため、本調査の対象5カ国(アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・オーストラリア)について九州7県での延べ宿泊者数をみると、アメリカが14.9万人泊と5カ国の中では突出しており、残りの4カ国は2～3万人泊で並んでいるが、いずれの国も5年前と比較すると大きく増加していることが分かる。

しかし、九州インバウンド全体に占める欧米豪インバウンドの割合は低いのが現状である。九州において当該5カ国のインバウンドが占めるシェアは4.0%であり、これは全国10ブロックの中でも北海道(4.6%)や沖縄(5.5%)を下回り最も低い数字である。アジアのゲートウェイである九州は韓国をはじめとする東アジアからのインバウンドが距離的にも価格的にも訪れやすいため、それ以外の国・地域のシェアが高まりにくい傾向はあるものの、RWC やオリパラの開催を契機に誘客エリアを拡大していくことで、欧米豪のシェアを高めていく余地は十分にあるものと考えられる。

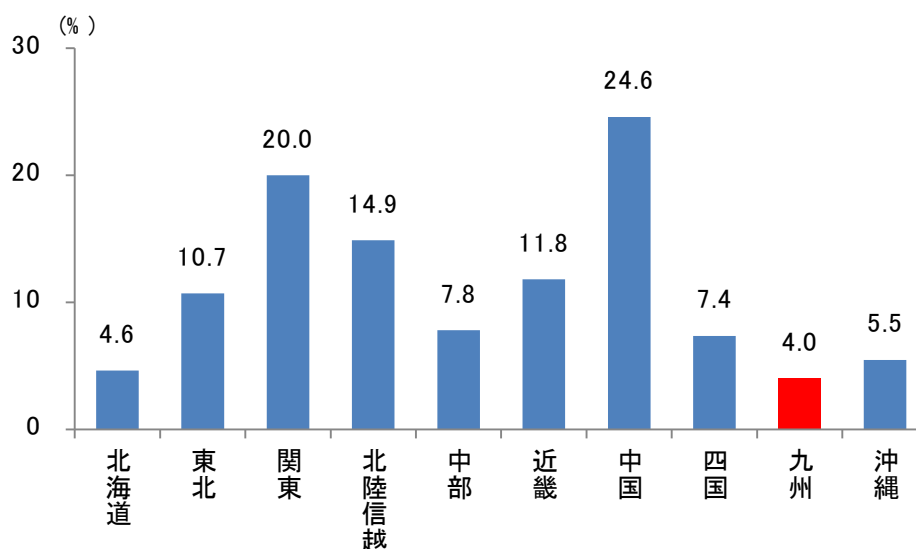
表 0-2 欧米豪5カ国の九州7県での延べ宿泊者数

(単位: 人泊、%)

	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オーストラリア
延べ宿泊者数 (2017)	149,090	31,700	26,460	20,700	32,250
増減率 (2012/2017)	83.6	216.4	169.2	168.1	126.6

資料)観光庁「宿泊旅行統計」

図 0-3 地方運輸局別にみた欧米豪5カ国の延べ宿泊者数のシェア(2017年)



資料)観光庁「宿泊旅行統計」

■調査の目的

第二期九州観光戦略は「観光を九州の基幹産業に」していくことを目指しており、日本滞在日数が長く旅行消費単価も高額な欧米豪の誘客を拡大していくことは、九州が真の観光先進地となっていくための重要な課題であると言える。

こうした課題を解決するためにはまず現状把握が必要だが、今後の欧米豪対策を講じるうえで欧米豪旅行者の“九州”旅行に対するニーズや行動実態等の基礎的な情報・データが不足しているのが現状である。本調査では、欧米豪旅行者の誘客対策を講じていくうえで不可欠となる各国旅行者の九州観光に関する情報・データを的確に把握し分析することで、幅広い九州の観光関係者が独自に誘客戦略を策定できるよう促していくものである。

■調査対象国

本調査の対象である欧米豪の国は、以下の5カ国である。

イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ、オーストラリア

表 0-3 対象5カ国の概要(2017 年)

国名	人口 (百万人)	国民1人あたり 国際観光支出 (ドル)	訪日外客数 (万人)	九州での 延べ宿泊者数 (万人泊)	2012/2017 増加率 (%)
イギリス	66	961	31.1	3.2	216.4
フランス	65	637	26.9	2.1	168.1
ドイツ	83	1,008	19.6	2.6	169.2
アメリカ	325	416	137.5	14.9	83.6
オーストラリア	25	1,360	49.5	3.2	126.6

資料) 人口、国民1人あたり国際観光支出…UNWTO「World Tourism Barometer」

訪日外客数…JNTO「訪日外客数(JNTO 推計値)」、延べ宿泊者数…観光庁「宿泊旅行統計」

I 欧米豪旅行者の行動実態調査

1. 「Tripadvisor」を活用した観光資源の評価分析

本節では、既存の入手可能なデータを活用し、九州を訪れる欧米豪インバウンドの行動実態を観光資源＝点のレベルで分析する。具体的には、世界最大の閲覧数を誇る旅行口コミサイト「Tripadvisor」を活用し、主要な観光資源ごとの投稿数と評価を対象5カ国ごとに調べることで、観光地の訪問実態と満足度を明らかにする。

(1) 調査方法

Tripadvisor(<https://www.tripadvisor.jp/>)に掲載されている九州7県の観光資源について、国別に口コミ投稿の情報を整理した。なお、投稿は常に増え続けているが、本調査では2018年8月3日時点までの投稿をもとに調査を行った。

各観光資源のページには当該資源に関する口コミ投稿が下図のように掲載されている。この情報をもとに、調査対象国ごとに投稿数と平均評価を算出した。評価の最高点は5点、最低点は1点である。さらに、平均評価が高い／低いいくつかの観光資源については、その要因を明らかにするため、口コミの内容を翻訳して分析を行った。

図 1-1 Tripadvisor にて大濠公園(福岡県の観光資源で人気第1位)の口コミからドイツ語のみ抽出した結果(一部)



(2)調査対象

Tripadvisor に掲載されている観光資源の中から、九州各県それぞれ口コミ評価上位 20 資源(2018 年 8 月 3 日時点)を調査対象とした。対象の観光資源(計 140 資源)は下表のとおり。

福岡県	1 北九州市立いのちのたび博物館 2 北九州市河内藤園藤の花見 3 南蔵院 4 宮地嶽神社 5 大濠公園 6 海の中道海浜公園 7 博多駅 8 宗像大社神宝館 9 太宰府天満宮 10 九州鉄道記念館 11 櫛田神社 12 能古島 13 柳川川下り 14 JR博多シティアミューズプラザ博多 15 筥崎宮 16 西鉄バス 17 竈門神社 18 舞鶴公園 19 関門海峡(早瀬ノ瀬戸) 20 マリンワールド 海の中道	佐賀県	1 祐徳稲荷神社 2 旧高取邸 3 佐賀県立佐賀城本丸歴史館 4 武雄市図書館 5 吉野ヶ里歴史公園 6 武雄の大楠 7 鏡山展望台 8 虹の松原 9 伊万里大川内山 10 御船山楽園 11 セツ釜 12 名護屋城跡 13 鳥栖プレミアム・アウトレット 14 旧唐津銀行 15 九州陶磁文化館 16 曳山展示場 17 唐津城 18 鳥栖スタジアム 19 呼子大橋 20 呼子の朝市	長崎県	1 長崎原爆資料館 2 長崎バイオパーク 3 長崎電気軌道 4 九十九島 5 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 6 稲佐山 7 軍艦島 8 長崎ペンギン水族館 9 展海峰 10 大瀬崎断崖 11 稲佐山展望台 12 平和公園 13 原爆落下中心地 14 グラバースカイロード 15 グラバー園 16 長崎歴史文化博物館 17 九十九島水族館海きらら 18 諏訪神社 19 雲仙地獄 20 猿岩
	1 天観峰 2 鍋ヶ滝 3 阿蘇山 4 白川水源 5 崎津天主堂 6 熊本城 7 八千代座 8 JR九州いさぶろう・しんぺい 9 水前寺成趣園 10 草千里 11 阿蘇神社 12 青井阿蘇神社 13 熊本市電(熊本市交通局) 14 道の駅阿蘇 15 SL人吉 16 大江天主堂 17 阿蘇ジオパーク 18 カドリー・ドミニオン 19 菊池溪谷 20 加藤神社		1 宇佐神宮 2 アフリカンサファリ 3 由布岳 4 大分マリンパレス水族館うみたまご 5 岡城趾 6 スギノイパレス 7 臼杵石仏 8 高崎山自然動物園 9 別府駅総合観光案内所 10 JRおおいたシティ 11 原尻の滝 12 海地獄 13 別府地獄めぐり 14 杵築城下町 15 日田豆田町商店街 16 富貴寺 17 羅漢寺 18 OPAM大分県立美術館 19 くじゅう花公園 20 熊野磨崖仏		1 天安河原 2 高千穂峡 3 鶴戸神宮 4 真名井の滝 5 日南海岸 6 天岩戸神社 7 青島 8 都井岬 9 高千穂神社 10 鬼の洗濯板 11 宮崎神宮 12 青島神社 13 堀切峠 14 イオンモール宮崎 15 飢肥城址 16 道の駅フェニックス 17 関之尾滝 18 国見ヶ丘 19 神楽殿 20 サンメッセ日南
熊本県	1 大観峰 2 鍋ヶ滝 3 阿蘇山 4 白川水源 5 崎津天主堂 6 熊本城 7 八千代座 8 JR九州いさぶろう・しんぺい 9 水前寺成趣園 10 草千里 11 阿蘇神社 12 青井阿蘇神社 13 熊本市電(熊本市交通局) 14 道の駅阿蘇 15 SL人吉 16 大江天主堂 17 阿蘇ジオパーク 18 カドリー・ドミニオン 19 菊池溪谷 20 加藤神社	大分県	1 宇佐神宮 2 アフリカンサファリ 3 由布岳 4 大分マリンパレス水族館うみたまご 5 岡城趾 6 スギノイパレス 7 臼杵石仏 8 高崎山自然動物園 9 別府駅総合観光案内所 10 JRおおいたシティ 11 原尻の滝 12 海地獄 13 別府地獄めぐり 14 杵築城下町 15 日田豆田町商店街 16 富貴寺 17 羅漢寺 18 OPAM大分県立美術館 19 くじゅう花公園 20 熊野磨崖仏	宮崎県	1 天安河原 2 高千穂峡 3 鶴戸神宮 4 真名井の滝 5 日南海岸 6 天岩戸神社 7 青島 8 都井岬 9 高千穂神社 10 鬼の洗濯板 11 宮崎神宮 12 青島神社 13 堀切峠 14 イオンモール宮崎 15 飢肥城址 16 道の駅フェニックス 17 関之尾滝 18 国見ヶ丘 19 神楽殿 20 サンメッセ日南
	1 白谷雲水峡 2 太鼓岩 3 ヤクスギランド 4 知覧特攻平和会館 5 大川の滝 6 国定公園マングローブ原生林 7 ウィルソン株 8 仙巖園 9 縄文杉 10 開聞岳 11 桜島 12 土盛海岸 13 西部林道 14 嘉例川駅 15 種子島宇宙センター 16 永田いなか浜 17 桜島フェリー 18 湯之平展望所 19 城山 20 霧島神宮				

表 1-1 調査対象の観光資源

注)2018 年 8 月 3 日時点の口コミ評価上位 20 資源
資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

(3)調査結果

①福岡県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 425 件であり、九州各県と比較すると3番目に多い投稿数であった。平均評価は 4.40 点であり、九州各県の中では4番目に高い評価であった。
- ・ 投稿数が多い＝欧米豪インバウンドがよく訪れている観光資源は福岡市周辺に集中しており、他地域にまで足を運ぶ人は多くないと考えられる。最も投稿数が多かったのは大濠公園(110 件)で、次いで櫛田神社(72 件)、博多駅(57 件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 一定の投稿数がある観光資源の中では、南蔵院の評価が 4.82 と高い。口コミの内容からその要因を分析すると、「大きな仏像(英・5点)」「間違いなく巨大な仏像(豪・5点)」のように巨大な仏像自体が魅力となっているほか、「静かで美しい場所(米・5点)」「リラックスできる素晴らしい散策(仏・5点)」といった周辺環境も魅力に繋がっていることが分かる。

【評価が低い観光資源とその要因】

- ・ 一方、能古島の評価は 4.08 に留まっている。都心に近い場所で花畑をはじめとした自然が満喫できることが魅力ではあるものの、「国際的な旅行者にはそれほど価値がない(豪・2点)」のように遠方から訪れたインバウンドにとってはわざわざ足を運ぶだけの魅力がないという意見が見られた。また、「島全体を歩いたが、かなり気味悪い。森林や砂浜でゴミや汚染が目についた(豪・1点)」との意見も挙がっていた。

図 1-2 福岡県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

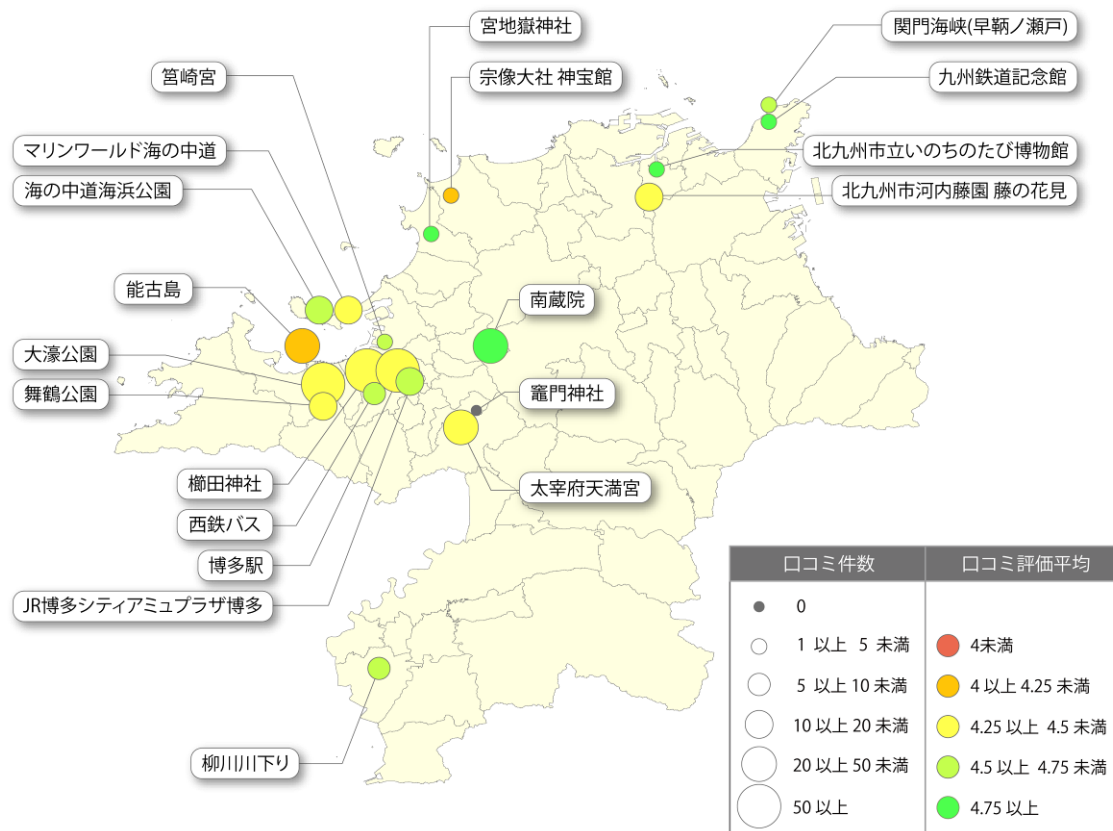


表 1-2 福岡県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	北九州市立いのちのたび博物館					1	5.00	1	5.00			2	5.00
2	北九州市河内藤園 藤の花見	2	3.00			2	5.00	7	4.57	1	5.00	12	4.42
3	南蔵院	5	4.80	1	4.00	3	4.67	8	4.88	5	5.00	22	4.82
4	宮地嶽神社					1	5.00					1	5.00
5	大濠公園	18	4.39	11	4.09	8	4.38	51	4.55	22	4.36	110	4.43
6	海の中道海浜公園	2	4.50					5	4.40	7	4.57	14	4.50
7	博多駅	9	4.44	2	5.00	4	4.25	22	4.50	20	4.20	57	4.39
8	宗像大社 神宝館	1	5.00					1	3.00	1	4.00	3	4.00
9	太宰府天満宮	6	4.33			7	4.14	18	4.22	9	4.56	40	4.30
10	九州鉄道記念館	2	5.00					1	5.00			3	5.00
11	櫛田神社	7	4.57	3	4.67	6	4.67	37	4.27	19	4.11	72	4.31
12	能古島	3	4.33	1	4.00			17	4.29	4	3.00	25	4.08
13	柳川川下り	2	4.50					4	4.75	2	4.50	8	4.63
14	JR博多シティアミュプラザ博多	1	4.00	1	4.00			8	4.50	2	5.00	12	4.50
15	筥崎宮	1	4.00	1	5.00			2	4.50			4	4.50
16	西鉄バス					1	5.00	5	4.40	2	4.50	8	4.50
17	竈門神社												
18	舞鶴公園	2	4.50			2	5.00	8	4.13	3	4.33	15	4.33
19	関門海峡(早瀬ノ瀬戸)			2	4.50			1	5.00			3	4.67
20	マリンワールド 海の中道	2	4.50			1	5.00	7	4.57	4	4.00	14	4.43

注)2018 年 8 月 3 日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

②佐賀県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 55 件であり、九州各県の中では最も投稿数が少ない。平均評価は 4.38 点であり、九州各県の中では3番目に低い評価であった。
- ・ 投稿数が 10 を超える観光資源が見られず、佐賀県を訪れる欧米豪インバウンドはまだ少ないものと思料する。最も投稿数が多かったのは伊万里大川内山(9件)で、次いで佐賀県立佐賀城本丸歴史館(7件)、九州陶磁文化会館(6件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 5件以上の投稿数がある観光資源の中では、佐賀城本丸歴史館の評価が 4.86 と高い。「復元された城は面白く、イヤホンを使って英語の解説があった(米・5点)」「ボランティアガイドが非常に精通していた(豪・5点)」「無料で多くの歴史を学んだ(米・5点)」「無料の博物館、英語を話すボランティアガイド(米・5点)」のように、入館無料であるものの、英語のガイドが充実していることが高評価の要因に繋がっているものと考えられる。

【評価が高くない観光資源とその要因】

- ・ 唐津城の評価は 3.80 に留まっているが、口コミを見ると「城は改装中のため閉鎖されていた(英・3点)」のように展示改修工事により休館中に訪問してしまった旅行者の投稿が複数あったことが原因であった。

図 1-3 佐賀県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

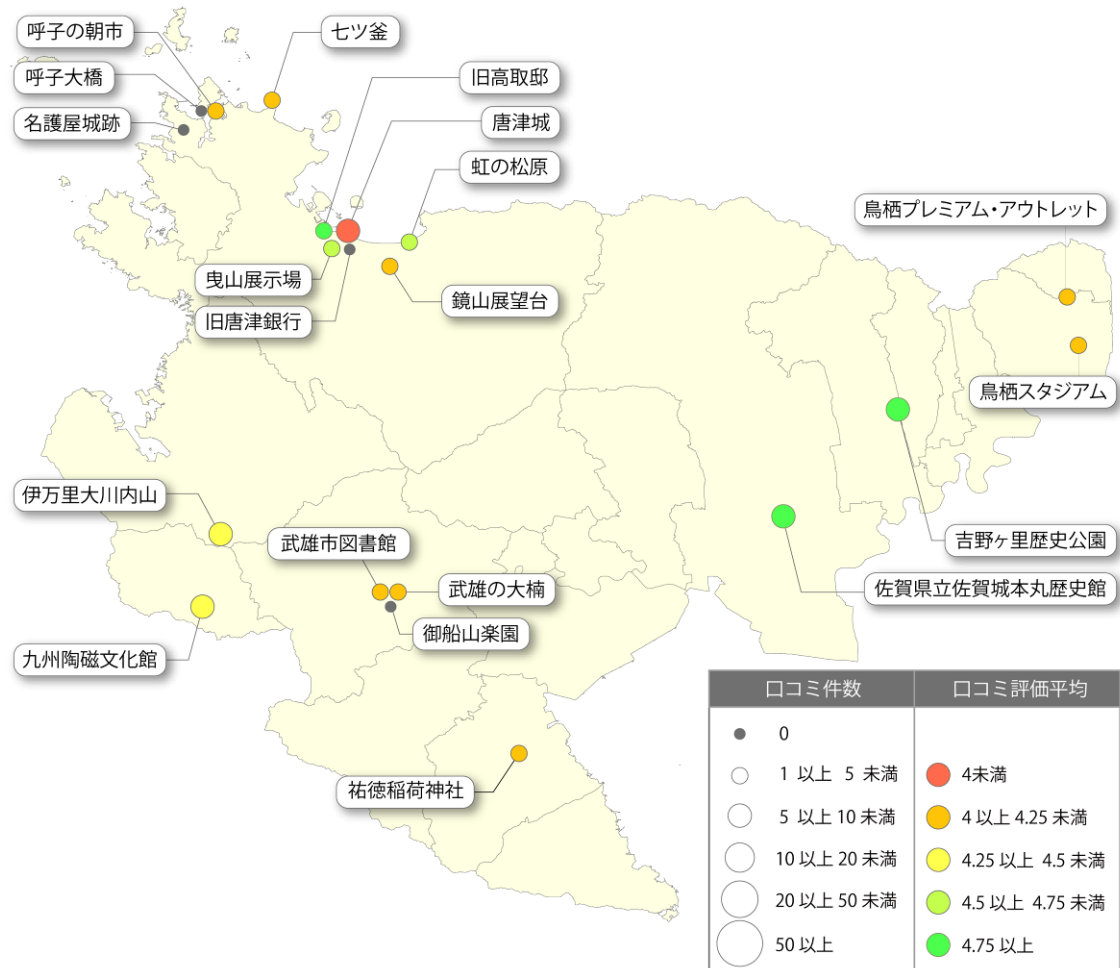


表 1-3 佐賀県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	祐徳稲荷神社	1	3.00			1	4.00	1	5.00	1	4.00	4	4.00
2	旧高取邸	2	5.00							2	5.00	4	5.00
3	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	1	5.00					5	4.80	1	5.00	7	4.86
4	武雄市図書館			1	4.00					1	4.00	2	4.00
5	吉野ヶ里歴史公園	1	4.00					1	5.00	3	5.00	5	4.80
6	武雄の大楠									1	4.00	1	4.00
7	鏡山展望台							1	4.00			1	4.00
8	虹の松原	1	5.00					1	4.00			2	4.50
9	伊万里大川内山	2	4.50	2	5.00			4	4.00	1	5.00	9	4.44
10	御船山楽園												
11	七ツ釜									1	4.00	1	4.00
12	名護屋城跡												
13	鳥栖プレミアム・アウトレット							2	4.00			2	4.00
14	旧唐津銀行												
15	九州陶磁文化館	1	4.00	2	4.00	1	5.00			2	4.50	6	4.33
16	曳山展示場							1	4.00	1	5.00	2	4.50
17	唐津城	2	4.00			1	4.00	1	4.00	1	3.00	5	3.80
18	鳥栖スタジアム							1	4.00			1	4.00
19	呼子大橋												
20	呼子の朝市									3	4.00	3	4.00

注)2018年8月3日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

③長崎県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 1,403 件であり、投稿数は九州 7 県の中で突出して多く、多数の欧米豪インバウンドが足を運んでいることが分かる。平均評価は 4.52 点であり、九州各県の中では鹿児島県に次いで 2 番目に高い評価であった。
- ・ 投稿数が多い＝欧米豪インバウンドがよく訪れている観光資源は長崎市周辺に集中しており、他地域にまで足を運ぶ人は多くないと考えられる。最も投稿数が多かったのは長崎原爆資料館(419 件)で、次いで平和公園(260 件)、グラバー園(193 件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 一定の投稿数がある観光資源の中では、長崎バイオパークの評価が 4.91 と高い。口コミの内容からその要因を分析すると、「こんなに多くの動物に近寄ったことは初めて(豪・5点)」「園内で数時間を過ごし、全ての動物にエサをあげた(豪・5点)」というように動物と触れ合える体験が大きな魅力になっていることが分かる¹。
- ・ 7 県 140 資源の中で最も投稿数が多かった長崎原爆資料館についても 4.64 と評価が高い。「博物館は私たちの感情に触れ、1945 年の長崎の人々の痛みと苦しみを感じた(独・5点)」「1945 年に何が起こったのかを完全に知ることができる(独・5点)」「長崎の爆撃だけでなく、現在の核の脅威についても触れている(仏・5点)」「生存者からの秒針を見ること、爆弾の爆発の証言を聞くことは、私たち全員が経験すべきものである(英・5点)」「戦争の原因についてのバランスのとれたプレゼンテーションは特に印象的(米・5点)」のように、原爆関連の資料が欧米人にとって見るべきものであり、かつ見たときに欧米人でも内容が分かるようになっていることが要因と考えられる。

【評価が低い観光資源とその要因】

- ・ 一方、稲佐山展望台の評価は 4.14 点と低い。「街の景色は素晴らしいが、夜 9 時以降は店舗や施設が全く開いていない。展望所への到達方法について明確な説明がなかった(豪・3点)」のように景観については評価される一方、夜の周辺環境や展望台へのアクセス方法の説明不足が指摘されている。また、「あまりにも人が多い(豪・3点)」「夕方以降は混雑している(英・3点)」のように観光客で混雑している点も要因である。

¹ 同資源への口コミ投稿は米豪の 2 カ国のみであり、英仏独においても魅力になるかどうかは不明である。

図 1-4 長崎県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

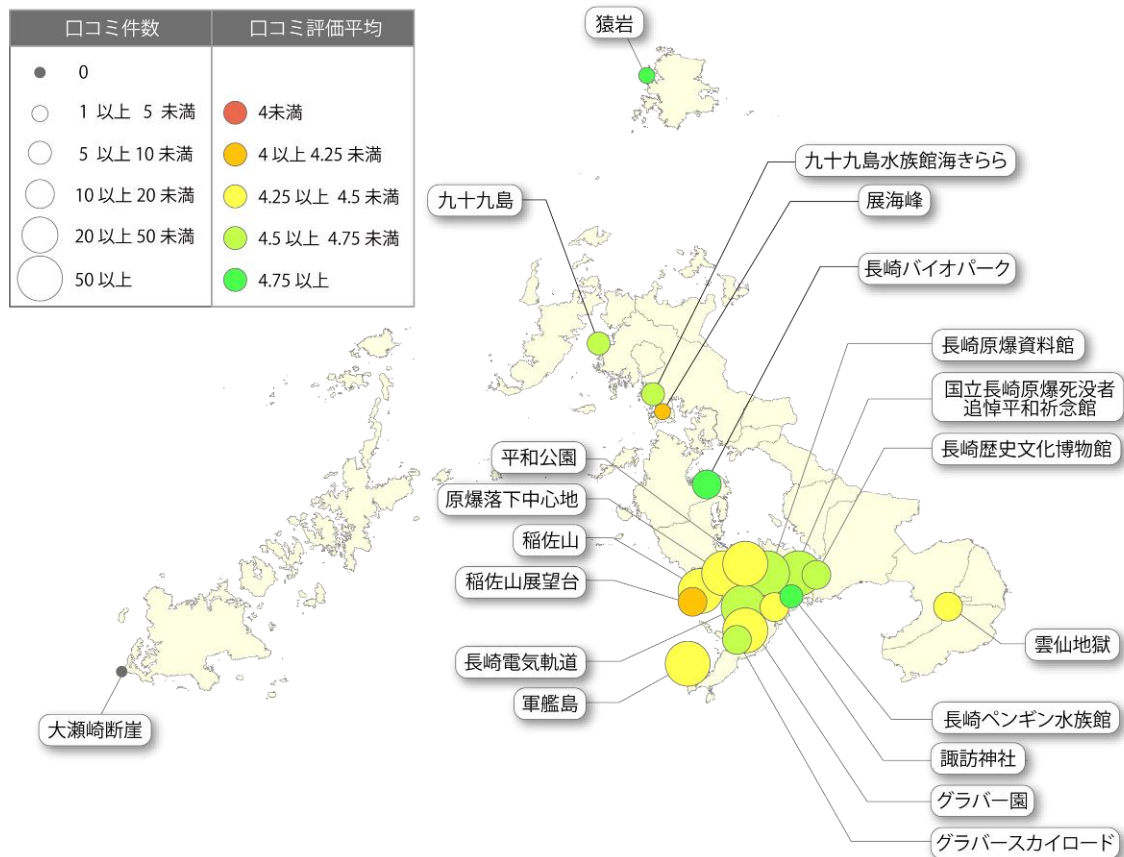


表 1-4 長崎県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	長崎原爆資料館	128	4.68	19	4.63	31	4.68	128	4.58	113	4.65	419	4.64
2	長崎バイオパーク							7	4.86	4	5.00	11	4.91
3	長崎電気軌道	34	4.62	1	4.00	8	4.38	24	4.54	24	4.75	91	4.60
4	九十九島							9	4.56			9	4.56
5	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館	13	4.85	3	4.33	5	4.20	20	4.65	13	4.69	54	4.65
6	稲佐山	31	4.29	4	4.00	7	5.00	25	4.64	35	4.46	102	4.47
7	軍艦島	19	4.42	5	3.80	9	4.22	15	3.80	37	4.68	85	4.36
8	長崎ペンギン水族館			1	5.00			6	4.83	1	4.00	8	4.75
9	展海峰							1	4.00			1	4.00
10	大瀬崎断崖												
11	稲佐山展望台	7	4.29			1	5.00	1	4.00	5	3.80	14	4.14
12	平和公園	79	4.54	8	3.38	9	4.11	98	4.52	66	4.39	260	4.45
13	原爆落下中心地	25	4.52	2	5.00	10	3.90	29	4.38	27	4.56	93	4.43
14	グラバースカイロード	6	4.50	1	5.00	1	4.00	1	4.00	7	4.71	16	4.56
15	グラバー園	64	4.45	9	4.56	19	4.53	52	4.19	49	4.45	193	4.39
16	長崎歴史文化博物館	4	4.00			2	4.50	6	4.83	2	4.50	14	4.50
17	九十九島水族館海きらら							7	4.71			7	4.71
18	諏訪神社	6	4.17	1	4.00			3	4.33	3	4.67	13	4.31
19	雲仙地獄	3	4.67	3	3.67			2	4.00	3	5.00	11	4.36
20	猿岩							2	5.00			2	5.00

注)2018年8月3日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

④熊本県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 319 件であり、九州各県と比較すると4番目に多い投稿数であった。平均評価は 4.25 点であり、九州各県の中では2番目に低い評価であった。
- ・ 投稿数が多い＝欧米豪インバウンドがよく訪れている観光資源は熊本市周辺と阿蘇地域に分散している。最も投稿数が多かったのは熊本城(161 件)で、次いで水前寺成趣園(56 件)、阿蘇山(24 件)の順であった。

【評価が高くない観光資源とその要因】

- ・ 投稿数の少ない白川水源や SL 人吉の評価は高いものの、一定の投稿数が集まっている観光資源においては評価が高いとは言えない。阿蘇山の評価は 4.04 点であり、口コミを見ると、「阿蘇山に着くまで閉鎖について知らなかった。観光の情報スタッフは言語の壁のために役に立たなかった(米・1 点)」「訪問中は霧と雨のため、山を訪れることは不可能だった(米・1 点)」というように、火山活動や悪天候によって予定していた行動ができなかったこと、代替できる観光資源がなかったり提案できるスタッフがいなかったため低評価に繋がったと考えられる。
- ・ 熊本城(4.28 点)の評価は賛否両論である。「地震の被害にもかかわらず見る価値がある(米・5 点)」「地震の被害も訪問に値する(米・5 点)」「完全に破壊された城。城とその城壁のすべての被害を見て回る価値がある(仏・2 点)」という声がある一方、「残念なことに建設現場だけ。どこでも緑の障壁と瓦礫で覆われた黒い袋。訪問する価値は無い(独・1 点)」という意見もみられた。訪問前に現状をしっかりと伝えることで、「訪問したら城が見られずがっかりした」という声を減らしていくことが求められる。

図 1-5 熊本県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

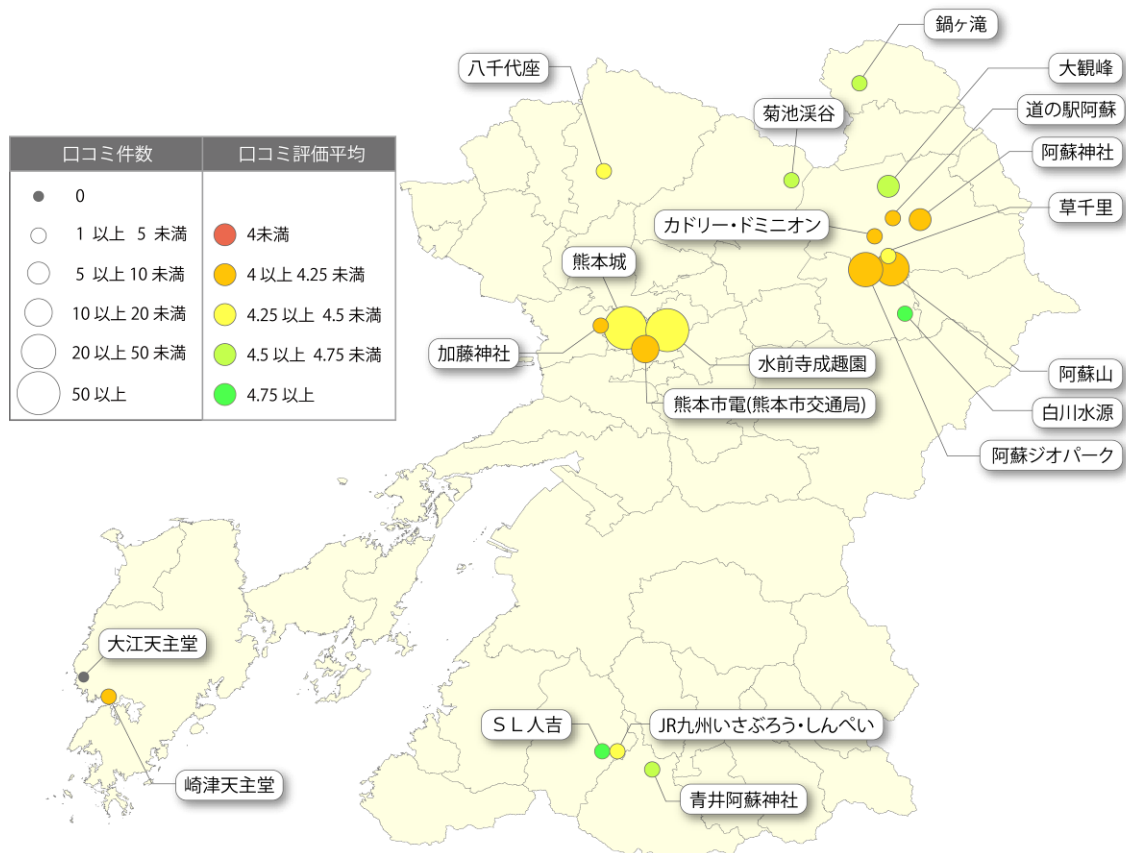


表 1-5 熊本県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	大観峰	1	4.00			1	5.00	2	4.50	4	4.50	8	4.50
2	鍋ヶ滝	2	5.00					1	4.00			3	4.67
3	阿蘇山	9	4.89	2	3.50	3	4.33	5	2.80	5	3.80	24	4.04
4	白川水源	1	5.00					1	5.00			2	5.00
5	崎津天主堂					1	4.00					1	4.00
6	熊本城	34	4.26	13	4.08	24	4.00	49	4.57	41	4.17	161	4.28
7	八千代座	1	4.00							2	4.50	3	4.33
8	JR九州いさぶろう・しんぺい					1	4.00			2	4.50	3	4.33
9	水前寺成趣園	13	4.31	6	4.50	11	4.27	16	4.13	10	4.30	56	4.27
10	草千里					2	4.50			1	4.00	3	4.33
11	阿蘇神社	1	3.00	1	5.00	1	5.00	3	3.67	1	5.00	7	4.14
12	青井阿蘇神社			1	4.00			1	5.00			2	4.50
13	熊本市電(熊本市交通局)					2	4.50	5	4.00	5	4.20	12	4.17
14	道の駅阿蘇							1	5.00	1	3.00	2	4.00
15	SL人吉					1	5.00	1	5.00	1	5.00	3	5.00
16	大江天主堂												
17	阿蘇ジオパーク	5	4.20	4	3.75	4	4.25	3	4.00	4	4.00	20	4.05
18	カドリー・ドミニオン	1	5.00			1	4.00			1	3.00	3	4.00
19	菊池溪谷							2	4.50			2	4.50
20	加藤神社			2	4.00			2	4.00			4	4.00

注)2018年8月3日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

⑤大分県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 228 件であり、九州各県と比較すると3番目に少ない投稿数であった。平均評価は 4.13 点であり、九州各県の中で最も低い評価である。
- ・ 投稿数が多い観光資源は別府温泉周辺に集中している。最も投稿数が多かったのは別府地獄めぐり(87 件)で、次いで海地獄(25 件)、高崎山自然動物園(21 件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 5件以上の投稿がある観光資源の中では、杵築城下町の評価が 5.00 と高い。「美しい町。本当に素晴らしい(仏・5点)」という街並みの評価に加え、「誰もが友好的で手助けしてくれた。人混みがなかったことが最高(英・5点)」 「建物はすべて絶妙に維持されていた。周りに人がほとんどいなかった(豪・5点)」 「城下町と着物体験は、当時の生活を視覚化するのに役立つと同時に魅力的で楽しいものだった。事前に連絡を取った全ての人々はとても素敵で親切だった(米・5点)」と、町の人々との触れ合いや人混みの少なさも大きな要因となっている。

【評価が低い観光資源とその要因】

- ・ 一方、別府地獄めぐりの評価は 3.76 点であり、他資源と比べて相対的に低評価に留まった。「お金の無駄。それぞれの地獄では5分も費やすことができない(米・1点)」という辛辣な意見がみられたが、中でも目に付いたのは「動物のための悪条件。この場所にいる動物のことを思うと悲しく怒りも生まれた(米・1点)」 「動物にとって地獄の環境(英・1点)」 「温泉はとても面白かったが、山地獄と鬼地獄の小さな動物園で動物を見たときに感じた嫌悪感で、印象は最悪になった(英・1点)」と、一部の地獄で飼育されている動物の飼育環境に失望し低評価を加えている投稿者が少なくない点である。
- ・ 日田豆田町商店街も 3.83 点と高くない。「残念なことに伝統的な感じがほとんど無く、観光客向けの店で占有されていた(豪・3点)」 「非常に観光地的な印象で、リアルを感じなかった(豪・3点)」と、観光地化している街並みには関心が高くないことが分かる。

図 1-6 大分県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

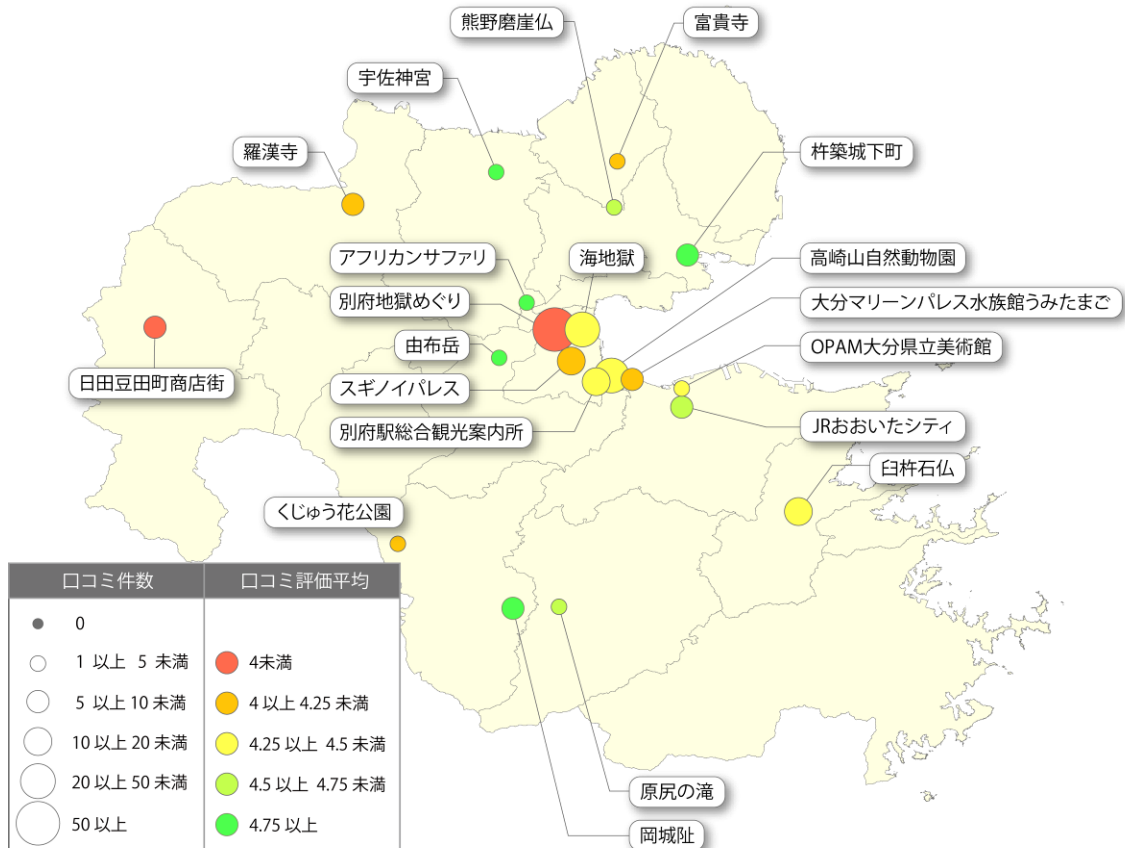


表 1-6 大分県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	宇佐神宮			1	5.00			2	4.50	1	5.00	4	4.75
2	アフリカンサファリ							1	5.00	2	5.00	3	5.00
3	由布岳	3	5.00			1	4.00					4	4.75
4	大分マリンパレス水族館うみたまご	1	4.00	1	4.00			2	5.00	1	3.00	5	4.20
5	岡城趾	2	5.00					2	5.00	1	5.00	5	5.00
6	スギノイパレス	2	2.50			1	4.00	6	4.50	1	4.00	10	4.00
7	臼杵石仏	1	4.00	3	5.00	2	4.00	4	4.00	3	4.33	13	4.31
8	高崎山自然動物園	2	4.50	3	3.67	1	5.00	10	4.50	5	4.20	21	4.33
9	別府駅総合観光案内所	1	4.00	1	5.00	3	4.33	3	5.00	10	4.20	18	4.39
10	JRおおいたシティ	3	5.00					1	4.00	2	4.00	6	4.50
11	原尻の滝							1	4.00	1	5.00	2	4.50
12	海地獄	3	4.00	4	4.25	6	4.67	7	4.43	5	4.00	25	4.32
13	別府地獄めぐり	14	3.79	6	3.67	18	3.83	29	3.62	20	3.90	87	3.76
14	杵築城下町	1	5.00			1	5.00	1	5.00	2	5.00	5	5.00
15	日田豆田町商店街	1	4.00			1	3.00	2	5.00	2	3.00	6	3.83
16	富貴寺							2	4.00			2	4.00
17	羅漢寺	1	5.00					1	3.00	3	4.00	5	4.00
18	OPAM大分県立美術館					1	4.00	2	4.50			3	4.33
19	くじゅう花公園							1	4.00	1	4.00	2	4.00
20	熊野磨崖仏			1	5.00			1	4.00			2	4.50

注)2018 年 8 月 3 日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

⑥宮崎県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 198 件であり、投稿数は九州7県の中で佐賀県に次いで少ない。平均評価は 4.41 点であり、九州各県の中では3番目に高い評価であった。
- ・ 投稿数が多い＝欧米豪インバウンドがよく訪れている観光資源は宮崎市から日南市にかけての沿岸エリアと高千穂峡周辺の二地域に分散している。最も投稿数が多かったのは高千穂峡(48 件)で、次いで青島(29 件)、青島神社(19 件)、鶴戸神宮(18 件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 一定の投稿数がある観光資源の中では、鶴戸神宮が 4.67 点と高評価であった。「階段と小さな赤い橋が海の中で美しく素晴らしい寺院(仏・5点)」「美しい海岸線に沿って歩いていくうちに訪れる価値のある建物や鳥居などがある(米・5点)」「岩の上の小さな水たまりに小さな石を投げてください(英・5点)」「息をのむ眺め、古くて歴史的な魅力がある寺院(米・5点)」のように、神社の歴史、周辺の景観、絶壁からの「運玉投げ」という特別な体験といった魅力が重層的に高評価の要因となっていることが考えられる。
- ・ 次いで日南海岸も 4.60 点と評価が高い。「素晴らしい沿岸のドライブだった(英・5点)」「晴れた日の美しい景色(英・5点)」「美しい岩場の海岸(独・5点)」のように景観が高評価の要因となっている。
- ・ 天安河原の投稿数は9件と多くはないが、評価は投稿者全員が5点満点をつけており非常に評価が高い。口コミの内容を分析すると「今まで日本で見た中で最も美しいもの(豪・5点)」「非常に霊的な自然の雰囲気とそこに着くための美しい散歩(仏・5点)」「神社への美しい自然のハイキング(米・5点)」のように神秘的な風景・雰囲気を歩きながら体感できることが評価に繋がっているほか、「歴史、伝承、創造性(米・5点)」「創造的な方法で積み重ねられた石の多さは、これまでに見たことがないもの(豪・5点)」「洞窟の中のユニークな神社(豪・5点)」と、一帯に広がる石積みの様子が創造的でユニークであるという評価もあった。

図 1-7 宮崎県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

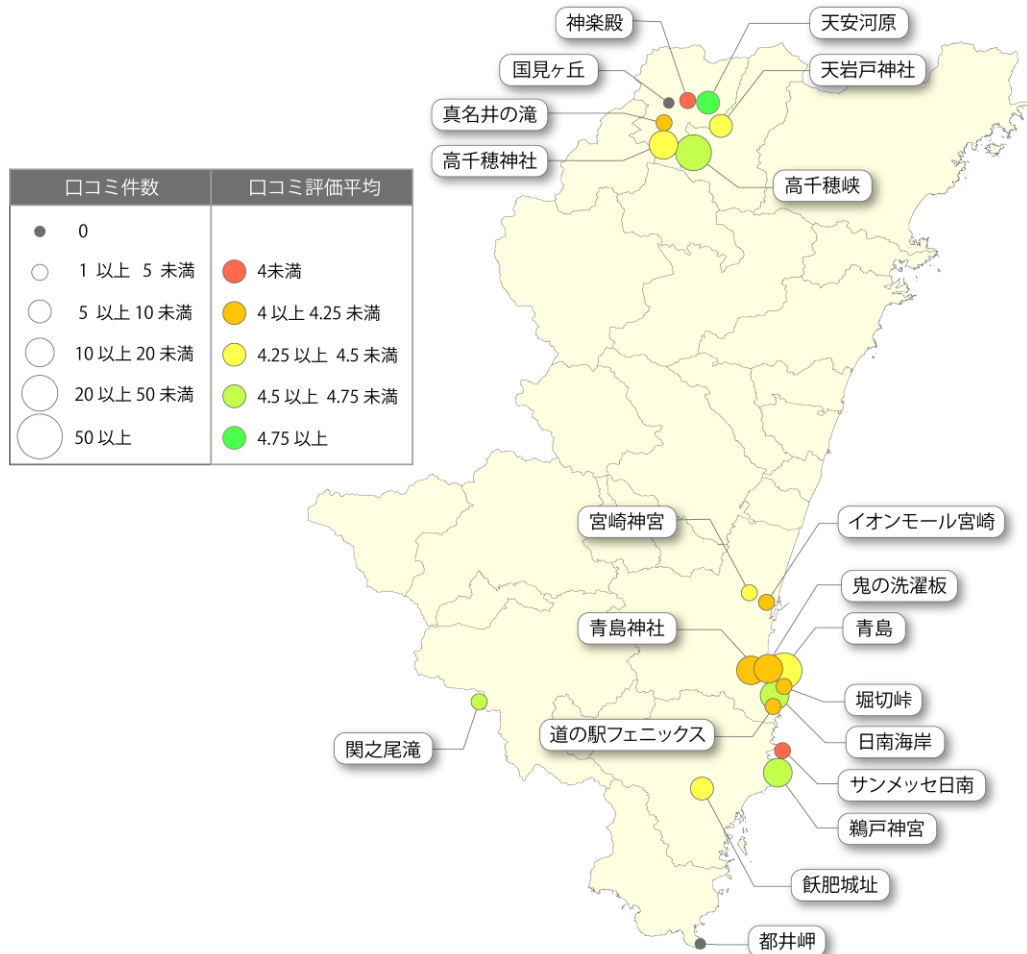


表 1-7 宮崎県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	天安河原					1	5.00	4	5.00	4	5.00	9	5.00
2	高千穂峡	3	4.33	3	5.00	10	4.40	17	4.53	15	4.80	48	4.60
3	鶴戸神宮	2	4.50	1	5.00	1	5.00	9	4.78	5	4.40	18	4.67
4	真名井の滝					1	3.00	3	4.33			4	4.00
5	日南海岸	4	5.00	1	5.00			3	4.33	2	4.00	10	4.60
6	天岩戸神社			1	5.00	1	4.00	3	4.33	1	4.00	6	4.33
7	青島	7	4.29	1	5.00	3	4.67	11	4.18	7	4.29	29	4.31
8	都井岬												
9	高千穂神社	1	4.00	1	5.00	3	4.33	6	4.33	3	4.67	14	4.43
10	鬼の洗濯板	1	4.00	1	5.00	2	4.50	5	3.60	2	4.50	11	4.09
11	宮崎神宮	1	5.00					2	4.00	1	4.00	4	4.25
12	青島神社	5	4.00	1	5.00	4	4.50	5	4.00	4	4.25	19	4.21
13	堀切峠	1	4.00							1	4.00	2	4.00
14	イオンモール宮崎	1	5.00					3	3.67			4	4.00
15	飢肥城址	1	5.00					8	4.38			9	4.44
16	道の駅フェニックス							1	4.00	2	4.00	3	4.00
17	関之尾滝	1	4.00							1	5.00	2	4.50
18	国見ヶ丘												
19	神楽殿					1	3.00	1	4.00	1	4.00	3	3.67
20	サンメッセ日南	2	4.50					1	2.00			3	3.67

注)2018年8月3日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

⑦鹿児島県

【投稿数と平均評価】

- ・ 調査対象 20 資源の合計投稿数は 465 件であり、投稿数は九州7県の中で長崎県に次いで多い。平均評価は 4.58 点であり、九州7県の中で最も高い評価であった。
- ・ 投稿数が多い観光資源は鹿児島市周辺と屋久島の二地域に分散しているほか、薩摩半島へと足を運ぶ欧米豪インバウンドも少なくない。最も投稿数が多かったのは桜島(137 件)で、次いで仙巖園(80 件)、桜島フェリー(50 件)、白谷雲水峡(48 件)の順であった。

【評価が高い観光資源とその要因】

- ・ 一定の投稿数がある観光資源の中では、白谷雲水峡が 4.90 点と評価が高い。口コミから高評価の要因を分析すると、「息を奪う神秘的な光景(英・5点)」「地球上で最も美しい場所！(米・5点)」のように風景に感動するだけでなく、「現実を超えた雰囲気の良いハイキング(仏・5点)」「日本で一番暑い夏に行ったが、この渓谷ではとても涼しく、楽しい散歩だった(豪・5点)」というように神秘的な景観を歩きながら体感できるということが魅力に繋がっていることが分かる。さらに、「雨の中のハイキング。神秘的な雰囲気に加わった森の中に濃い霧(独・5点)」という意見もあり、悪天候がマイナス評価に繋がっていた阿蘇山とは異なり、雨の景観も神秘的な雰囲気を醸し出す一つの材料として評価されている点も興味深い。
- ・ 鹿児島市周辺では桜島(4.55 点)の評価が高い。「安全な火山の訪問(米・5点)」「噴火の機会がある。これは本当に素晴らしい経験。ぜひ傘を持って！(英・5点)」のように噴火活動が間近で体感できるという珍しさが高評価の一因であるが、「車で島の火山を回り、温泉を楽しむことができる(豪・5点)」「美しい風景。火山の周りをサイクリング(仏・5点)」「無料の足湯付きの美しい敷地。火山の端にある静かな小さな町で、重要スポットを観光するバスがある(仏・5点)」「展望台の周りの公園からは印象的な山々を見ることができる(米・5点)」のように、ドライブ・サイクリングスポットとしても人気である点、無料の足湯や周遊バスの存在など利便性が高い点も高評価に繋がっているものと考えられる。

【評価が低い観光資源とその要因】

- ・ 知覧特攻平和会館の評価は 4.19 点に留まっている。「特攻の歴史に興味があったが、展示物を見ることができても、日本語が分からなければその意味が全く分からなかった(英・1点)」「博物館を本当に楽しみにしていたが、日本語以外の言語は何もないので、見ているものを理解することは不可能だった(米・1点)」のように、興味はあるものの訪問しても理解できなかったため低い評価になっているようである。「この博物館の全てが必見。幸いなことに、日本人の友人が内容を翻訳して十分に説明してくれた(豪・5点)」という意見もあり、欧米人向けにもしっかりと内容が説明できる資料やガイドを設置すれば評価は高まることが見込まれる。

図 1-8 鹿児島県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(5カ国計・平均)

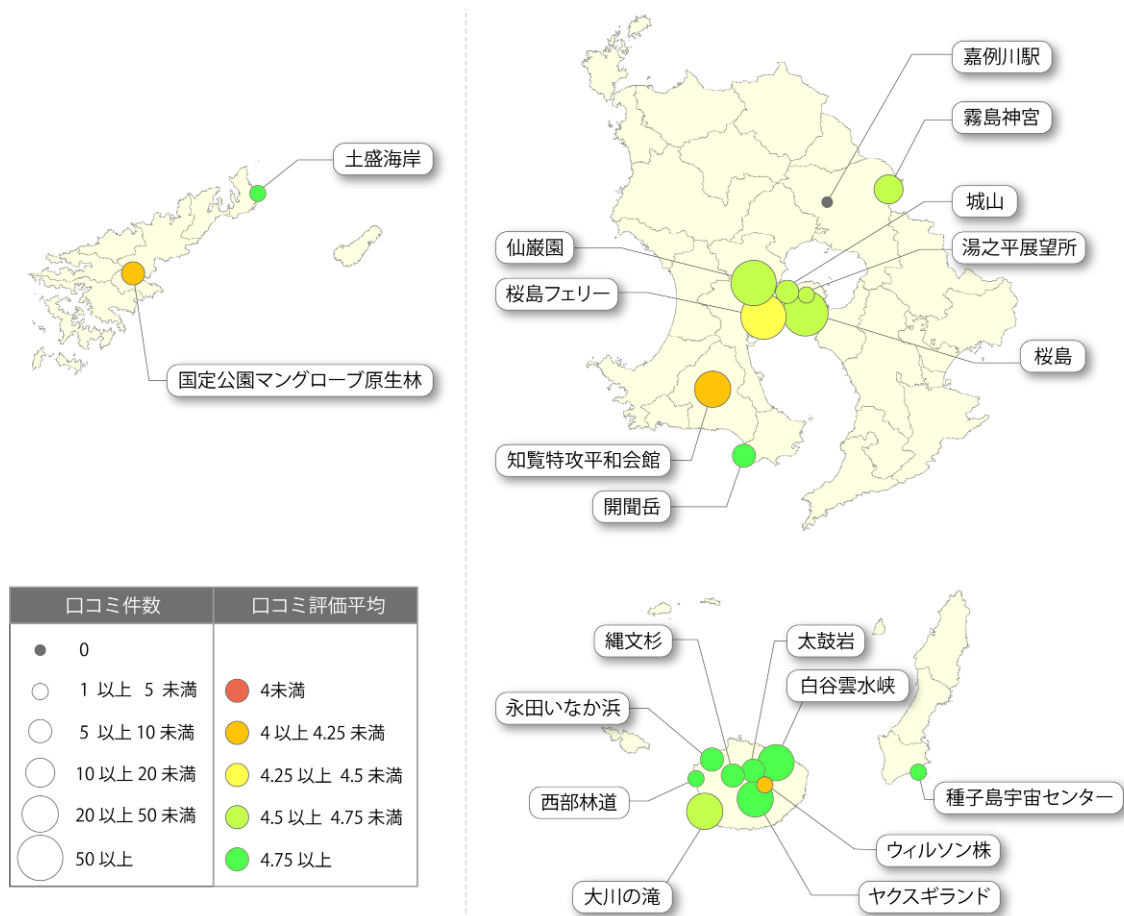


表 1-8 鹿児島県内の上位 20 資源における投稿数と平均評価(国別)

順位	観光資源	イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア		欧米豪5カ国	
		件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価	件数	平均評価
1	白谷雲水峡	6	5.00	3	5.00	13	4.92	12	4.83	14	4.86	48	4.90
2	太鼓岩	1	5.00					4	5.00			5	5.00
3	ヤクスギランド	4	4.75	5	5.00	10	4.90	11	4.82	8	4.63	38	4.82
4	知覧特攻平和会館	9	4.11	1	4.00	3	3.67	14	4.07	5	5.00	32	4.19
5	大川の滝	4	4.25	1	5.00	5	4.40	5	4.80	6	4.50	21	4.52
6	国定公園マングローブ原生林	2	4.00					3	4.33			5	4.20
7	ウィルソン株					2	4.00					2	4.00
8	仙巖園	18	4.61	1	4.00	19	4.37	29	4.41	13	4.77	80	4.50
9	縄文杉	2	5.00	1	5.00	3	4.67	2	4.50			8	4.75
10	開聞岳	1	5.00	1	5.00	2	5.00	1	5.00	1	5.00	6	5.00
11	桜島	30	4.53	7	4.29	25	4.44	39	4.51	36	4.72	137	4.55
12	土盛海岸	2	5.00					1	5.00			3	5.00
13	西部林道							1	5.00	1	5.00	2	5.00
14	嘉例川駅												
15	種子島宇宙センター							1	5.00	1	5.00	2	5.00
16	永田いなか浜			1	5.00	1	5.00	3	4.67	1	5.00	6	4.83
17	桜島フェリー	9	4.56	2	4.50	7	4.57	15	4.47	17	4.41	50	4.48
18	湯之平展望所					1	4.00			1	5.00	2	4.50
19	城山	1	5.00			2	4.50	1	5.00	2	4.00	6	4.50
20	霧島神宮	3	4.67	1	5.00	2	5.00	3	4.67	3	4.33	12	4.67

注)2018年8月3日時点

資料)Tripadvisor 検索結果をもとに九経調作成

2. 「FF-Data」を活用した行動経路分析

インバウンドに関する新たなデータとして、2018 年に国土交通省が「FF-Data(訪日外国人データ)」の公開を開始した。これは、既存の統計である国土交通省「国際航空旅客動態調査」や観光庁「訪日外国人消費動向調査」等を組み合わせて作成されたデータであり、これまで高額なビッグデータを購入しなければ分析が困難であったインバウンドの訪日旅行中の行動経路や各立寄先での滞在日数等の解析を低コストで実施できるものである²。

本節では、FF-Data を活用することで東アジアの旅行者と比べて滞在日数が長く広範囲に旅行していると考えられる欧米豪インバウンドの行動実態について明らかにする。

(1) 調査方法

国土交通省が公開する FF-Data の貸出用データベースを活用し、九州を訪れた対象5カ国旅行者の行動分析を行った。

現在、FF-Data は 2014 年から 2016 年までの3年間分のデータが公開されているため、九州を訪れる欧米豪インバウンドの数が少ない現状を鑑み、3年間分のデータを統合して集計した。

(2) 調査内容

①九州訪問前後の行動経路、②九州内での行動経路の2点について調査を行った。具体的には、日本入国から出国までの行動経路を都道府県レベルで整理し、旅行中に九州7県のいずれかに立ち寄ったサンプルのみを抽出した。対象5カ国ごとの行動経路分析を行ったところ、国ごとの行動経路に大きな違いは見られなかったため、欧米豪全体での行動経路分析もあわせて行っている。

なお、FF-Data のサンプルには留学をはじめとする旅行者以外のデータも含まれている。本調査では旅行者の動向を調査することが目的であるため、国内滞在日数が 31 日を超えるサンプルについては対象から除外した。以上の条件を設定した結果、5カ国のサンプル数は以下の通りとなった。

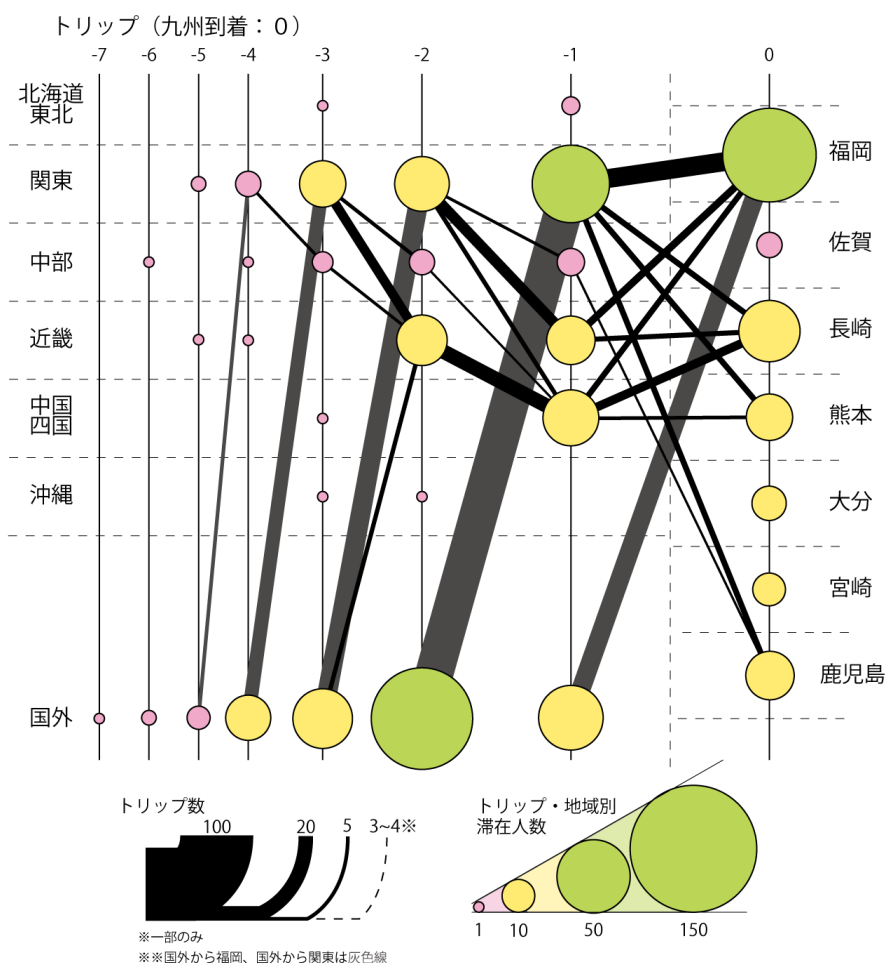
イギリス：153、フランス：109、ドイツ：151、アメリカ：550、オーストラリア：121

² 国土交通省 HP(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_fr_000022.html)より無料で入手可能。なお、詳細な分析に用いるデータについては、同省よりデータの貸与を受ける必要があるが、これも無料で借り受けることができる。

(3)九州訪問前後の行動経路

■分析結果の見方

- ・ グラフは、旅行者が日本に入国してから九州に最初に立ち寄るまでの行程を表している。
- ・ 丸の色と大きさに当該地域での滞在人数を、線の太さでトリップ(移動)の数を表している。なお、グラフの見やすさを確保するため一定以下の移動数については線を記していない(以下のグラフでは、トリップ数が5未満のものは線を非表示にしている)。
- ・ 横方向に移動の流れを表している。右端のトリップ「0」が九州到着時点であり、一つ左の「-1」が九州訪問前に最後に立ち寄った地域、その左の「-2」がその前に立ち寄った地域というように順に示している。行程はグラフ最下部の「国外」から始まり、次のトリップで日本の各地に入国し、順に日本各地を移動し、最終的にトリップ「0」で九州に到着している。
- ・ 左側の軸と右側の軸は高さが異なり、トリップ「-7」から「-1」までは左軸(九州以外の日本各地+国外)、トリップ「0」のみが右軸(九州7県)に基づいている。
- ・ 九州を最後に出発してから日本を出国するまでの流れはこの逆である。



①イギリス(N=153)

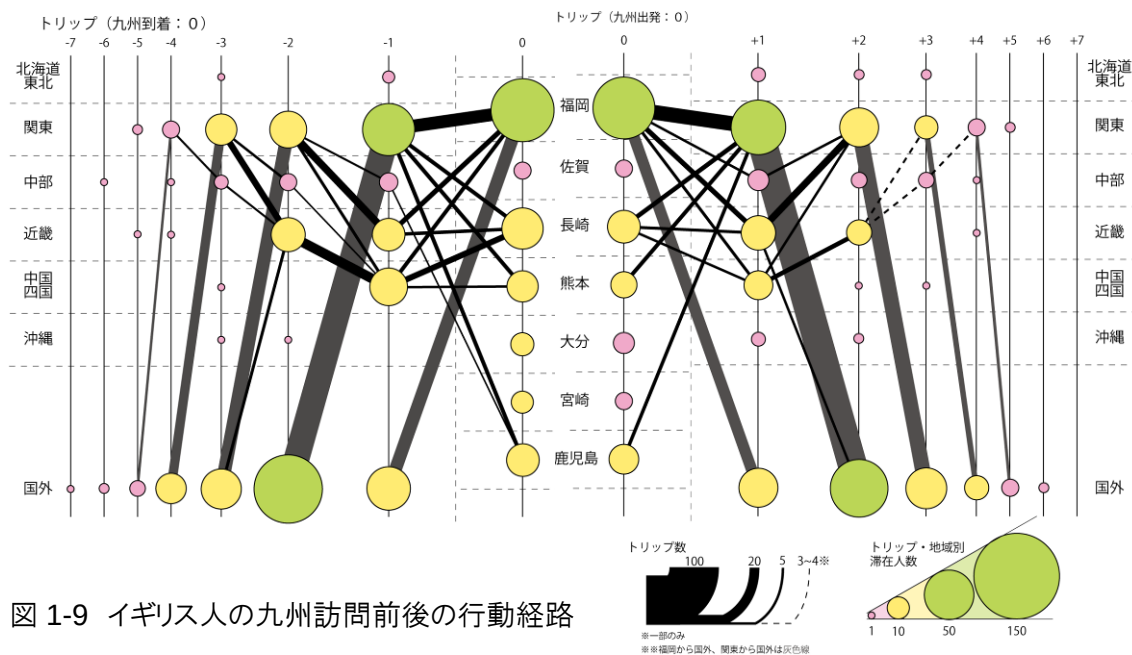


図 1-9 イギリス人の九州訪問前後の行動経路

【国内でのトリップ数】

- ・ 入国地から九州到着までの総トリップ数は 222、九州出発から出国地までの総トリップ数は 206 で、合計 428トリップであった。
- ・ 九州との移動を除いたトリップ数は 122トリップであり、1人あたりの九州外での平均トリップ数は 0.80 となった。

【九州の玄関口】

- ・ 九州到着／出発時の玄関口として最も多かったのが福岡県で全体の 50.0%と半数を占めている。次いで長崎県(17.0%)、鹿児島県(11.4%)、熊本県(9.5%)の順に続いている。
- ・ 九州への直接入国は 30 サンプル、九州からの直接出国は 31 サンプルで、全体の 19.9% が九州で出入国を行っていた。

【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ 最もポピュラーなルートが「国外－関東－九州－関東－国外」という行程であった。出入国に便利な成田・羽田空港を利用し関東地方で滞在した後(もしくは関東地方を通過して)九州を訪問するというパターンである。

【九州外でのトリップ】

- ・ 九州訪問時にあわせて訪問した場所は関東が 72.9%と最も多く、次いで近畿 28.1%、中国・四国 16.0%、中部 12.7%の順に続いている。

②フランス(N=109)

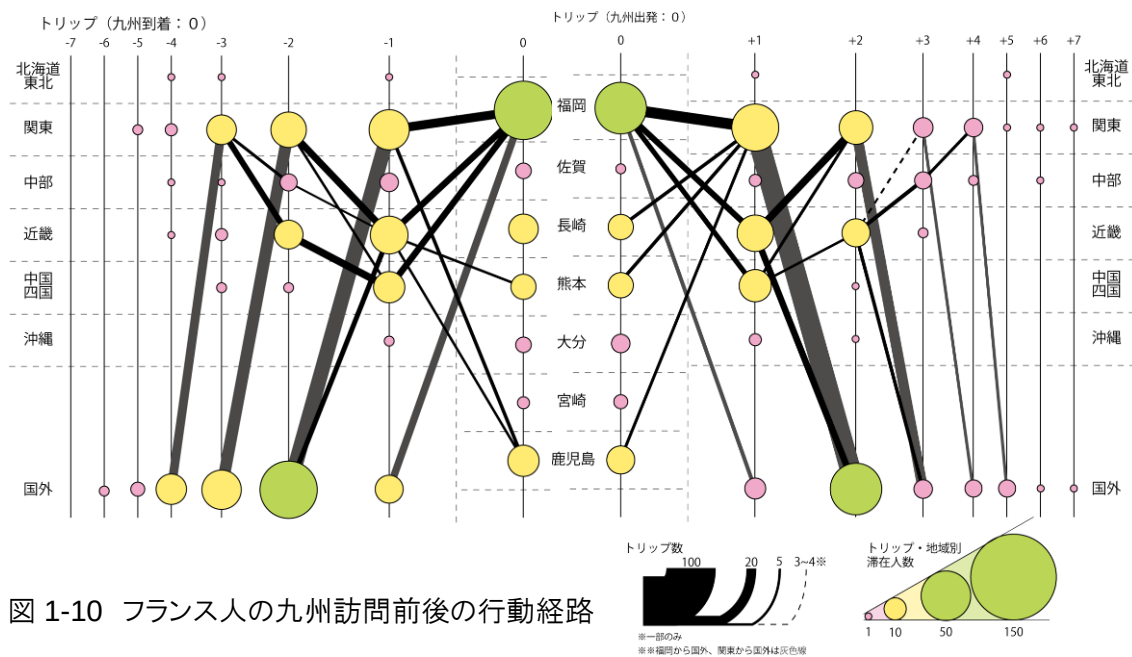


図 1-10 フランス人の九州訪問前後の行動経路

【国内でのトリップ数】

- ・ 入国地から九州到着まで、九州出発から出国地までの総トリップ数はいずれも 177 で、合計 354 トリップであった。
- ・ 九州との移動を除いたトリップ数は 136 トリップであり、1 人あたりの九州外での平均トリップ数は 1.25 となった。

【九州の玄関口】

- ・ 九州到着／出発時の玄関口として最も多かったのが福岡県で全体の 53.7%と半数超を占める。次いで鹿児島県(14.2%)、長崎県(12.8%)、熊本県(10.6%)の順に続いている。
- ・ 九州への直接入国は 16 サンプル、九州からの直接出国は 9 サンプルで、全体の 11.5%が九州で出入国を行っていた。

【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ 最もポピュラーなルートが「国外－関東－九州－関東－国外」という行程であった。出入国に便利な成田・羽田空港を利用し関東地方で滞在した後(もしくは関東地方を通過して)九州を訪問するというパターンである。

【九州外でのトリップ】

- ・ 九州訪問時にあわせて訪問した場所は関東が 77.1%と最も多く、次いで近畿 43.6%、中国・四国 21.1%、中部 14.7%の順に続いている。

③ドイツ(N=151)

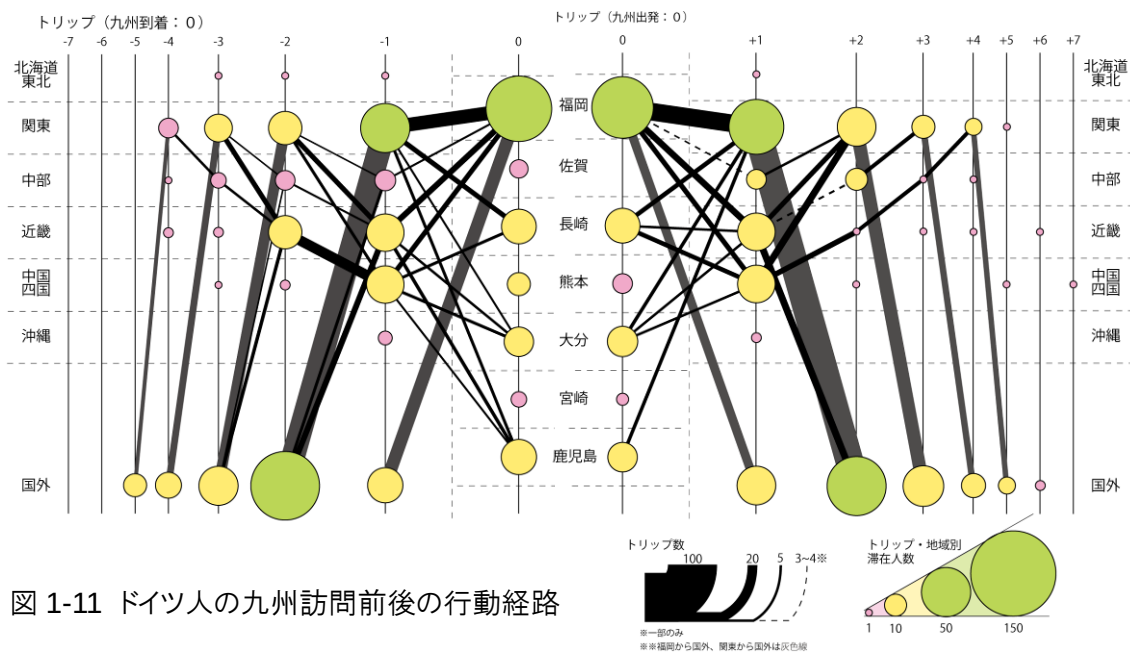


図 1-11 ドイツ人の九州訪問前後の行動経路

【国内でのトリップ数】

- ・ 入国地から九州到着までの総トリップ数は 218、九州出発から出国地までの総トリップ数は 238 で、合計 456トリップであった。
- ・ 九州との移動を除いたトリップ数は 154トリップであり、1人あたりの九州外での平均トリップ数は 1.02 となった。

【九州の玄関口】

- ・ 九州到着／出発時の玄関口として最も多かったのが福岡県で全体の 53.6%と半数超を占める。次いで長崎県(14.9%)、鹿児島県(12.9%)、大分県(11.3%)の順に続いている。
- ・ 九州への直接入国は 26 サンプル、九州からの直接出国は 19 サンプルで、全体の 14.9% が九州で出入国を行っていた。

【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ 最もポピュラーなルートが「国外－関東－九州－関東－国外」という行程であった。出入国に便利な成田・羽田空港を利用し関東地方で滞在した後(もしくは関東地方を通過して)九州を訪問するというパターンである。

【九州外でのトリップ】

- ・ 九州訪問時にあわせて訪問した場所は関東が 71.2%と最も多く、次いで近畿 35.4%、中国・四国 21.5%、中部 17.2%の順に続いている。

④アメリカ(N=550)

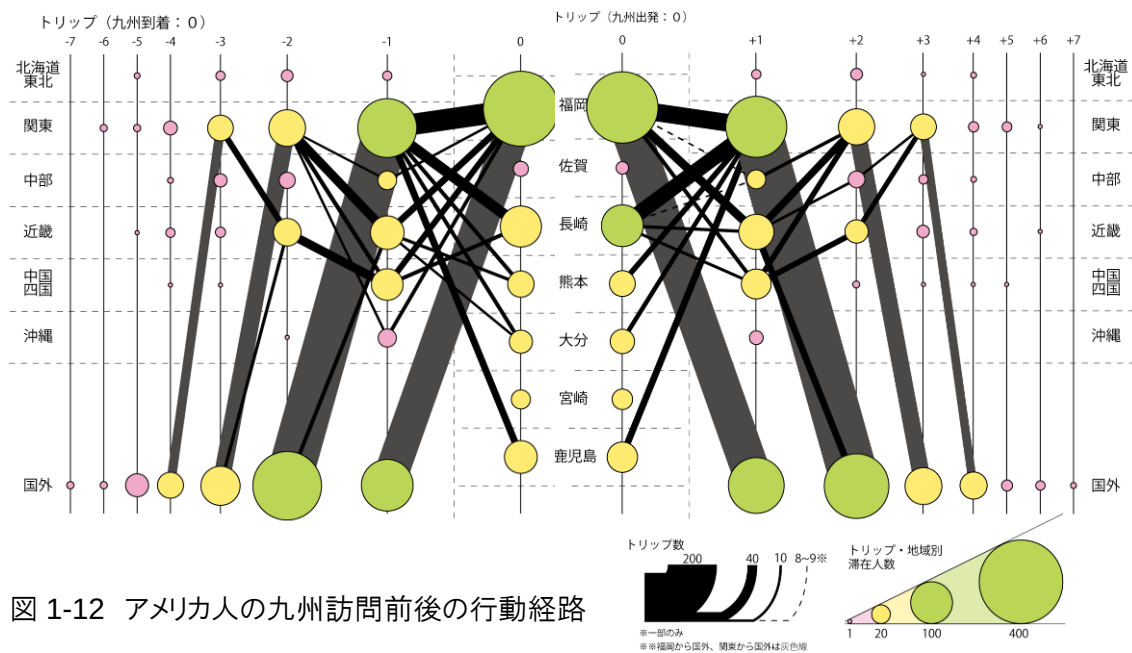


図 1-12 アメリカ人の九州訪問前後の行動経路

【国内でのトリップ数】

- ・ 入国地から九州到着までの総トリップ数は 636、九州出発から出国地までの総トリップ数は 586 で、合計 1,222トリップであった。
- ・ 九州との移動を除いたトリップ数は 122トリップであり、1人あたりの九州外での平均トリップ数は 0.22 となった。

【九州の玄関口】

- ・ 九州到着／出発時の玄関口として最も多かったのが福岡県で全体の 54.6%と半数超を占める。次いで長崎県(17.7%)、鹿児島県(10.0%)、熊本県(6.8%)の順に続いている。
- ・ 九州への直接入国は 153 サンプル、九州からの直接出国は 177 サンプルで、全体の 30.0%が九州で出入国を行っていた。

【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ 最もポピュラーなルートが「国外－関東－九州－関東－国外」という行程であった。出入国に便利な成田・羽田空港を利用し関東地方で滞在した後(もしくは関東地方を通過して)九州を訪問するというパターンである。

【九州外でのトリップ】

- ・ 九州訪問時にあわせて訪問した場所は関東が 61.0%と最も多く、次いで近畿 21.4%、中国・四国 10.6%、中部 8.2%の順に続いている。

⑤ オーストラリア (N=121)

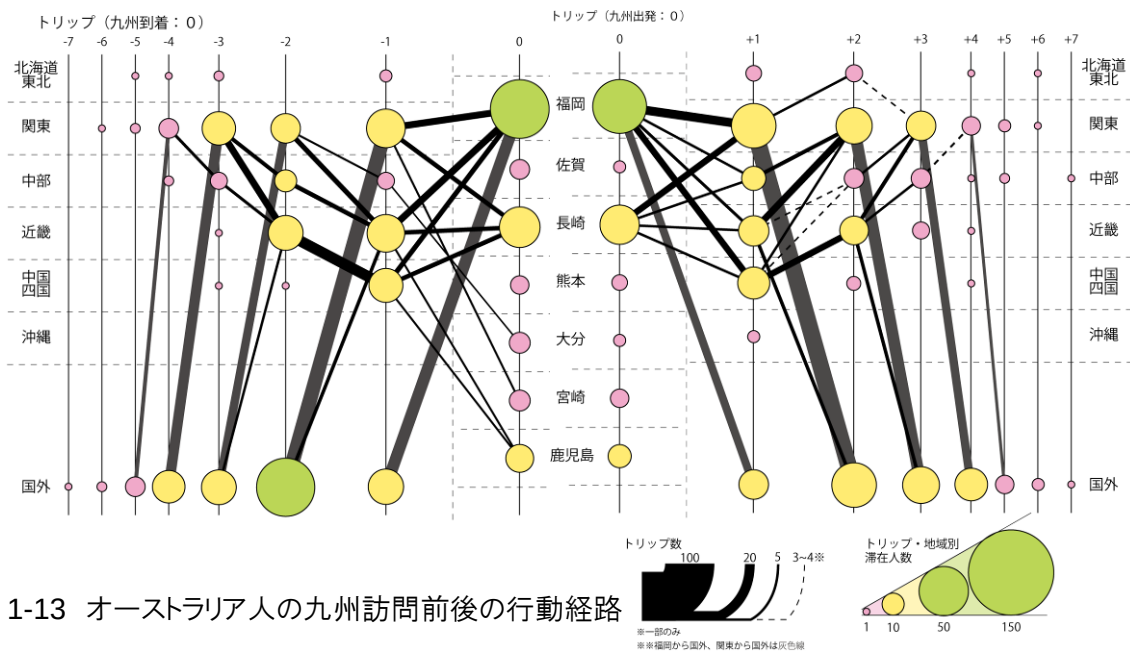


図 1-13 オーストラリア人の九州訪問前後の行動経路

【国内でのトリップ数】

- ・ 入国地から九州到着までの総トリップ数は 201、九州出発から出国地までの総トリップ数は 220 で、合計 421トリップであった。
- ・ 九州との移動を除いたトリップ数は 179トリップであり、1人あたりの九州外での平均トリップ数は 1.48 となった。

【九州の玄関口】

- ・ 九州到着／出発時の玄関口として最も多かったのが福岡県で全体の 51.7%と半数超を占める。次いで長崎県(26.0%)、鹿児島県(9.1%)、宮崎県(4.5%)の順に続いている。
- ・ 九州への直接入国は 26 サンプル、九州からの直接出国は 18 サンプルで、全体の 18.2% が九州で出入国を行っていた。

【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ 最もポピュラーなルートが「国外－関東－九州－関東－国外」という行程であった。出入国に便利な成田・羽田空港を利用し関東地方で滞在した後(もしくは関東地方を通過して)九州を訪問するというパターンである。

【九州外でのトリップ】

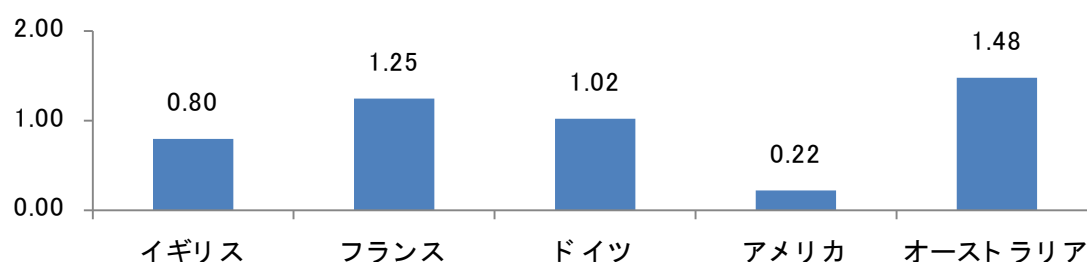
- ・ 九州訪問時にあわせて訪問した場所は関東が 74.8%と最も多く、次いで近畿 40.9%、中部 23.1%、中国・四国 21.5%の順に続いている。

⑥5カ国の比較

【国内でのトリップ数】

- ・ 1人あたりの九州外での平均トリップ数を比較すると、アメリカだけが際立って少ないことが分かる。これは、アメリカ人の訪九州旅行が他の4カ国と比べて地方間の周遊が少ないことを意味している。

図 1-14 国別にみた九州外での平均トリップ数



注)「九州外」とは、「国外一出入国地域」と「九州外一九州」のトリップを除いた「(国内)九州外一(国内)九州外」のトリップを指す

【九州の玄関口】

- ・ いずれの国でも半数以上が福岡県を九州の玄関口として利用している。トップ3も全ての国で福岡・長崎・鹿児島県の3県が占めている。なお、オーストラリアは4分の1以上が長崎県を玄関口に利用しており、他の4カ国と比べて長崎県の割合が高いことが分かる。また、ドイツでは大分県が玄関口となっている割合が他の4カ国と比べて高いことも特徴的である。

表 1-9 国別にみた九州の玄関口

(単位: %)

イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア	
福岡県	50.0	福岡県	53.7	福岡県	53.6	福岡県	54.6	福岡県	51.7
長崎県	17.0	鹿児島県	14.2	長崎県	14.9	長崎県	17.7	長崎県	26.0
鹿児島県	11.4	長崎県	12.8	鹿児島県	12.9	鹿児島県	10.0	鹿児島県	9.1
熊本県	9.5	熊本県	10.6	大分県	11.3	熊本県	6.8	宮崎県	4.5

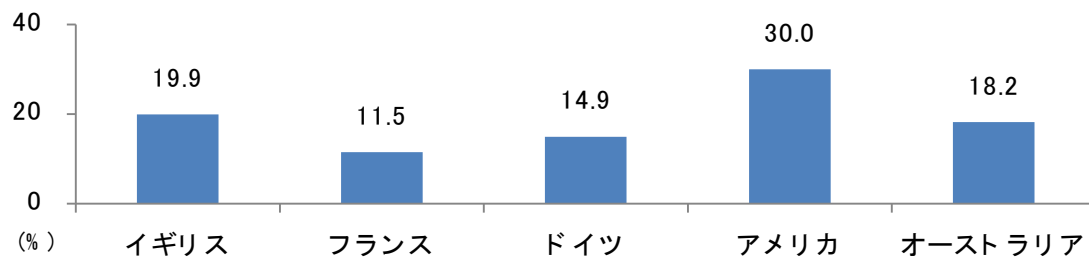
【訪九州が含まれる主要なルート】

- ・ いずれの国でも「国外一関東一九州一関東一国外」という行程が最も利用されており、現状では欧米豪の訪九州インバウンドのゴールデンルートとなっていることが分かる。

【九州での直接出入国】

- ・九州での直接出入国率を国別にみると、アメリカが突出して高いことが分かる。直航便が少ない欧米豪の場合、仁川や上海、香港などの近隣のハブ空港を利用して九州へと入国するケースがほとんどであると考えられる。

図 1-15 国別にみた九州での直接出入国率



【九州外でのトリップ】

- ・九州訪問時にあわせて訪問した場所はいずれの国でも関東・近畿が上位を占めている。これは、出入国に成田・羽田・関空を利用する欧米豪インバウンドが圧倒的に多く、両地域を経由して九州を訪問しているためである。
- ・沖縄への訪問率はいずれの国でも低く、九州と沖縄をあわせて訪問する欧米豪インバウンドはほとんどいないのが現状である。北海道・東北への訪問率も同様に低いですが、オーストラリアだけは 8.3%と高くなっている。

表 1-10 国別にみた他地域への訪問率

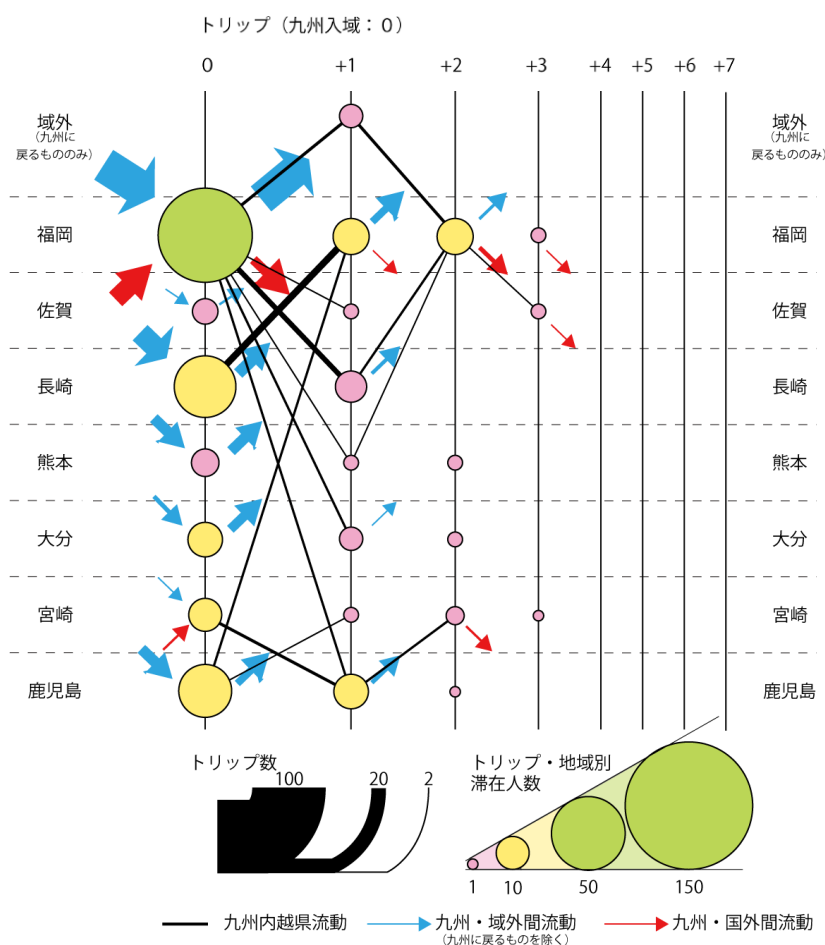
(単位: %)

	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	オーストラリア
北海道・東北	3.9	2.3	2.3	3.2	8.3
関東	72.9	77.1	71.2	61.0	74.8
中部	12.7	14.7	17.2	8.2	23.1
近畿	28.1	43.6	35.4	21.4	40.9
中国・四国	16.0	21.1	21.5	10.6	21.5
沖縄	2.6	2.8	2.0	2.8	1.2

(4) 九州内での行動経路

■ 分析結果の見方

- ・ グラフは、旅行者が最初に九州に到着してから最後に九州を出発するまでの行程を表している。最後に九州を出発するまでをカウントしているため、途中で九州外に移動した後に九州に戻ってくるケースはこのグラフに含まれる。
- ・ 丸の色と大きさで当該県(地域)での滞在人数を、線の太さでトリップ(移動)の数を表している。なお、グラフの見やすさを確保するため一定以下の移動数については線を記していない(以下のグラフでは、トリップ数が2未満のものは線を非表示にしている)。
- ・ 横方向に移動の流れを表している。左端のトリップ「0」が九州到着時点であり、一つ左の「+1」が次に立ち寄った県(地域)、その左の「+2」がその次に立ち寄った県というように順に示している。
- ・ 九州との入出域は赤と青の矢印で表している。赤は国外との入出域であり、つまり九州での直接出入国を表している。青は国内他地域との入出域であり、いずれも線の太さがトリップ数を表している。

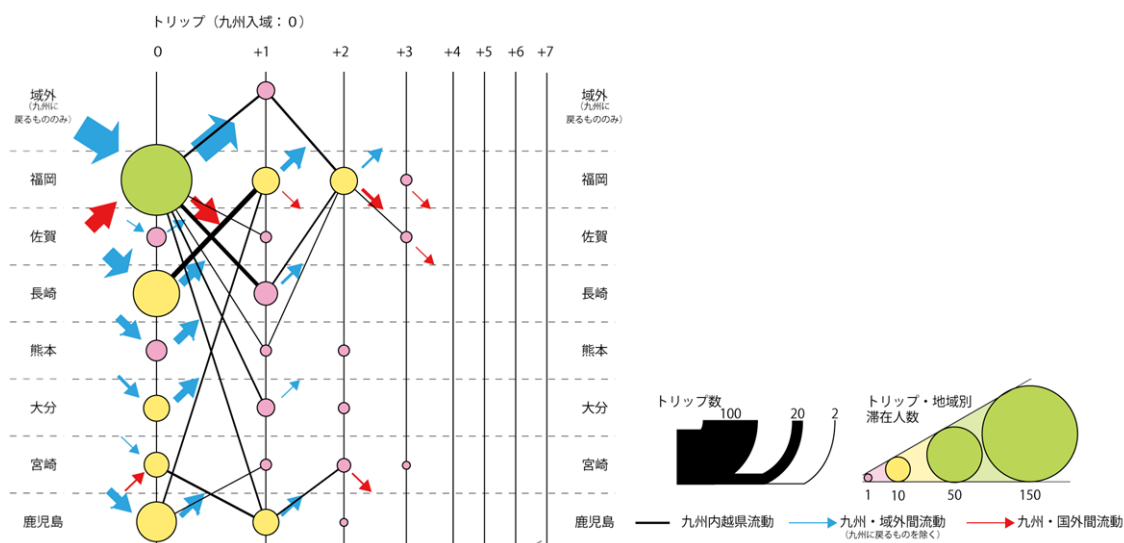


①イギリス(N=153)

【九州内でのトリップ数】

- ・ 九州到着後から九州出発前までの総トリップ数は 62トリップであった。1人あたりの九州内での平均トリップ数は 0.41 であった。
- ・ トリップ数0(単県のための滞在)は全体の 68.6%を占めた。

図 1-16 イギリス人の九州内での行動経路



【九州7県間のトリップ】

- ・ トリップ数が2以上の旅行者から九州7県間の移動を見ると、「福岡ー長崎」のトリップが全体の3割を占めており最も多い。次いで「宮崎ー鹿児島」が 14.5%、「福岡ー鹿児島」が 11.3%の順に続いている。この3ルートだけでイギリス人の九州7県間の移動の半数以上を占めている。

表 1-11 イギリス人の九州7県間の移動(N=62)

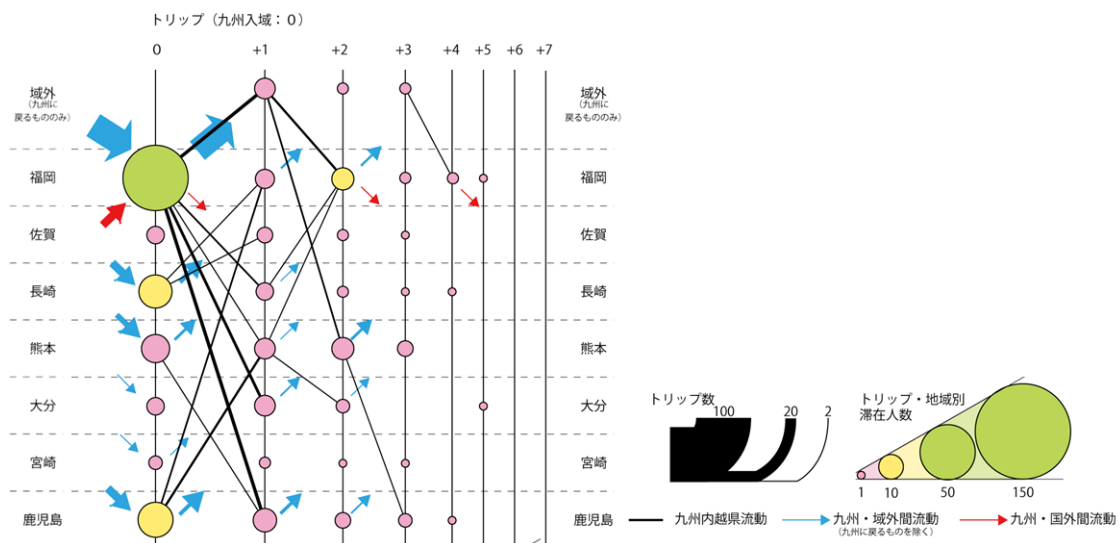
	福岡							
佐賀	8.1	佐賀		長崎		熊本		
長崎	30.6	0.0	長崎		熊本		大分	
熊本	8.1	0.0	3.2	熊本		大分		宮崎
大分	8.1	0.0	3.2	1.6	大分		宮崎	(単位: %)
宮崎	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	宮崎		鹿児島
鹿児島	11.3	0.0	4.8	0.0	4.8	14.5	鹿児島	

②フランス(N=109)

【九州内でのトリップ数】

- ・ 九州到着後から九州出発前までの総トリップ数は 75トリップであった。1人あたりの九州内での平均トリップ数は 0.69 となった。
- ・ トリップ数0(単県のための滞在)は全体の 56.9%であり、単県のみで九州を後にする割合が最も低い国となった。

図 1-17 フランス人の九州内での行動経路



【九州7県間のトリップ】

- ・ トリップ数が2以上の旅行者から九州7県間の移動を見ると、「福岡ー鹿児島」と「熊本ー鹿児島」のトリップが 14.7%を占めており最も多い。これを含め、鹿児島ー他県間のトリップだけで全体の約4割を占めている。

表 1-12 フランス人の九州7県間の移動(N=75)

	福岡									
佐賀	5.3	佐賀								
長崎	10.7	5.3	長崎							
熊本	8.0	2.7	6.7	熊本						
大分	9.3	0.0	1.3	5.3	大分					
宮崎	1.3	0.0	0.0	2.7	2.7	宮崎				
鹿児島	14.7	4.0	1.3	14.7	2.7	1.3	鹿児島			

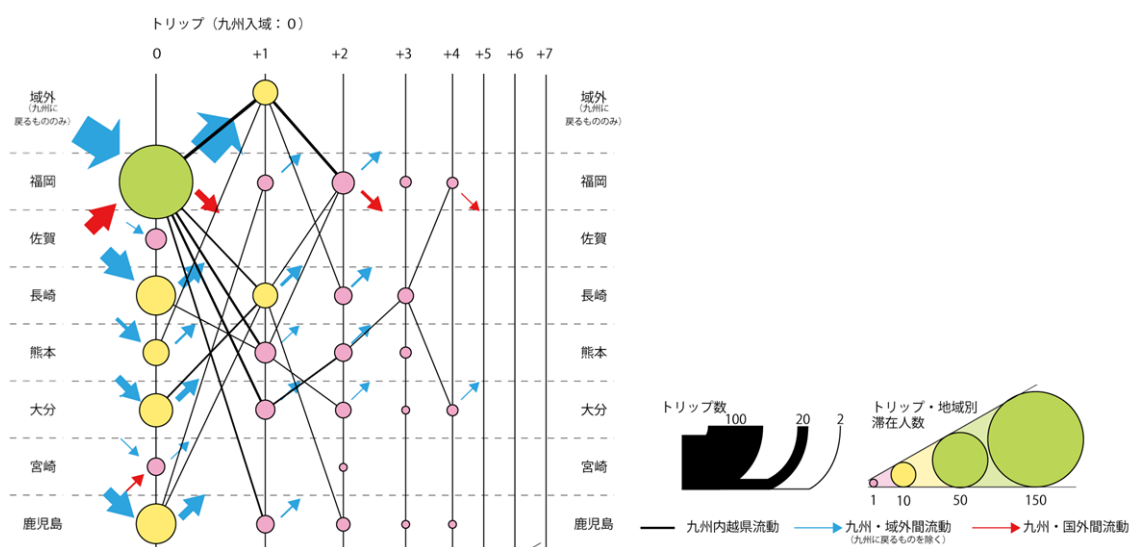
(単位：%)

③ドイツ(N=151)

【九州内でのトリップ数】

- ・ 九州到着後から九州出発前までの総トリップ数は 61 トリップであった。1人あたりの九州内での平均トリップ数は 0.40 となった。
- ・ トリップ数0(単県のための滞在)は全体の 72.2%を占め、5カ国の中で最も九州周遊が少なかった。

図 1-18 ドイツ人の九州内での行動経路



【九州7県間のトリップ】

- ・ トリップ数が2以上の旅行者から九州7県間の移動を見ると、「福岡ー長崎」のトリップが 14.8%を占めており最も多い。次いで「長崎ー大分」「長崎ー鹿児島」のトリップが 11.5%、「福岡ー熊本」「長崎ー熊本」「熊本ー大分」が 9.8%と続いている。

表 1-13 ドイツ人の九州7県間の移動(N=61)

	福岡																	
佐賀	1.6	佐賀																
長崎	14.8	1.6	長崎															
熊本	9.8	0.0	9.8	熊本														
大分	8.2	0.0	11.5	9.8	大分													
宮崎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	宮崎												
鹿児島	8.2	0.0	11.5	8.2	4.9	0.0	鹿児島											

(単位： %)

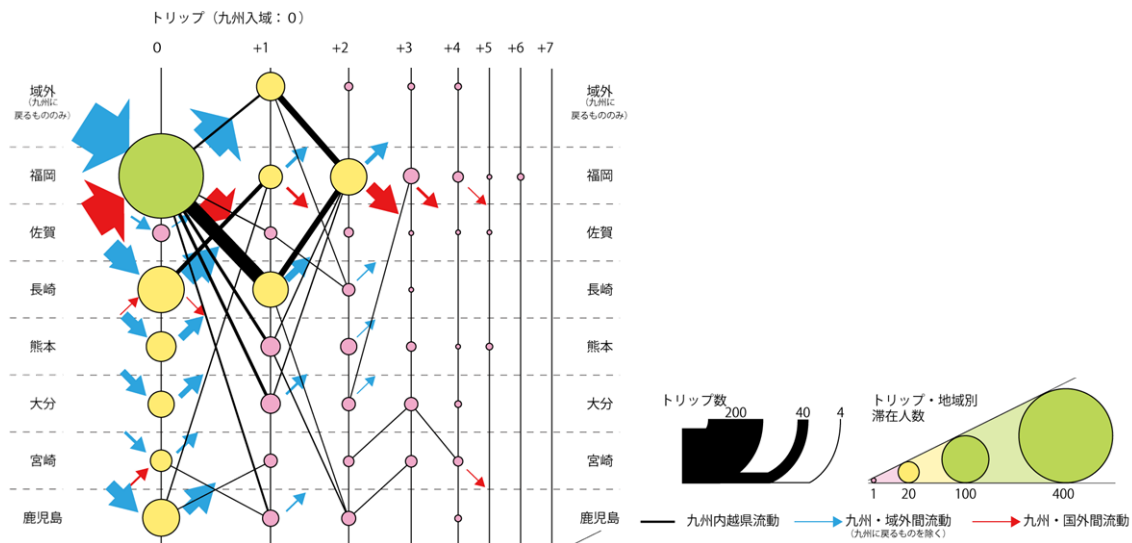
(単位：%)

④アメリカ(N=550)

【九州内でのトリップ数】

- ・ 九州到着後から九州出発前までの総トリップ数は 255 トリップであった。1人あたりの九州内での平均トリップ数は 0.46 となった。
- ・ トリップ数0(単県のみ滞在)は全体の 67.3%を占めた。

図 1-19 アメリカ人の九州内での行動経路



【九州7県間のトリップ】

- ・ トリップ数が2以上の旅行者から九州7県間の移動を見ると、「福岡ー長崎」のトリップが 34.9%を占めており最も多い。次いで「福岡ー大分」が 10.2%、「福岡ー熊本」が 9.8%の順に続いている。これら福岡ー他県間のトリップが全体の 66.3%を占めている。

表 1-14 アメリカ人の九州7県間の移動(N=255)

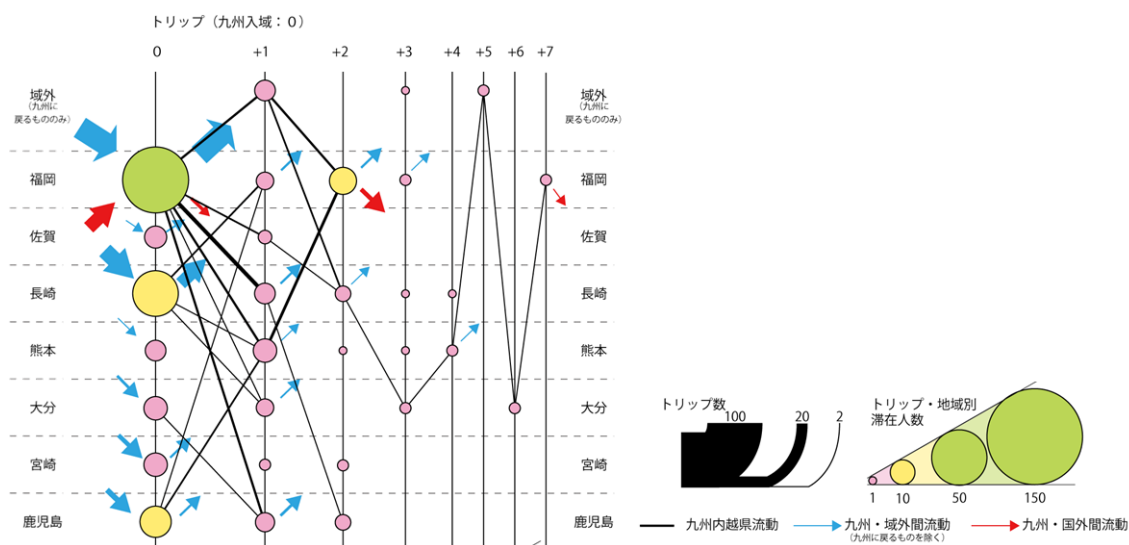
	福岡							
佐賀	4.3	佐賀						
長崎	34.9	2.0	長崎					
熊本	9.8	0.8	2.0	熊本				
大分	10.2	0.8	2.4	2.7	大分			
宮崎	2.7	0.4	0.0	4.3	3.9	宮崎	(単位: %)	
鹿児島	4.3	0.4	2.7	4.3	2.7	4.3	鹿児島	

⑤ オーストラリア (N=121)

【九州内でのトリップ数】

- ・ 九州到着後から九州出発前までの総トリップ数は 63トリップであった。1人あたりの九州内での平均トリップ数は 0.52 となった。
- ・ トリップ数0(単県のための滞在)は全体の 63.6%を占めた。

図 1-20 オーストラリア人の九州内での行動経路



【九州7県間のトリップ】

- ・ トリップ数が2以上の旅行者から九州7県間の移動を見ると、「福岡ー長崎」のトリップが 17.5%を占めており最も多い。次いで「福岡ー熊本」が 15.9%、「福岡ー鹿児島」が 9.5%、「福岡ー大分」「熊本ー鹿児島」が 7.9%の順に続いている。

表 1-15 オーストラリア人の九州7県間の移動(N=63)

	福岡			佐賀			長崎			熊本			大分			宮崎			鹿児島	
佐賀	4.8		佐賀			長崎			熊本			大分			宮崎			鹿児島		
長崎	17.5		3.2	長崎		熊本	3.2		大分	4.8		1.6	宮崎		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島	
熊本	15.9		0.0	3.2		熊本			大分	4.8		1.6	宮崎		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島	
大分	7.9		0.0	6.3		大分			宮崎	1.6		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島	
宮崎	3.2		0.0	0.0		宮崎			鹿児島	7.9		6.3	1.6		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島	
鹿児島	9.5		0.0	4.8		鹿児島				7.9		6.3	1.6		1.6	鹿児島		1.6	鹿児島	

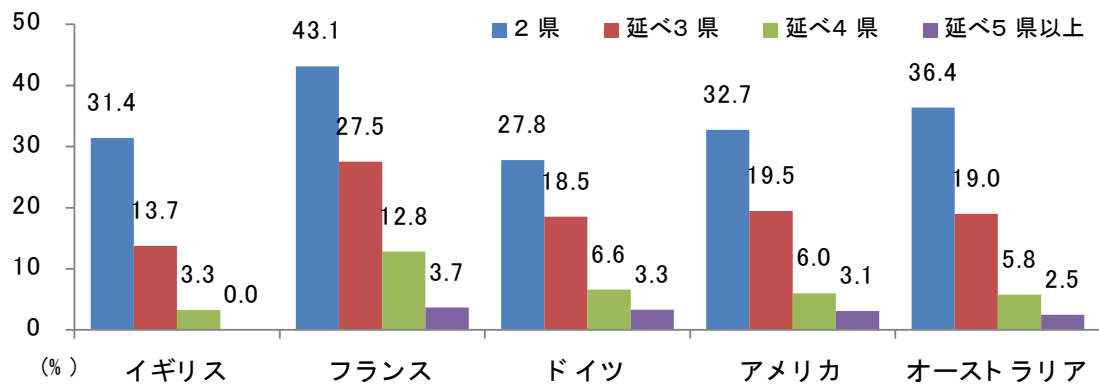
(単位：%)

⑥5カ国の比較

【九州内での延べ訪問県数】

- ・ 九州内での延べ訪問県数が2県を超える割合を国別にみると、2県訪問の時点で国ごとに大きな違いがあることが分かる。フランスでは4割以上の旅行者が2県以上を訪問しているのに対し、最も少ないドイツではその割合が3割を下回っている。
- ・ 延べ3県以上訪問した旅行者の割合は、最も多いフランスでは4分の1以上であるものの、他4カ国はこの時点で2割を下回っており、特に最も少ないイギリスでは13.7%まで低下している。フランスは延べ4県以上訪問した旅行者の割合が唯一、1割以上となっている。

図 1-21 国別にみた九州内での延べ訪問県数



【九州7県間のトリップ】

- ・ いずれの国でも福岡ー他県の区間が上位を占めており、特に「福岡ー長崎」間はイギリスとアメリカ両国でシェア3割以上である。

表1-16 国別にみた九州内周遊で利用される主な区間

(単位: %)

イギリス		フランス		ドイツ		アメリカ		オーストラリア	
福岡ー長崎	30.6	福岡ー鹿児島	14.7	福岡ー長崎	14.8	福岡ー長崎	34.9	福岡ー長崎	17.5
宮崎ー鹿児島	14.5	熊本ー鹿児島	14.7	長崎ー大分	11.5	福岡ー大分	10.2	福岡ー熊本	15.9
福岡ー鹿児島	11.3	福岡ー長崎	10.7	長崎ー鹿児島	11.5	福岡ー熊本	9.8	福岡ー鹿児島	9.5
福岡ー佐賀	8.1	福岡ー大分	9.3	福岡ー熊本	9.8			福岡ー大分	7.9
福岡ー熊本		福岡ー熊本	8	長崎ー熊本				熊本ー鹿児島	7.9
福岡ー大分				熊本ー大分					

注)シェア5%以上のトリップから上位5区間を抽出

3. 九州内外国人観光案内所へのヒアリング

前節まで、各種データを活用することで欧米豪インバウンドの九州観光における行動実態を明らかにしてきた。本節では、観光地においてインバウンド個人旅行者の窓口として機能している各県の外国人観光案内所を訪問し、特に欧米豪インバウンドの個人旅行者における行動実態や九州滞在中の観光ニーズについてヒアリングした結果をまとめている。

(1) 調査対象

ヒアリングは、JNTO 認定の外国人観光案内所における「カテゴリー3³」もしくは「カテゴリー2⁴」として登録されている観光案内所のうち、以下の8施設にご協力いただいた。

表 今回訪問した外国人観光案内所

所在県	施設名(運営主体)	カテゴリー
福岡	博多駅総合案内所(九州旅客鉄道(株))	3
	天神観光案内所(ラプエフェム国際放送(株))	3
佐賀	唐津駅総合案内所((一社)唐津観光協会)	2
長崎	長崎市総合観光案内所 ((一社)長崎国際観光コンベンション協会)	2
熊本	桜の馬場 城彩苑総合観光案内所 ((一財) 熊本国際観光コンベンション協会)	2
大分	えきマチ1丁目別府インフォメーション ((一社)別府インターナショナルプラザ)	2
宮崎	宮崎市観光案内所((公社)宮崎市観光協会)	2
鹿児島	鹿児島中央駅総合観光案内所 ((公財) 鹿児島観光コンベンション協会)	2

³ 「カテゴリー3」の認定基準は、「常時英語による対応が可能。その上で、英語を除く2以上の言語での案内が常時可能な体制がある。全国レベルの観光案内を提供。原則年中無休。Wi-Fi あり。ゲートウェイや外国人来訪者の多い立地」に該当する案内所。平成30年11月末現在、九州7県で3案内所(全国50案内所)が認定を受けている。

⁴ 「カテゴリー2」の認定基準は、「少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐。広域の案内を提供」に該当する案内所。平成30年11月現在、九州7県で35案内所(全国295案内所)が認定を受けている。

(2)調査結果

各県の外国人観光案内所へのヒアリングにより、主に欧米豪の個人旅行者の観光行動について、大きく3点のことが明らかになった。

①前もってしっかりした予定を立てずに訪問する人が少なくない

まだまだ絶対数が多いとは言えない欧米豪インバウンドの九州観光では、団体旅行の目的地として組み込まれることが少なく、そのため現在訪問しているのは個人客がほとんどであると考えられる。欧米豪インバウンドの場合、「九州を訪問する」「鹿児島を訪問する」といった大まかな予定のみを立て、どこに行くか、何をするかについては現地に到着してから考えるという旅行スタイルが少なくないことが分かった。これは、いわゆる「バックパッカー」と呼ばれる旅行者だけでなく、一般的な欧米豪インバウンドについても同様の傾向が見られるようである。

- ・ 事前の情報収集無しに訪問した結果、見たかったものが見られず、それが旅行満足度の低下に繋がってしまうケースも散見される。熊本城の改修を知らずに訪問するケースが多く見られるが、結果的に「壊れていた」「入れなかった」というような感想を持ってしまう人が少なくないようである。(熊本)
- ・ アジアのインバウンドと比べて観光案内所におけるクレームが少ない。もちろん文化の違いもあるが、それだけでなく、事前の計画無しに「フラッと来て、そのときにできることを楽しむ」という旅行スタイルが根付いていることが一因。彼らは旅を割り切るのが一つのこだわりであり、旅行中に起きたハプニングも旅の思い出の一つとして考えているのではないか。(大分)
- ・ ノープランで観光案内所を訪れる欧米豪インバウンドも散見される。欧米豪は総じて自然景観への関心が高いため、高千穂峡や青島、鶴戸神宮などの定番スポットに加え、加江田溪谷や猪八重溪谷などの「自然が感じられる」スポットへも案内している。(宮崎)
- ・ 観光案内所に来て「何をすればいい？」とまず聞いてくる人がいる。加えて、JR を使って訪れることができる最南端の地であるということで、「とりあえず来た」という旅行者も見られる。こうした旅行者は明確な目的意識を持っておらず、観光案内所を訪れることで、まずはこの地域に何があるのかといった情報収集から行っている。(鹿児島)

②東アジアからのインバウンドとは関心が異なる

現在九州を訪れているインバウンドの大部分は韓国・中国など東アジアからであるが、東アジアのインバウンドや国内旅行者には定番となっている観光資源の中で、欧米豪インバウンドにはあまり関心を持たれない観光資源も存在することが分かった。

- ・ 人気のコンテンツとなっている屋台については、インバウンド向け対応を進める店舗が拡大する一方、欧米豪インバウンドには屋台への関心が高くない。アジア圏のインバウンドがナイトマーケットを好む傾向があり屋台への関心も高い一方、欧米豪インバウンドには人気が高く、問い合わせもほとんど無い。また、ラーメンについては関心が高いものの、福岡のラーメンが主に豚骨ベースであるということはあまり知られておらず、欧米豪インバウンドにはベジタリアンやビーガンも少なくないことから、豚骨ベースであることを説明すると関心を無くす人も少なくない。（福岡）
- ・ 焼き物に対する関心が非常に高い。唐津・有田・伊万里などの焼き物の産地を周遊したいという旅行者も多く、目的もギャラリーの訪問や購入だけでなく、工房の見学や実際に制作したいというニーズもある。一方で、アジア系に人気の呼子朝市や名護屋城、棚田などへの関心は欧米豪に関しては薄い。（佐賀）
- ・ 定番観光資源である稲佐山の夜景について、東アジアのインバウンドは多くが訪れている一方、欧米豪インバウンドからの夜景の問い合わせはほとんど無く、あまり足を運んでいない。また、キリスト教文化が根付いている国が多いものの、世界遺産に登録された潜伏キリシタン関連遺産についても、あまり関心を持たれていない。ただし、五島については同遺産の世界遺産登録を契機に欧米豪インバウンドからの問い合わせが増えている。（長崎）
- ・ 欧米豪とアジアのインバウンドでは持っている情報量が違う。熊本城の改修については多くのアジア人が訪問前に知っているものの、欧米豪インバウンドは実際に現地に来て初めて知る人が多い。また、国内だけでなくアジアにおいても知名度が高いくまモンについても、欧米豪インバウンドにはほとんど知られていない。（熊本）
- ・ 別府温泉の地獄巡りで巡る地獄の数についてアジアと欧米豪では違いがある。多くのアジア人が 2,000 円の共通観覧券を購入し、7つの地獄を全て巡っている一方、欧米豪の場合は 1,2 軒のみを訪問し、地獄巡りを終えるというパターンが一般的である。（大分）

③「食」への関心は高くない

欧米豪インバウンドに共通する特徴として、九州内では食に関する関心があまり高くないことが分かった。欧米豪にとって日本食は「堪能するもの」ではなく「体験するもの」である。あくまで日本旅行の一部として九州を訪れている欧米豪インバウンドの多くは、日本らしい食事を東京・大阪などの他都市で済ませており、全ての欧米豪インバウンドが九州らしい食事を食べることを求めているわけではないのである。その一方で、市場や市場巡りに関する関心は少ない。

- ・ 柳橋連合市場や唐戸市場(山口県)などの日中の市場巡りへの関心が高く、現地までのアクセスの問い合わせが多く寄せられている。一方、ラーメンを除けばもつ鍋や水炊きなどの福岡名物に関する問い合わせはあまり無く、ベジタリアンやビーガン向けの飲食店に関する問い合わせも多くはない。(福岡)
- ・ 食べ物についてはおすすめを尋ねられることがあり、居酒屋や寿司店を紹介している。イカ活き造りを案内することもあるが、チャレンジしてみようと思う人、拒絶感を示す人など反応は様々である。また、ハラールやベジタリアンへの対応には苦慮している。(佐賀)
- ・ 食に関する問い合わせは少ない。長崎らしい食べ物について情報が無いのではないかと。ベジタリアンの店についてはたまに問い合わせがある。(長崎)
- ・ 築地(東京都)のような市場に関する問い合わせがある。宮崎には中央卸売市場が開催する「カンカン市」というイベントが定期的で開催されており、イベント期間中は市場内の店舗と食堂街が開放されるため、タイミングが合えば案内している。一方、食事は全体的に安価なものを希望される旅行者が多く、スーパーマーケットやファーストフードを案内することも少ない。(宮崎)

Ⅱ 欧米豪旅行者の九州観光知名度・関心度調査

本章では、九州／日本を訪れたことのある欧米豪インバウンドが「日本の地方にどのようなイメージを持っているのか?」「九州のどんな観光資源を知っているのか?」「九州のどんな観光資源に興味を持っているのか?」等を明らかにすべく、対象5カ国の訪九州・訪日経験者に対して九州観光の知名度と関心度に関する調査を行った。

(1)調査方法

対象5カ国の居住者を対象に、ネットアンケート調査を実施した(GMO リサーチ(株)に委託)。

調査対象を①九州を訪問したことのある人(訪九州)と②九州以外の日本国内を訪問したことのある人(訪日)とし、各国でそれぞれ①50 サンプル、②100 サンプルの 150 サンプルずつ、5カ国合計で 750 サンプルの回答を収集した。

調査時期は国によって若干異なるが、全ての調査を 2018 年 11 月上～中旬に実施した。

(2)調査内容

調査は、3問のスクリーニングおよび3問の本質問の合計6問で実施した。スクリーニングでは、訪九州／訪日経験の有無を尋ね、それぞれの該当者のみ本質問へと移行させている。

本質問では、3問の設問でそれぞれ日本における地方のイメージ(問1)、九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(問2)、九州の主な観光資源への認知・関心(問3)について調査した。

具体的な設問内容および問3で使用した 50 の観光資源については次頁以降に記載している。なお、本報告書では日本語表記の調査票を記載しているが、実際の調査においては各国言語(イギリス・アメリカ・オーストラリア…英語、フランス…フランス語、ドイツ…ドイツ語)に翻訳した上で調査を実施している。

問3における知名度の調査に関しては、観光資源を「知っている」と回答した割合が全ての観光資源で 50%を超え、ばらつきがほとんど生じないという結果となった。

この結果を考察すると、日本人とは違い、「知らない」ということを答えたくない国民性が起因しているものと考えられる。本来の知名度を表している調査結果とは考えにくいため、詳細な分析は行わずに参考まで結果を記載するものとする。調査結果を活用される際にはご留意いただきたい。

■調査票

S-1 あなたの年齢を教えてください。

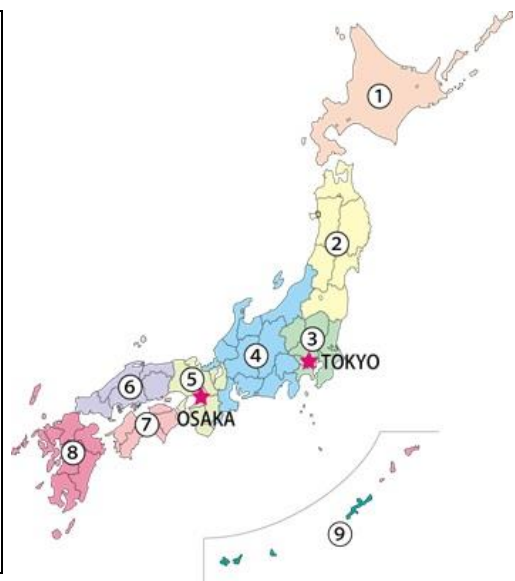
- | | | | | |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 |
| 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80歳以上 | | |

S-2 あなたの性別を教えてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

S-3 あなたがこれまでに訪れたことがある日本の地方はどこですか？それぞれの地方ごとに来訪回数をお答えください。

- | |
|---|
| 1. 北海道
(札幌、函館、ニセコなどがある日本最北端の地方) |
| 2. 東北地方
(仙台、青森、福島などがある日本の東北部にある地方) |
| 3. 関東地方
(東京、横浜、箱根、千葉などがある日本の東部にある地方) |
| 4. 中部地方
(名古屋、金沢、静岡、富士山などがある日本の中部にある地方) |
| 5. 近畿地方
(京都、大阪、神戸、奈良などがある日本の中西部にある地方) |
| 6. 中国地方
(広島、岡山、山口などがある日本の西部にある地方) |
| 7. 四国地方
(高松、高知、徳島などがある日本の西部にある地方) |
| 8. 九州地方
(福岡、長崎、鹿児島などがある日本の西部にある地方) |
| 9. 沖縄
(那覇、宮古島、石垣島などがある日本最南端・最西端の地方) |



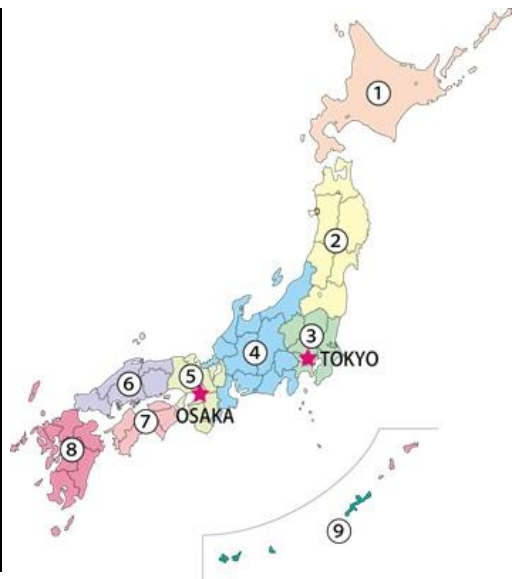
	1回	2回	3, 4回	5回以上	訪問したことはない ／分からない
1.北海道					
2.東北地方					
3.関東地方					
4.中部地方					
5.近畿地方					
6.中国地方					
7.四国地方					
8.九州地方					
9.沖縄					

・ 太枠内に最低でも1箇所回答がある人を
本質問の対象者とする(訪日経験者)

・ そのうち、九州地方への訪問回数に回答が
ある人を(訪九州経験者)の対象者とする

問1 次に挙げる項目について、あなたは日本のどの地方にそのイメージがあてはまると思いますか？それぞれの項目ごとに、イメージがあると思う地方を全て選んでください。

1. 北海道
(札幌、函館、ニセコなどがある日本最北端の地方)
2. 東北地方
(仙台、青森、福島などがある日本の東北部にある地方)
3. 関東地方
(東京、横浜、箱根、千葉などがある日本の東部にある地方)
4. 中部地方
(名古屋、金沢、静岡、富士山などがある日本の中部にある地方)
5. 近畿地方
(京都、大阪、神戸、奈良などがある日本の中西部にある地方)
6. 中国地方
(広島、岡山、山口などがある日本の西部にある地方)
7. 四国地方
(高松、高知、徳島などがある日本の西部にある地方)
8. 九州地方
(福岡、長崎、鹿児島などがある日本の西部にある地方)
9. 沖縄
(那覇、宮古島、石垣島などがある日本最南端・最西端の地方)



	1 北海道	2 東北地方	...	8 九州地方	9 沖縄	分からない／ 地域ごとのイ メージがない
自然や風景が美しい						
街並みや建造物が魅力的						
歴史が魅力的						
祭りや工芸品などの伝統文化 が魅力的						
温泉が豊富で魅力的						
遊びたい・体験したいアクティ ビティがある						
食べ物が美味しい						
人が親切、人情がある						
ショッピングが楽しめる						
秘境の地である						

問2 あなたが九州について知っていること(九州と聞いてイメージすること)を、具体的な名称でも抽象的なイメージでも構いませんので教えてください。

(例：温泉、ラーメン、暑そう、食べ物が美味しそう など)

問3 あなたは以下の写真の内容をご存じですか？また、写真や説明を見ていただいた上で、行ってみたい／体験してみたいと思いましたか？

※画像をクリックすることで拡大して表示されます。(クリックは任意です)

	知らなかった(旅行してみたい／体験してみたいと思わなかった)	知らなかった(少しだけ旅行してみたい／体験してみたいと思った)	知らなかった(とても旅行してみたい／体験してみたいと思った)	知っていた(旅行してみたい／体験してみたいと思わなかった)	知っていた(少しだけ旅行してみたい／体験してみたいと思った)	知っていた(とても旅行してみたい／体験してみたいと思った)
 イルカウォッチング 天草の沖合には約 300 頭のバンドウイルカが生息している。船に乗り沖に出れば、群れをなして泳ぎ回るイルカたちを間近に鑑賞することができる。						
...						

※ 写真とタイトル、解説文を 50 セット準備して認知度と関心度を調査した(次頁以降に一覧を掲載)。

※ 問3については、設問の進行による回答の不正確化が特定の項目に集中しないよう、回答者によって写真の表示順をランダムにした。

■ 問3で使用した観光資源の写真、解説文

1. 河内藤園  長さ 80mと 110mの藤のトンネル、藤のドーム、藤棚、大藤棚がある。	2. 太宰府天満宮  学問の神様を祀っている。毎年正月には 200 万人以上の参拝者が訪れる。
3. 沖ノ島  「神宿る島」と言われる島。島や関連する神社が 2017 年にユネスコの世界文化遺産に登録された。	4. 南蔵院  全長41m、高さ11m、重さ300トン、ブロンズ製の涅槃像としては世界最大である釈迦涅槃像がある。
5. 柳川の川下り  網目状の堀割が巡らされた水郷であり、堀割をどんこ舟で巡る川下りが観光の目玉である。	6. 福岡の屋台  第2次世界大戦直後に始まった屋台文化。福岡では今でも 150 店が軒を連ね風情ある雰囲気人で人々に愛されている。
7. 天神  大型百貨店やアーケード商店街が軒を連ね、日用品から高級品まで買い物を楽しむことができる。	8. 祐徳稲荷神社  日本三大稲荷の一つに数えられる格式高い神社であるが、楼門や本殿の絢爛豪華さはフォトスポットとしても人気である。

9. 伊万里大川内山  日本を代表する磁器の生産地として栄えた場所。切り立った屏風岩やレンガ造りの煙突が独特の景観を織りなす街並みも魅力である。	10. セツ釜  玄武岩が荒波にさらされ浸食されてできたもので、断崖は深くえぐられ、その名の通り7つの洞窟が並んでいる。
11. 浜野浦棚田  海岸から駆け上がる階段のように大小 283 枚の田んぼが幾重にも連なり、季節によって様々な表情を見せている。	12. 佐賀バルーンフェスティバル  佐賀県で毎年秋に行われるアジア最大級の熱気球競技大会。
13. 有明海  日本最大の干満差を誇る海であり、干潮時と満潮時には全く異なる顔を見せる。こうした特徴から、有明海でしか見られない珍しい生物を見ることができる。	14. 長崎の平和公園  1945 年 8 月 9 日に投下された原子爆弾の落下中心地周辺に造られた公園で、平和祈念像が建てられている。原爆に関連する資料や写真を展示する資料館もある。
15. 稲佐山の夜景  「1000 万ドルの夜景」と称されるほど美しく、モナコ、香港とともに世界新三大夜景に選ばれている。	16. 端島(軍艦島)  かつて海底炭鉱によって栄えた島。現在は無人島であるが、島全体が繁栄当時のままの様子が残っている。2015 年、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

17. 九十九島  リアス式海岸の群島。208もの島々からなり、景観の良いスポットとして知られ、遊覧船での鑑賞も人気である。	18. 雲仙地獄  周辺一帯が火山地帯であり、硫黄の香りが立ち込め、地面から吹き出す蒸気と熱気が辺り一面を覆い尽くす光景は、まさに地獄そのものである。
19. 熊本城  日本三大名城の一つと言われ、国内外から多くの観光客が訪れる。	20. 阿蘇山  世界最大級のカルデラ地形。火山が生み出した自然の見所を見ることができるほか、世界で唯一、活動中の火口を間近から見るができる。
21. 黒川温泉  日本屈指の人気温泉地として知られる。2009 年版「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で、温泉地としては異例の二つ星で掲載された。温泉だけでなく、風情のある温泉街も魅力である。	22. イルカウォッチング  天草の沖合には約 300 頭のバンドウイルカが生息している。船に乗り沖に出れば、群れをなして泳ぎ回るイルカたちを間近に鑑賞することができる。
23. 球磨川のラフティング  日本三大急流の一つである球磨川は、緩急の激しい川と自然豊かな球磨森の景色を楽しめるラフティングの人気スポットである。	24. 五家荘  古来より秘境として知られ、人々は河岸の段丘や傾斜斜面などに小さな集落を作り暮らしてきた。手つかずの自然が今も残っている。

25. 久住高原  野焼きと放牧によって広大な草原を維持してきた高原。目の前に広がる草原と背後にそびえ立つ九重連山という趣の異なる2つの絶景が楽しめる。	26. 臼杵石仏  国宝に指定された磨崖仏。なだらかな里山の岩壁を掘って造られた 60 体以上の石仏は造られてから 1000 年以上が経っていると言われる。
27. 別府温泉  別府は市内各地に数百もの温泉があり、源泉数、湧出量ともに日本一を誇る。街のいたる所から湯けむりが上がっている様子も珍しい景観である。	28. 由布院温泉  田園的な名残が残った趣のある街並みに、お洒落な雑貨屋やレストランが建ち並ぶ。賑やかな街並みから外れた川辺や林の中、丘の上には日本を代表する高級温泉旅館が点在している。
29. 杵築の城下町  江戸時代の風情そのままの武家屋敷通りには、武家文化を物語る立派な屋敷が建ち並び、日本一の城下町と言われている。	30. 日田の鵜飼船  細長い鵜飼船の舳先にかがり火をつけ、鵜を巧みに操って魚を獲る昔ながらの伝統漁法を、屋形船に乗って食事を楽しみながら間近に鑑賞することができる。
31. 高千穂峡  高さ80～100mにも達する断崖が7kmにわたり続いている。峡谷を上から眺めることもできるが、ボートに乗って下から楽しむ景観も人気である。	32. 鵜戸神宮  海に面した断崖の中腹にある岩窟内に本殿がある神社。参拝するには崖にそって作られた石段を降りる必要がある。

33. 神楽殿  高千穂神社の神楽殿では、神楽が毎晩行われている。誰でも見学でき、伝統文化と日本の神話に触れることができる。	34. サーフィン  宮崎県の海岸は水温が高く良好な波が発生することから日本屈指のサーフスポットとして知られている。
35. 椎葉村  九州中央山地に位置する山奥の村。四季折々の自然の美しさや人々の営みからは日本の原風景が感じられる。	36. 屋久島  屋久杉自然林をはじめ豊かで美しい自然が残されており、島の面積の約 20%がユネスコの世界自然遺産に登録されている。
37. 桜島  鹿児島湾に浮かぶ火山。現在も活発な噴火活動が続けており、10km も離れていない鹿児島の市街地からは噴煙があがる様子を日常的に見ることができる。	38. 仙巖園  1658 年に造られた日本庭園。鹿児島のシンボルである桜島と鹿児島湾を背景にした雄大な景観と広大な庭園が特徴である。
39. 百合ヶ浜  与論島の沖合に、干潮時だけ姿を現す小さな白い砂浜。白い砂浜とエメラルドグリーンの海の色は地球の楽園と言われている。	40. 砂蒸し風呂  世界で唯一の天然砂蒸し温泉。砂浜に温泉で加熱された砂があり、砂に埋まって温まることで温浴が楽しめる。

41. 奄美のシーカヤック  美しいリアス式海岸とサンゴの生息する海中景観が美しい。波も穏やかでシーカヤックを楽しむには最適である。	42. 観光列車／クルーズトレイン  風光明媚な車窓からの眺めもちろん魅力的であるが、日本を代表する工業デザイナーによる列車の内外装のデザインもまた魅力である。
43. トレッキング  国土の 60%以上を森林が占める九州には、ハイキングやトレッキング、本格的な登山まで楽しめるフィールドが各地にある。	44. 祭り  九州各地では四季を通じて様々な祭りが開催される。猛スピードで山車が駆けめぐる勇壮な祭りがあれば、能のように緩やかに動く厳かな祭りもある。
45. 茶畑  九州は日本屈指の日本茶の産地である。5月頃になると茶畑が緑に染まって美しい景観が楽しめる。	46. 果物狩り  九州には各地に観光農園があり、果物の種類ごとに旬の時期に果物狩りが楽しめる。
47. かき小屋  冬になると漁港の近くには牡蠣小屋が立ち並び、焼き牡蠣を手頃な価格で楽しめる。網を囲んで座り、自分たちで牡蠣を焼いて食べるスタイルが一般的である。	48. 潜伏キリシタン関連遺産  江戸時代 250 年間の禁教令下における厳しい弾圧の中、信仰を守り通した信者の生き方・暮らし方が評価され、2018 年にユネスコの世界遺産に登録された。

49. ビーチ	50. 市場
 九州には白砂で透明度の高いビーチが数多くあるため、夏から秋にかけてはビーチで海水浴を楽しむことができる。	 九州には各地に市民の台所として親しまれている市場がある。多くの市場はアーケードがついており、雨の日でも傘要らずで散策することができる。

(3)調査結果

①イギリス

■回答者の属性

- ・ 回答者を年齢別にみると、30代が最も多く36.7%であった。次いで20代が33.3%、40代が17.3%、50代が8.0%の順に多かった。
- ・ 男女別にみると、女性54.0%に対し男性46.0%と、女性の方が若干多かった。
- ・ 男女・年齢別にみると、最も回答が多かったのは20代女性で22.0%であった。次いで30代女性が20.0%、30代男性が16.7%、20代男性が11.3%の順に続いている。

表 2-1 イギリス人の回答者属性(N=150)

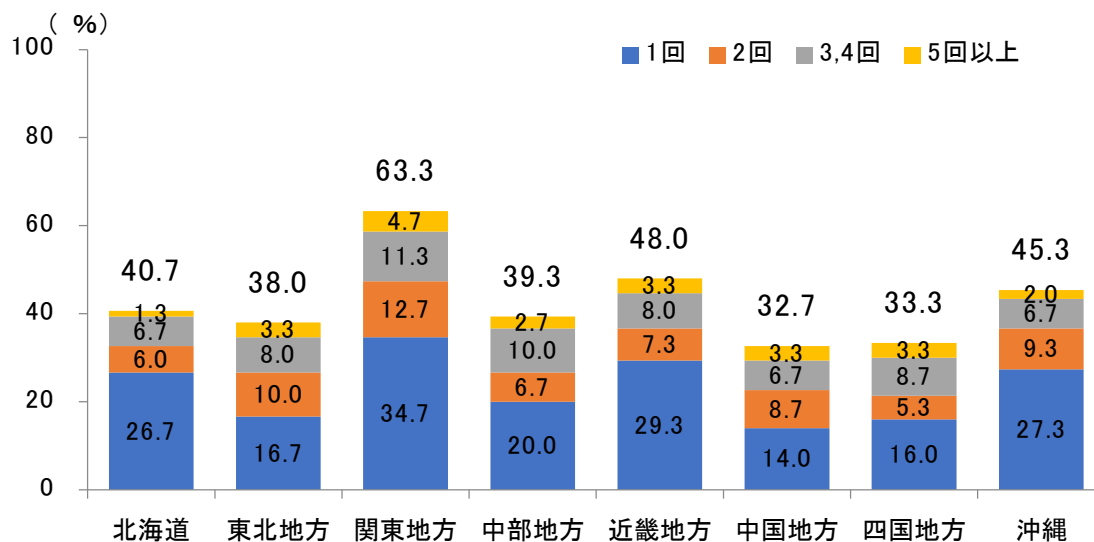
(単位: %)

		年齢計							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男女計	100.0	0.0	33.3	36.7	17.3	8.0	4.0	0.7	0.0
男性	46.0	0.0	11.3	16.7	10.0	4.7	2.7	0.7	0.0
女性	54.0	0.0	22.0	20.0	7.3	3.3	1.3	0.0	0.0

■地方ごとの訪日経験(九州地方を除く)

- ・ 回答者の地方ごとの訪日経験をみると、最も多いのが関東地方で63.3%が訪問経験を有している。次いで近畿地方が48.0%と続いており、国内の欧米豪とのゲートウェイである成田・羽田・関空を有する2地方の訪日経験が高い。
- ・ 次いで沖縄が45.3%、北海道が40.7%と続いており、直航便が就航している中部国際空港を有する中部地方を上回っている。

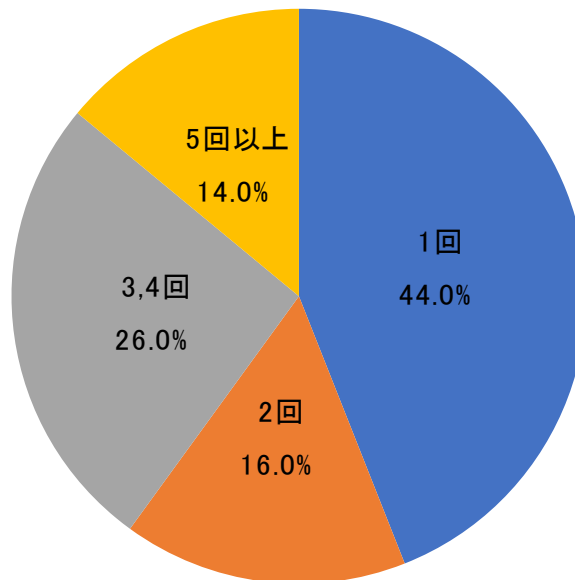
図 2-1 イギリス人訪日経験者における地方ごとの訪日経験(N=150)



■九州への訪問回数(訪九州経験者のみ)

- ・ 訪九州経験者における九州への訪問回数をみると、最も多いのは訪問回数1回で44.0%と半数近くを占めている。次いで3,4回が26.0%、2回が16.0%の順が続いている。

図 2-2 イギリス人旅行者の九州への訪問回数(N=50)



■ 地方ごとのイメージ

- ・ 「自然や風景が美しい」については、半数以上の 55.3%が北海道を挙げている。イギリス人で半数以上の回答を集めたのはこの一つのみである。沖縄を上げた人も3割見られた。
- ・ 関東地方は、10 のイメージのうち7項目で3割以上の回答が集まった。
- ・ 九州地方のイメージはいずれの項目でも回答が少なかった。最も回答が集まったのが「人が親切そう、人情がありそう」で 28.0%であり、これは関東地方に次いで高い。
- ・ 「温泉が豊富で魅力的」と「秘境の地である」の2項目については、全ての地方でイメージが根付いていないことが分かった。なお、「温泉が豊富で魅力的」において九州は 10.7%に留まり、中部地方と並んで最も低かった。

表 2-2 イギリス人訪日経験者における地方ごとのイメージ

(単位: %)

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	分からない
自然や風景が美しい	55.3	28.0	29.3	23.3	29.3	24.0	20.0	23.3	30.0	5.3
街並みや建造物が魅力的	15.3	37.3	36.7	20.0	15.3	16.7	14.7	19.3	21.3	8.0
歴史が魅力的	19.3	23.3	41.3	22.7	23.3	24.0	20.7	24.7	21.3	10.0
祭りや工芸品などの 伝統文化が魅力的	24.0	24.7	32.7	32.7	26.0	26.0	22.7	22.7	20.7	10.7
温泉が豊富で魅力的	15.3	14.0	14.7	10.7	22.7	16.0	15.3	10.7	20.7	22.7
遊びたい・体験したい アクティビティがある	18.0	22.0	32.7	20.0	23.3	23.3	19.3	20.0	24.0	9.3
食べ物が美味しい	22.0	23.3	36.0	26.7	27.3	24.0	28.7	20.0	24.7	8.7
人が親切そう、 人情がありそう	22.7	27.3	33.3	21.3	25.3	21.3	20.7	28.0	22.0	12.0
ショッピングが 楽しめそう	14.0	19.3	34.0	16.7	16.0	9.3	10.0	14.7	24.7	8.7
秘境の地である	22.0	16.7	12.0	14.7	16.7	20.7	12.0	18.7	22.0	17.3

注)色がついている項目は 30%以上の回答があったもの

■九州と聞いて思い浮かべるもの・こと

- ・ 回答者の3分の1以上が挙げたものが「食」に関するものであった。多くは「美味しい」という修飾語とともに書かれており、好意的なイメージがあるものと思料する。ただ、具体的なイメージは少なく「ラーメン」「うどん」「酒」という回答が散見されたのみであった。
- ・ 次いで、「温泉」と「人」に関するものが多く挙げた。「温泉」については、「天然温泉」という回答がいくつか見られたが、温泉の固有名称を記した回答は見られなかった。
- ・ 「火山」についても多く見られた。回答の多くが「活火山」という風に記されていた。
- ・ 「亜熱帯気候」というイメージが少なくない。沖縄とのイメージ誤認もしくは奄美のイメージが九州としてのイメージとして定着しているものと思料する。

表 2-3 イギリス人訪日経験者が九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(N=150)

回答数	キーワード	修飾語・具体的な固有名詞
55	食	美味しい、辛い、美しい、伝統的な、本物の、地元の、ラーメン、うどん、酒
25	温泉	天然の
25	人	フレンドリーな、親切な、素敵な、美しい
21	火山	活火山、多い
14	ビーチ・海	干潮時にだけ見ることができる隠された
11	景色・風景	美しい、驚くべき、素晴らしい、田園の
10	亜熱帯気候	多湿
7	リラックス	静かな、穏やかな、現実逃避の
7	暖かい	理想的な、晴れている
6	島	日本で3番目に大きな、大きな、日本最大の

注) 回答数が5以上のキーワードを抽出

■九州の主な観光資源への関心

- ・ 50 資源における「とても旅行してみたい」と回答した割合の平均値は 45.4%であった。対象 5カ国の中では3番目に関心度の高い国である。
- ・ 「とても旅行してみたい」が最も多かったのは端島(長崎県)で 53.3%であった。次いで、杵築の城下町(大分県)が 52.7%、長崎の平和公園(長崎県)が 52.0%、河内藤園(福岡県)と砂蒸し風呂(鹿児島県)が 51.3%の順に続いている。
- ・ 50 資源における「旅行したいと思わない」と回答した割合の平均値は 21.8%であった。対象 5カ国の中では3番目に高い結果である。
- ・ 「旅行したいと思わない」が最も多かったのは椎葉村(宮崎県)で 36.0%であった。次いで、五家荘(熊本県)が 34.0%、かき小屋が 32.0%、南蔵院(福岡県)と果物狩りが 28.0%の順に続いている。

表 2-4 「とても旅行してみたい」「旅行したいと思わない」上位 10 資源

「とても旅行してみたい」上位		「旅行したいと思わない」上位	
端島(軍艦島)	53.3%	椎葉村	36.0%
杵築の城下町	52.7%	五家荘	34.0%
長崎の平和公園	52.0%	かき小屋	32.0%
河内藤園	51.3%	南蔵院	28.0%
砂蒸し風呂	51.3%	果物狩り	28.0%
阿蘇山	50.7%	茶畑	27.3%
市場	50.0%	九十九島	26.7%
日田の鵜飼船	50.0%	祭り	26.7%
沖ノ島	50.0%	トレッキング	26.0%
ビーチ	50.0%	祐徳稲荷神社	25.3%
		伊万里大川内山	25.3%
イギリス平均	45.4%	イギリス平均	21.8%

図 2-3 イギリス人訪日経験者における九州の主な観光資源への関心

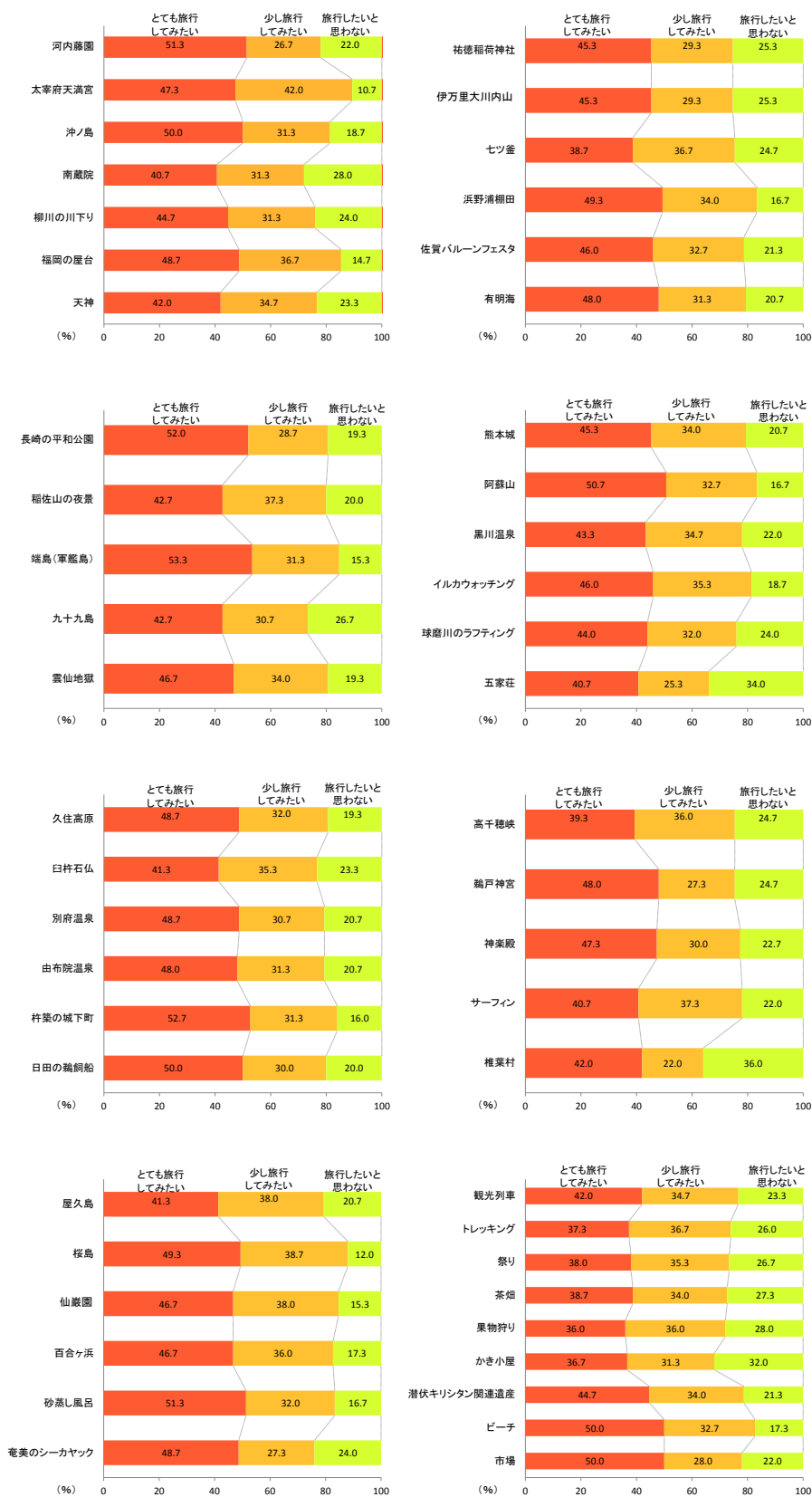
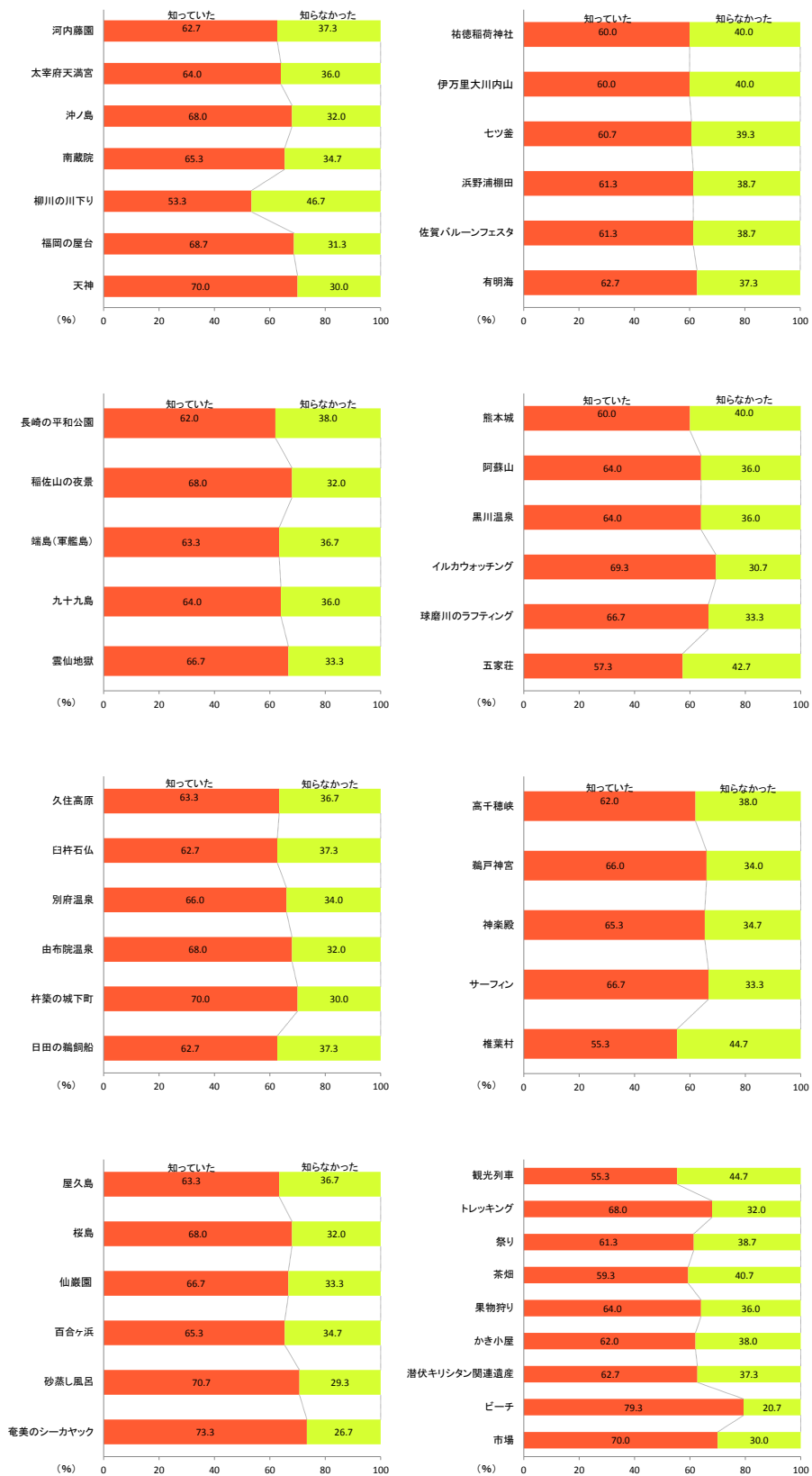


図 2-4 イギリス人訪日経験者における九州の主な観光資源の認知(参考)



②フランス

■回答者の属性

- ・ 回答者を年齢別にみると、30代が最も多く41.3%であった。次いで20代が22.7%、40代が19.3%、50代が8.0%の順に多かった。
- ・ 男女別にみると、男性53.3%に対し女性46.7%と、男性の方が若干多かった。
- ・ 男女・年齢別にみると、最も回答が多かったのは30代女性で22.0%であった。次いで30代男性が19.3%、40代男性が12.7%、20代男性・女性が11.3%の順に続いている。

表 2-5 フランス人の回答者属性(N=150)

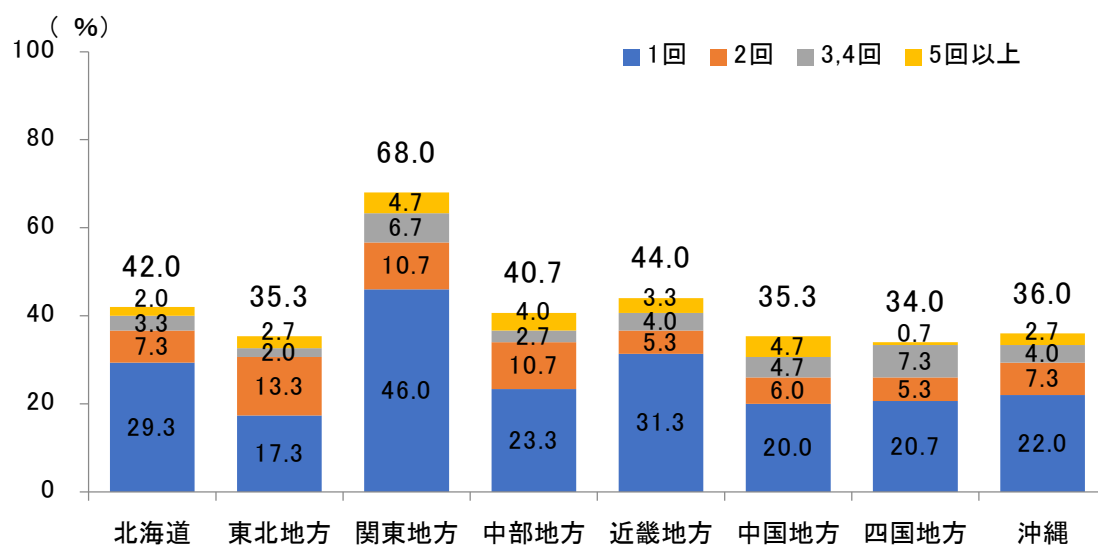
(単位: %)

	年齢計	年齢別							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男女計	100.0	0.7	22.7	41.3	19.3	8.0	7.3	0.7	0.0
男性	53.3	0.7	11.3	19.3	12.7	4.7	4.0	0.7	0.0
女性	46.7	0.0	11.3	22.0	6.7	3.3	3.3	0.0	0.0

■地方ごとの訪日経験(九州地方を除く)

- ・ 回答者の地方ごとの訪日経験をみると、最も多いのが関東地方で68.0%が訪問経験を有している。
- ・ 次いで近畿地方が44.0%と続いており、国内の欧米豪とのゲートウェイである成田・羽田・関空を有する2地方の訪日経験が高いものの、北海道も42.0%と近畿地方に肉薄している。

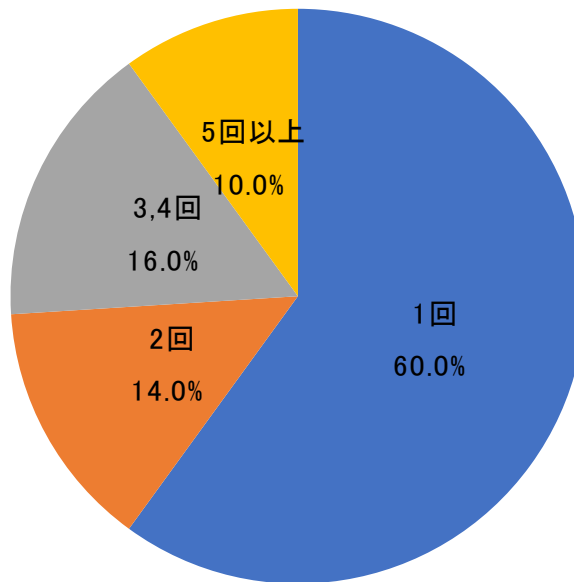
図 2-5 フランス人訪日経験者における地方ごとの訪日経験(N=150)



■九州への訪問回数(訪九州経験者のみ)

- ・ 訪九州経験者における九州への訪問回数をみると、最も多いのは訪問回数1回で60.0%と半数以上を占めている。次いで3,4回が16.0%、2回が14.0%の順が続いている。

図 2-6 フランス人旅行者の九州への訪問回数(N=50)



■ 地方ごとのイメージ

- ・ 最もイメージが強い項目・地方は「街並みや建造物が魅力的」における関東地方で 46.7%であった。半数以上が回答した項目・地方は一つも見られなかった。
- ・ 関東地方は、10 の項目のうち7項目で3割以上の回答を集めた。その他で3割以上の回答が集まった項目・地方は北海道の自然のみである。
- ・ 「自然や風景が美しい」については、北海道が 46.0%で最も高くなっているものの、半数を下回っており、イギリス・ドイツ・アメリカと比べると自然＝北海道のイメージが相対的に低いことが分かる。
- ・ 九州地方のイメージはいずれの項目でも回答が少なかった。最も回答が集まったのが「祭りや工芸品などの伝統文化が魅力的」「人が親切そう、人情がありそう」で 21.3%であった。
- ・ 特に、「温泉が豊富で魅力的」の項目では 8.7%と全ての地方の中で最も低く、国別にみてもオーストラリア(8.0%)と並んで九州＝温泉のイメージが最も根付いていない国であると言える。

表 2-6 フランス人訪日経験者における地方ごとのイメージ

(単位: %)

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	分からない
自然や風景が美しい	46.0	20.7	25.3	17.3	24.7	20.0	15.3	17.3	15.3	7.3
街並みや建造物が魅力的	13.3	20.0	46.7	16.7	18.7	14.0	12.7	12.0	6.7	9.3
歴史が魅力的	17.3	14.7	38.7	20.0	25.3	14.7	18.0	14.0	14.7	13.3
祭りや工芸品などの 伝統文化が魅力的	20.0	17.3	38.0	28.7	22.0	27.3	20.0	21.3	18.0	8.0
温泉が豊富で魅力的	14.0	13.3	22.7	12.0	22.0	16.7	9.3	8.7	10.7	24.7
遊びたい・体験したい アクティビティがある	16.0	14.7	34.7	17.3	18.7	19.3	12.0	12.7	16.0	13.3
食べ物が美味しい	22.7	22.7	38.0	23.3	25.3	20.7	22.0	19.3	22.0	13.3
人が親切そう、 人情がありそう	22.0	22.7	35.3	28.0	23.3	24.0	22.0	21.3	21.3	14.7
ショッピングが 楽しめそう	12.7	10.7	38.7	18.0	16.0	10.0	12.0	10.0	11.3	16.0
秘境の地である	24.7	16.0	20.7	15.3	16.7	20.7	17.3	16.0	21.3	25.3

注) 色がついている項目は 30%以上の回答があったもの

■九州と聞いて思い浮かべるもの・こと

- ・ 最も多かったキーワードが「火山」であった。5カ国のうち、「火山」が最多のキーワードであった国はフランスのみである。修飾語を見ると、現在も活動している火山であるということがよく知られていることが分かる。
- ・ 次いで、「食」に関するものが多く挙げた。「美味しい」や「伝統的」といった修飾語が多く用いられていたが、寿司やラーメンなど具体的な食べ物に関する記述も見られた。
- ・ 「温泉」については「天然温泉」という記述が散見されたほか、具体的な温泉地として別府温泉の記述も見られた。
- ・ いくつかのキーワードにおいて「美しい」という修飾語が多用されている。

表 2-7 フランス人訪日経験者が九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(N=150)

回答数	キーワード	修飾語・具体的な固有名詞
35	火山	活火山、日本最大の、日本で最も活動的な
22	食	美味しい、地元の、伝統的な、健康で自然的な、多様な、エキゾチックな、寿司、魚、ラーメン
18	温泉	美しい、天然の、別府温泉
15	気候	素晴らしい、快適な、良い、温暖な、暖かい
12	島	南の、南西の、美しい
10	ビーチ・海	美しい
9	景色・風景	自然の、美しい
8	リラックス	休息、静けさ、穏やか
6	文化	壮大な、伝統、日本の

注)回答数が5以上のキーワードを抽出

■九州の主な観光資源への関心

- ・ 50 資源における「とても旅行してみたい」と回答した割合の平均値は 46.5%であった。対象 5カ国の中では、アメリカ(52.2%)に次いで2番目に関心度の高い国である。
- ・ 「とても旅行してみたい」が最も多かったのは仙巖園(鹿児島県)で 56.0%であった。次いで、砂蒸し風呂(鹿児島県)が 55.3%、河内藤園(福岡県)が 54.7%、沖ノ島(福岡県)と由布院温泉(大分県)が 53.3%の順に続いている。
- ・ 50 資源における「旅行したいと思わない」と回答した割合の平均値は 20.5%であった。対象 5カ国の中では、アメリカ(18.3%)に次いで低い結果であった。
- ・ 「旅行したいと思わない」が最も多かったのは椎葉村(宮崎県)で 34.7%であった。次いで、五家荘(熊本県)が 30.7%、潜伏キリシタン関連遺産が 27.3%、有明海が 26.0%の順に続いている。

表 2-8 「とても旅行してみたい」「旅行したいと思わない」上位 10 資源

「とても旅行してみたい」上位		「旅行したいと思わない」上位	
仙巖園	56.0%	椎葉村	34.7%
砂蒸し風呂	55.3%	五家荘	30.7%
河内藤園	54.7%	潜伏キリシタン関連遺産	27.3%
沖ノ島	53.3%	有明海	26.0%
由布院温泉	53.3%	祭り	24.7%
杵築の城下町	52.7%	佐賀バルーンフェスタ	24.0%
阿蘇山	52.0%	果物狩り	24.0%
鵜戸神宮	52.0%	臼杵石仏	23.3%
九十九島	51.3%	観光列車	23.3%
トレッキング	51.3%	茶畑	23.3%
フランス平均	46.5%	フランス平均	20.5%

図 2-7 フランス人訪日経験者における九州の主な観光資源への関心

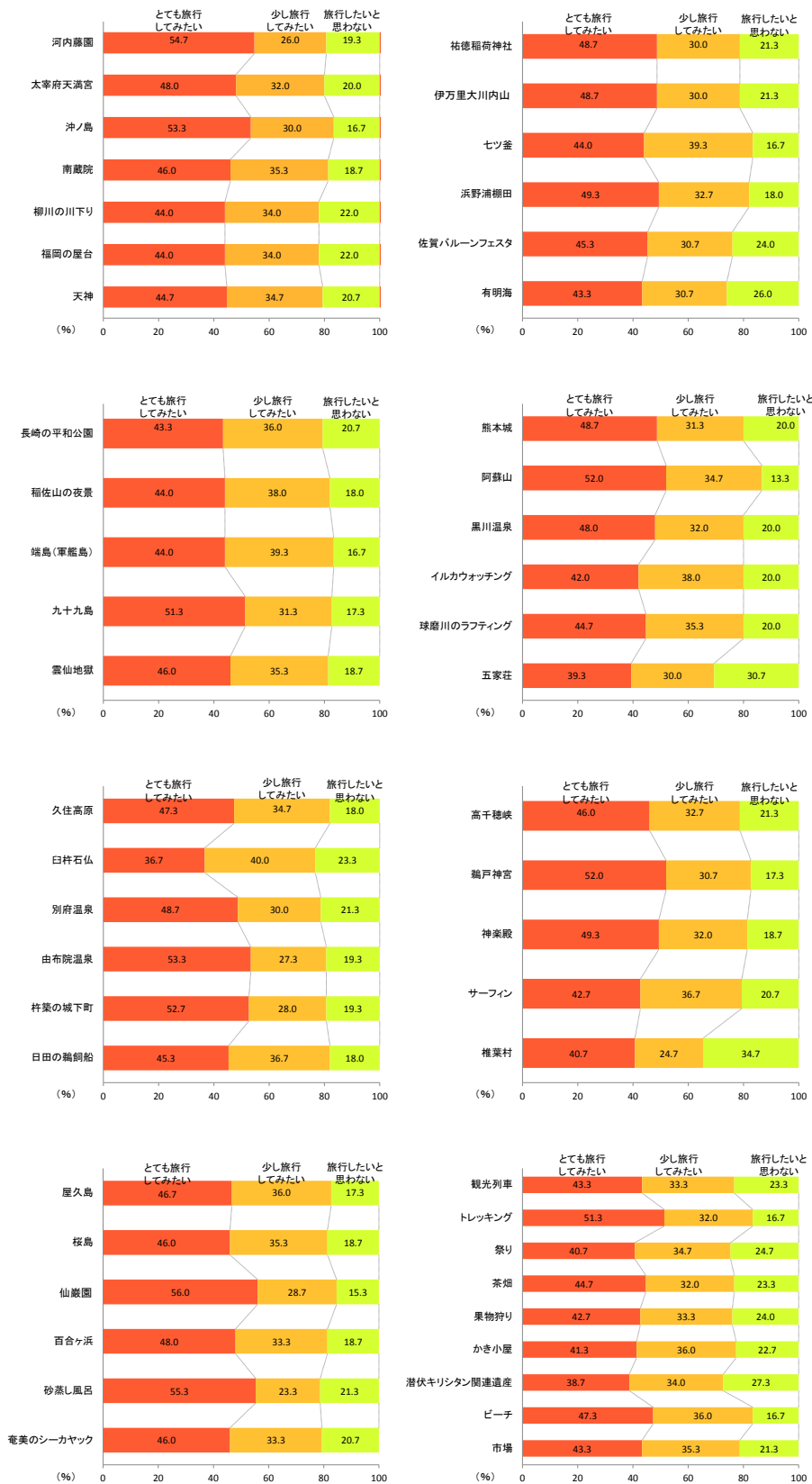
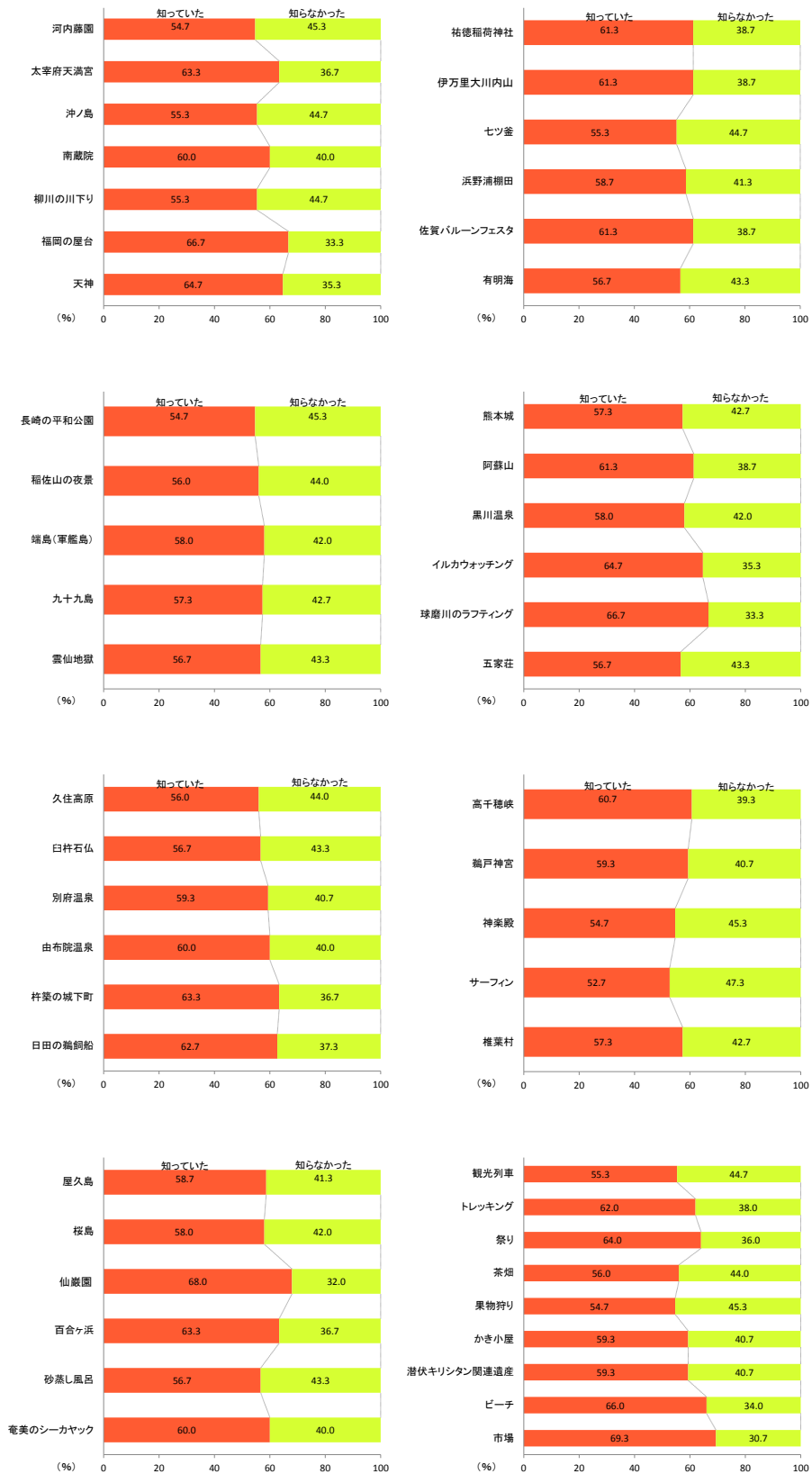


図 2-8 フランス人訪日経験者における九州の主な観光資源の認知(参考)



③ドイツ

■回答者の属性

- ・ 回答者を年齢別にみると、30代が最も多く43.3%であった。次いで20代が22.7%、40代が16.0%、50代が10.7%の順に多かった。
- ・ 男女別にみると、男性62.7%に対し女性37.3%と、男性の方が多い。
- ・ 男女・年齢別にみると、最も回答が多かったのは30代男性で30.0%であった。次いで30代女性が13.3%、20代女性が12.0%、20代男性が10.7%の順に続いている。

表 2-9 ドイツ人の回答者属性(N=150)

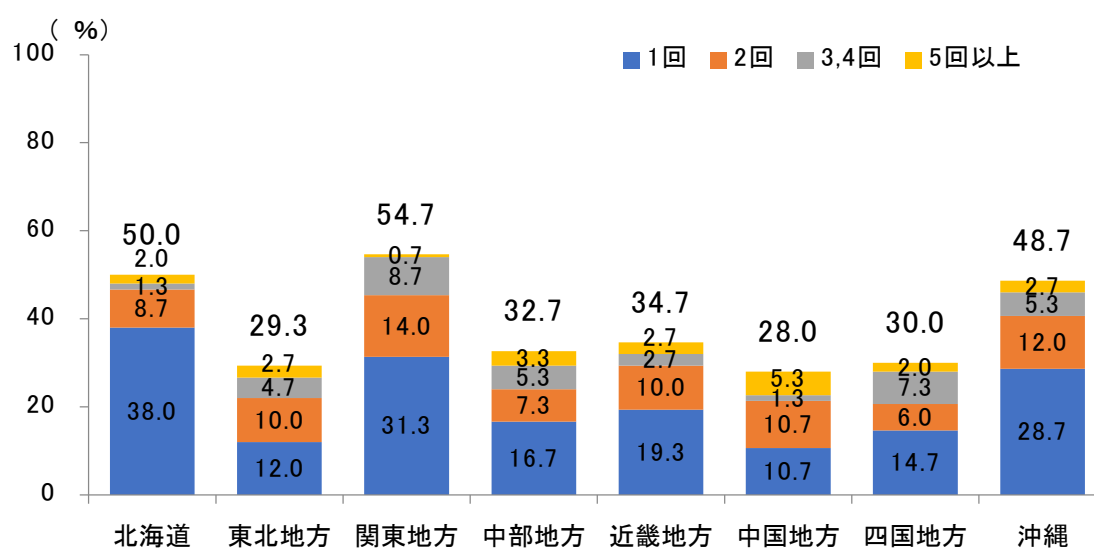
(単位: %)

	年齢計	年齢別							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男女計	100.0	0.0	22.7	43.3	16.0	10.7	4.7	2.7	0.0
男性	62.7	0.0	10.7	30.0	8.0	7.3	4.0	2.7	0.0
女性	37.3	0.0	12.0	13.3	8.0	3.3	0.7	0.0	0.0

■地方ごとの訪日経験(九州地方を除く)

- ・ 回答者の地方ごとの訪日経験をみると、最も多いのが関東地方で54.7%が訪問経験を有している。
- ・ 次いで北海道が50.0%、沖縄が48.7%と続いており、直航便のある近畿地方や中部地方を上回っている。

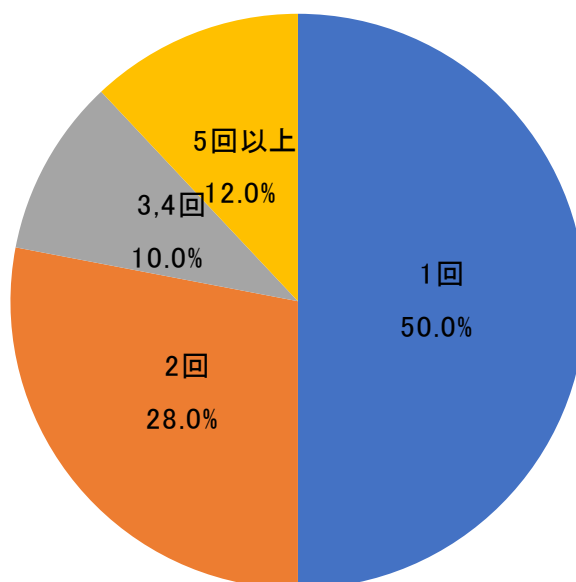
図 2-9 ドイツ人訪日経験者における地方ごとの訪日経験(N=150)



■九州への訪問回数(訪九州経験者のみ)

- ・ 訪九州経験者における九州への訪問回数をみると、訪問回数1回が半数を占めている。次いで2回が28.0%、5回以上が12.0%の順が続いている。

図 2-10 ドイツ人旅行者の九州への訪問回数(N=50)



■ 地方ごとのイメージ

- ・ 「自然や風景が美しい」については、半数以上の 57.3%が北海道を挙げている。ドイツ人で半数以上の回答を集めた項目・地方はこの一つのみである。
- ・ 関東地方は 10 のイメージのうち6項目で、北海道も5項目で3割以上の回答が集まった。
- ・ 九州地方のイメージでは、「人が親切そう、人情がありそう」において 31.3%と一定のイメージが根付いていることが分かる。これは、北海道、関東地方に次いで高い。
- ・ 「温泉が豊富で魅力的」と「遊びたい・体験したいアクティビティがある」の2項目については、全ての地方でイメージが根付いていないことが分かった。

表 2-10 ドイツ人訪日経験者における地方ごとのイメージ

(単位: %)

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	わからない
自然や風景が美しい	57.3	22.7	20.0	21.3	22.7	18.7	17.3	22.0	25.3	8.7
街並みや建造物が魅力的	22.0	20.7	40.7	14.7	20.7	14.0	12.7	9.3	18.7	8.7
歴史が魅力的	26.7	20.0	38.0	18.7	22.0	18.7	14.0	16.7	20.7	10.7
祭りや工芸品などの 伝統文化が魅力的	31.3	21.3	33.3	20.7	20.7	20.0	21.3	19.3	25.3	10.0
温泉が豊富で魅力的	17.3	12.7	18.7	15.3	15.3	15.3	10.0	14.0	16.0	23.3
遊びたい・体験したい アクティビティがある	28.0	22.7	27.3	18.7	20.0	22.7	16.7	12.7	28.0	10.7
食べ物が美味しい	31.3	23.3	31.3	20.7	24.0	20.7	26.7	20.7	25.3	7.3
人が親切そう、 人情がありそう	36.0	26.7	33.3	26.7	26.0	22.7	19.3	31.3	31.3	8.0
ショッピングが 楽しめそう	20.7	12.0	32.0	11.3	18.0	15.3	9.3	9.3	21.3	11.3
秘境の地である	31.3	12.7	16.0	10.0	15.3	12.0	12.7	13.3	20.7	18.0

注) 色がついている項目は 30%以上の回答があったもの

■九州と聞いて思い浮かべるもの・こと

- ・ 最も多かったキーワードが「食」に関するものであった。「美味しい」だけでなく「高品質」であることを挙げた回答も見られた。
- ・ 次に、「火山」に関連するキーワードが多かった。「多くの」火山があることを認識している回答があった一方、火山を「脅威」だにとらえる回答も見られた。
- ・ 「景色」についても多く見られた。「素晴らしい」「美しい」といった修飾語だけでなく、「大都市には無い」風景をイメージする人も見られた。
- ・ 全体の1割近くが「島」というキーワードを挙げている。九州を大きな島だと認識しているものと思料する。

表 2-11 ドイツ人訪日経験者が九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(N=150)

回答数	キーワード	修飾語・具体的な固有名詞
28	食	美味しい、高品質な、非常に良い牛肉、肉の串焼き、伝統料理、生の魚
18	火山	活火山、多くの、脅威
16	景色	素晴らしい、美しい、良い、大都市には無い、息をのむような
14	温泉	天然の、別府温泉
13	島	最南端の、日本で三番目に大きい、小さな
7	自然	手付かずの、多くの、美しい
7	人	素敵な、フレンドリーな、友好的
6	文化	美しい、偉大な、文化都市
6	ビーチ	
5	山	

注)回答数が5以上のキーワードを抽出

■九州の主な観光資源への関心

- ・ 50 資源における「とても旅行してみたい」と回答した割合の平均値は 45.0%であった。対象 5カ国の中では、オーストラリア(43.3%)に次いで2番目に低い結果となった。
- ・ 「とても旅行してみたい」が最も多かったのは雲仙地獄(長崎県)で 52.0%であった。次いで、河内藤園(福岡県)が 51.3%、日田の鵜飼船(大分県)と百合ヶ浜(鹿児島県)が 50.7%、浜野浦棚田(佐賀県)と端島(長崎県)が 50.0%の順に続いている。
- ・ 50 資源における「旅行したいと思わない」と回答した割合の平均値は 24.0%であった。対象 5カ国の中ではオーストラリア(24.1%)に次いで2番目に高い結果である。
- ・ 「旅行したいと思わない」が最も多かったのは椎葉村(宮崎県)で 36.7%であった。次いで、五家荘(熊本県)が 30.7%、サーフィンとかき小屋が 30.0%、潜伏キリシタン関連遺産が 29.3%の順に続いている。

表 2-12 「とても旅行してみたい」「旅行したいと思わない」上位 10 資源

「とても旅行してみたい」上位		「旅行したいと思わない」上位	
雲仙地獄	52.0%	椎葉村	36.7%
河内藤園	51.3%	五家荘	30.7%
日田の鵜飼船	50.7%	サーフィン	30.0%
百合ヶ浜	50.7%	かき小屋	30.0%
浜野浦棚田	50.0%	潜伏キリシタン関連遺産	29.3%
端島(軍艦島)	50.0%	九十九島	28.7%
柳川の川下り	49.3%	高千穂峡	28.7%
阿蘇山	49.3%	有明海	28.0%
仙巖園	49.3%	熊本城	28.0%
イルカウォッチング	48.7%	杵築の城下町	27.3%
由布院温泉	48.7%	太宰府天満宮	27.3%
杵築の城下町	48.7%	福岡の屋台	27.3%
		トレッキング	27.3%
ドイツ平均	45.0%	ドイツ平均	24.0%

図 2-11 ドイツ人訪日経験者における九州の主な観光資源への関心

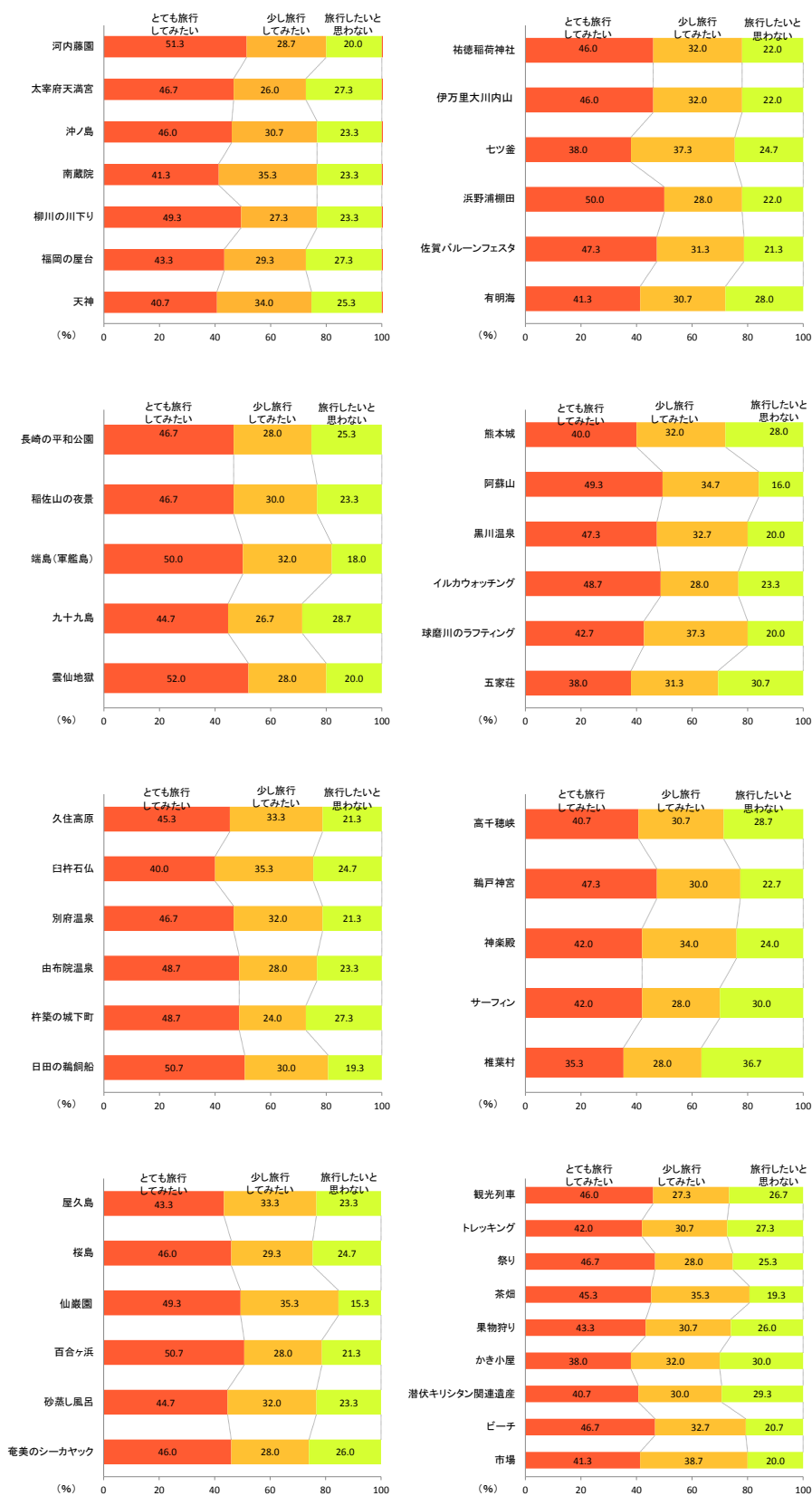
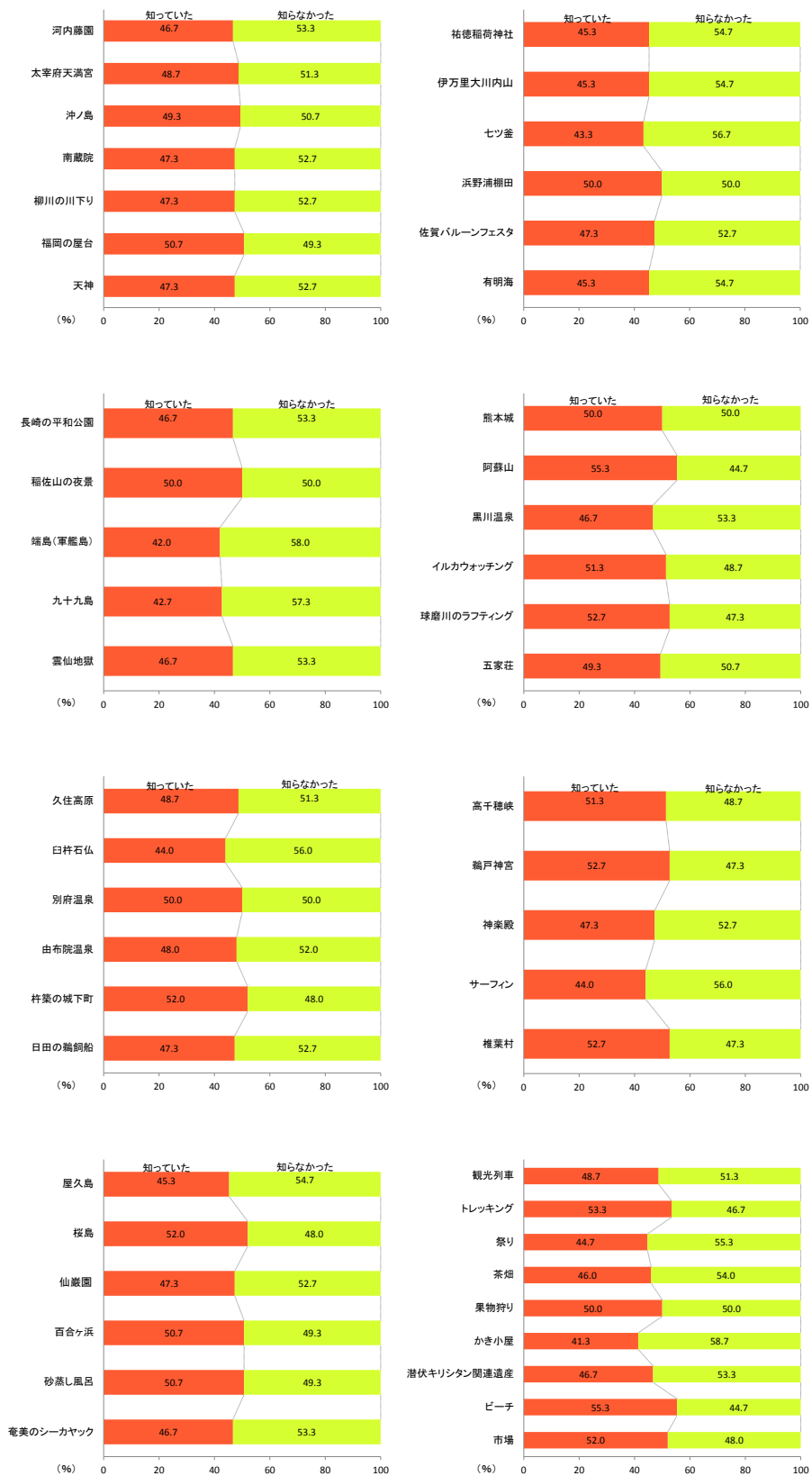


図 2-12 ドイツ人訪日経験者における九州の主な観光資源の認知(参考)



④アメリカ

■回答者の属性

- ・ 回答者を年齢別にみると、30代が最も多く37.3%であった。次いで40代が18.0%、20代と50代がそれぞれ14.0%の順に多かった。
- ・ 男女別にみると、女性52.7%に対し男性47.3%と、女性の方が若干多かった。
- ・ 男女・年齢別にみると、最も回答が多かったのは30代男性で23.3%であった。次いで30代女性が14.0%、40代女性が10.7%の順が続いている。

表 2-13 アメリカ人の回答者属性(N=150)

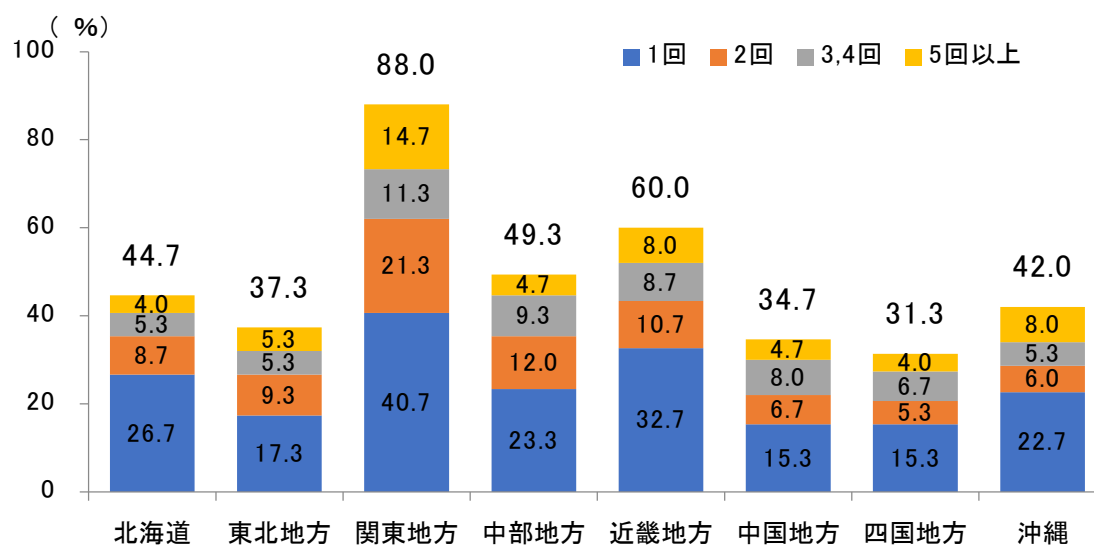
(単位: %)

	年齢計	年齢別							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男女計	100.0	0.7	14.0	37.3	18.0	14.0	10.7	5.3	0.0
男性	47.3	0.7	4.7	23.3	7.3	4.7	4.7	2.0	0.0
女性	52.7	0.0	9.3	14.0	10.7	9.3	6.0	3.3	0.0

■地方ごとの訪日経験(九州地方を除く)

- ・ 回答者の地方ごとの訪日経験をみると、最も多いのが関東地方で88.0%が訪問経験を有している。次いで近畿地方が60.0%と続いており、国内の欧米豪とのゲートウェイである成田・羽田・関空を有する2地方の訪日経験が高い。
- ・ その他の地方では、中部地方が49.3%、北海道が44.7%の順に多くなっている。

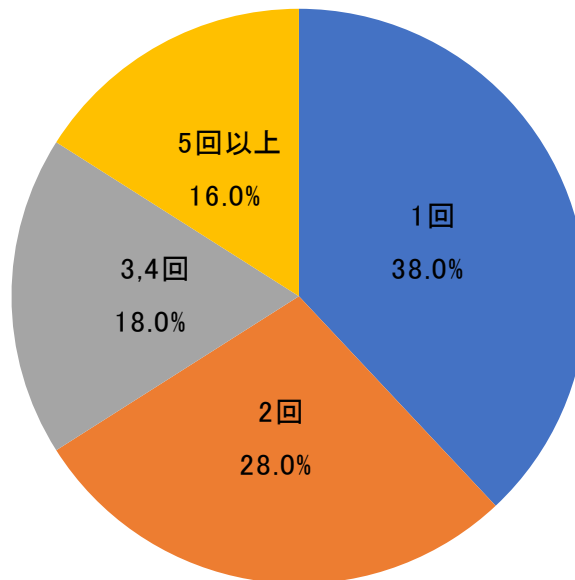
図 2-13 アメリカ人訪日経験者における地方ごとの訪日経験(N=150)



■九州への訪問回数(訪九州経験者のみ)

- ・ 訪九州経験者における九州への訪問回数をみると、最も多いのは訪問回数1回で 38.0%であった。次いで2回が 28.0%、3,4回が 18.0%の順が続いている。

図 2-14 アメリカ人旅行者の九州への訪問回数(N=50)



■ 地方ごとのイメージ

- ・ アメリカは、5カ国の中で最も地方別のイメージが根付いている国である。10 のイメージ全てでいずれかの地方が3割以上の回答を集めている。
- ・ 最もイメージが根付いているのは関東地方の「歴史が魅力的」、次いで北海道の「自然や風景が美しい」で、いずれも6割以上が回答している。
- ・ その一方で、上記2項目のほか「食べ物が美味しい」「人が親切そう、人情がありそう」の3項目では、全ての地方のイメージが3割以上となっており、日本全体に共通するイメージであるということも言える。
- ・ 九州地方のイメージは、「人が親切そう、人情がありそう」が 40.0%であり、関東地方、近畿地方に次いで高い結果となった。また、この項目とあわせて「自然や風景が美しい」「歴史が魅力的」「祭りや工芸品などの伝統文化が魅力的」「食べ物が美味しい」の計5項目では3割以上が九州を挙げている。

表 2-14 アメリカ人訪日経験者における地方ごとのイメージ

(単位: %)

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	分からない
自然や風景が美しい	62.0	36.7	36.0	38.0	41.3	34.0	32.0	36.7	43.3	8.7
街並みや建造物が魅力的	30.0	34.7	54.7	30.0	46.7	27.3	26.0	26.7	32.0	7.3
歴史が魅力的	32.7	30.0	63.3	39.3	43.3	34.0	32.7	30.0	38.0	3.3
祭りや工芸品などの 伝統文化が魅力的	37.3	28.7	48.7	41.3	42.7	31.3	31.3	30.0	36.7	8.0
温泉が豊富で魅力的	28.7	20.7	24.7	22.7	34.0	15.3	18.7	21.3	21.3	24.0
遊びたい・体験したい アクティビティがある	33.3	19.3	46.0	30.0	40.7	33.3	25.3	24.0	32.7	10.7
食べ物が美味しい	42.7	35.3	59.3	41.3	50.0	35.3	42.0	34.7	38.0	6.0
人が親切そう、 人情がありそう	38.7	33.3	52.7	39.3	45.3	34.0	30.7	40.0	39.3	6.7
ショッピングが 楽しめそう	21.3	17.3	57.3	22.7	36.0	18.7	19.3	16.0	32.7	5.3
秘境の地である	40.0	24.7	20.7	28.0	21.3	23.3	22.0	22.7	36.0	16.7

注) 色がついている項目は 30%以上の回答があったもの

■九州と聞いて思い浮かべるもの・こと

- ・ 回答者の3分の1以上が挙げたものが「食」に関するものであった。多くは「美味しい」という修飾語とともに書かれており、好意的なイメージがあるものと思料する。また、具体的なイメージについても「とんこつラーメン」をはじめとして「宮崎牛」「カステラ」「屋台」など詳細な内容を認識していることが分かる。
- ・ 次いで、「温泉」と「人」に関するものが多く挙げた。「温泉」については、「天然温泉」という回答がいくつか見られたほか、具体的な温泉地として由布院温泉を挙げた回答者もいた。
- ・ 「火山」についても多く見られた。回答の多くが「活火山」という風に記されていた。
- ・ 「亜熱帯気候」というイメージが少なくない。沖縄とのイメージ誤認もしくは奄美のイメージが九州としてのイメージとして定着しているものと思料する。

表 2-15 アメリカ人訪日経験者が九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(N=150)

回答数	キーワード	修飾語・具体的な固有名詞
65	食	美味しい、素晴らしい、地元の、伝統的な、ユニークな、屋台、宮崎牛、ふぐ、米、寿司、カステラ、酒、ワイン、(とんこつ)ラーメン
25	温泉	野外の、泥の、天然の、由布院温泉
16	人	親切的な、フレンドリーな、良い、素敵な
14	火山	活火山
9	景色・風景	素晴らしい、神々しい、美しい
6	島	日本で3番目に大きな、端島
6	ビーチ	
6	歴史	興味深い、歴史的建造物
5	自然	
5	山	阿蘇山
5	亜熱帯気候	熱帯の、湿度が高い

注)回答数が5以上のキーワードを抽出

■九州の主な観光資源への関心

- ・ 50 資源における「とても旅行してみたい」と回答した割合の平均値は 52.2%であった。対象 5カ国の中では、最も関心度の高い国である。
- ・ 「とても旅行してみたい」が最も多かったのは河内藤園(福岡県)で 62.7%であった。次いで、阿蘇山(熊本県)が 60.7%、太宰府天満宮(福岡県)、イルカウォッチング、別府温泉(大分県)、由布院温泉(大分県)、桜島(鹿児島県)が 60.0%の順に続いている。
- ・ 50 資源における「旅行したいと思わない」と回答した割合の平均値は 18.3%であった。対象 5カ国の中では最も低い結果である。
- ・ 「旅行したいと思わない」が最も多かったのは椎葉村(宮崎県)で 35.3%であった。次いで、天神(福岡県)が 32.0%、五家荘(熊本県)が 28.7%、潜伏キリシタン関連遺産が 26.0%、高千穂峡(宮崎県)が 24.7%の順に続いている。

表 2-16 「とても旅行してみたい」「旅行したいと思わない」上位 10 資源

「とても旅行してみたい」上位		「旅行したいと思わない」上位	
河内藤園	62.7%	椎葉村	35.3%
阿蘇山	60.7%	天神	32.0%
太宰府天満宮	60.0%	五家荘	28.7%
イルカウォッチング	60.0%	潜伏キリシタン関連遺産	26.0%
別府温泉	60.0%	高千穂峡	24.7%
由布院温泉	60.0%	臼杵石仏	23.3%
桜島	60.0%	かき小屋	22.7%
久住高原	59.3%	果物狩り	22.7%
沖ノ島	58.7%	観光列車	22.7%
鵜戸神宮	58.7%	球磨川のラフティング	21.3%
市場	58.7%	サーフィン	21.3%
		茶畑	21.3%
		有明海	21.3%
アメリカ平均	52.2%	アメリカ平均	18.3%

図 2-15 アメリカ人訪日経験者における九州の主な観光資源への関心

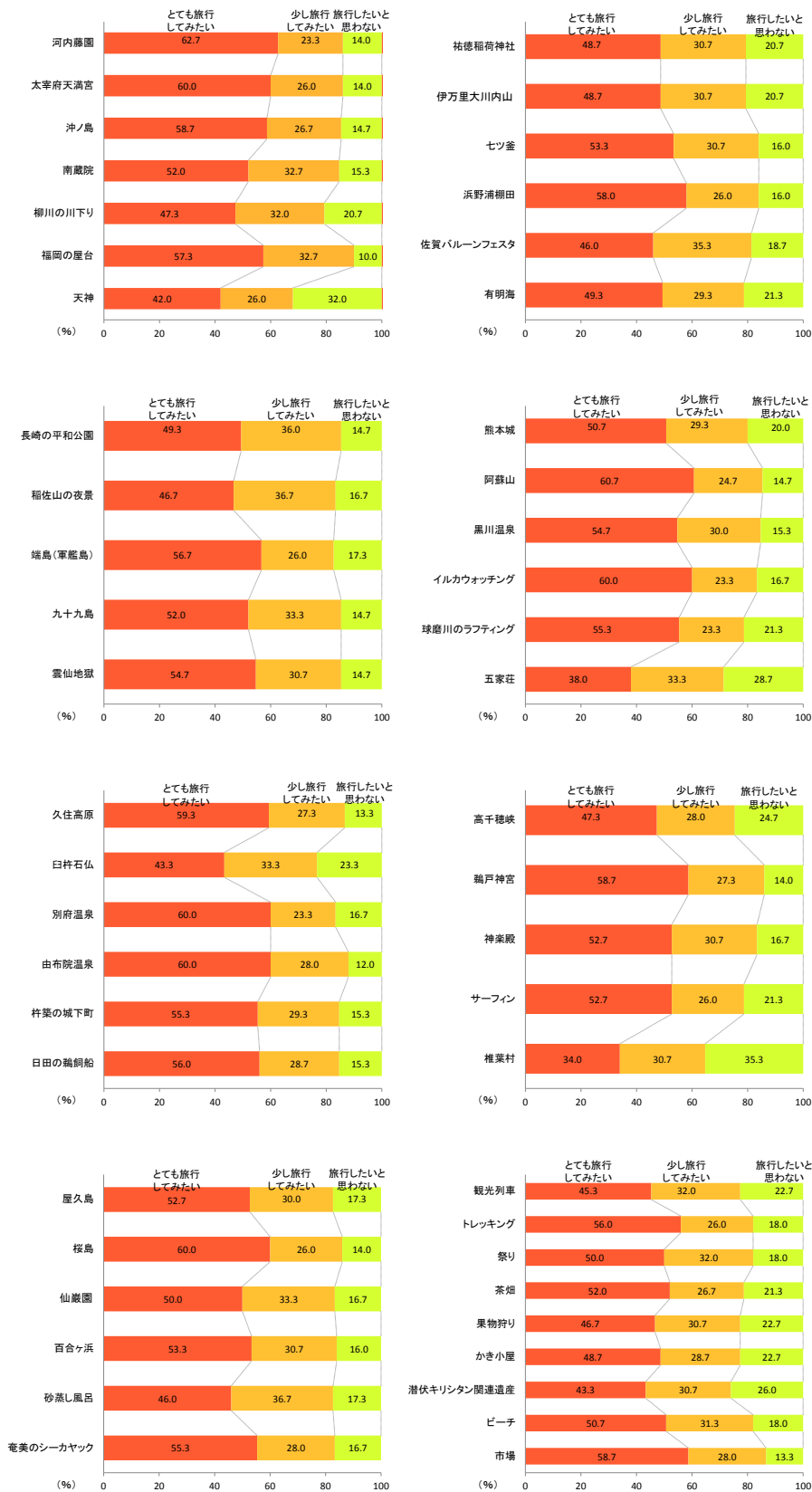


図 2-15 アメリカ人訪日経験者における九州の主な観光資源の認知(参考)



⑤オーストラリア

■回答者の属性

- ・ 回答者を年齢別にみると、30代が最も多く31.3%であった。次いで20代が26.0%、40代が14.7%、50代が10.7%の順に多かった。
- ・ 男女別にみると、男性50.0%に対し女性50.0%と同数であった。
- ・ 男女・年齢別にみると、最も回答が多かったのは30代男性で17.3%であった。次いで20代女性が16.0%、30代女性が14.0%、20代男性が10.0%の順に続いている。

表 2-17 オーストラリア人の回答者属性(N=150)

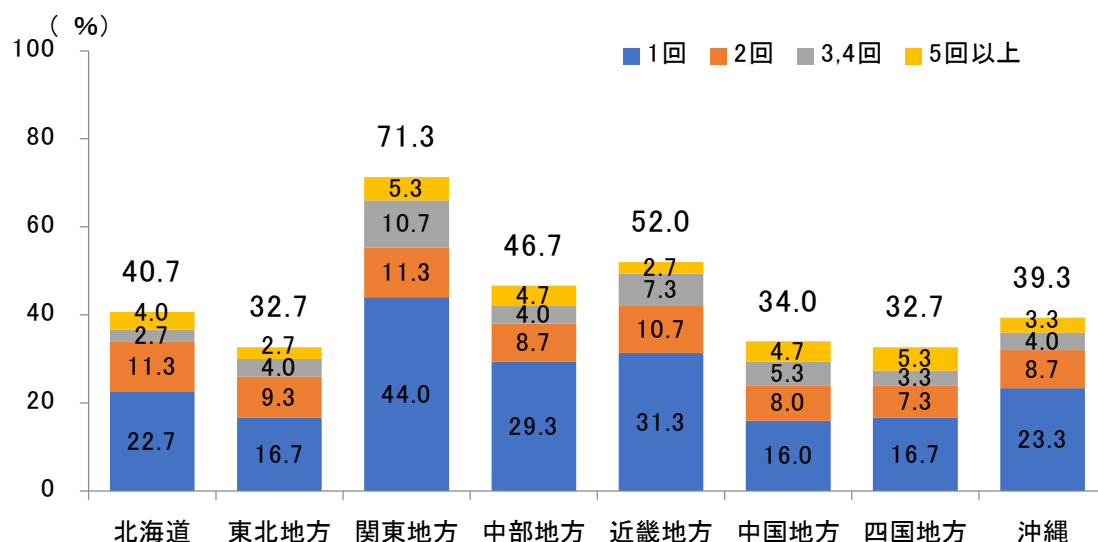
(単位: %)

	年齢計	年齢別							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男女計	100.0	0.7	26.0	31.3	14.7	10.7	10.0	6.0	0.7
男性	50.0	0.7	10.0	17.3	8.0	4.7	5.3	4.0	0.0
女性	50.0	0.0	16.0	14.0	6.7	6.0	4.7	2.0	0.7

■地方ごとの訪日経験(九州地方を除く)

- ・ 回答者の地方ごとの訪日経験をみると、最も多いのが関東地方で71.3%が訪問経験を有している。次いで近畿地方が52.0%と続いており、国内の欧米豪とのゲートウェイである成田・羽田・関空を有する2地方の訪日経験が高い。
- ・ その他の地方では、中部地方が46.7%、北海道が40.7%、沖縄が39.3%の順に多くなっている。

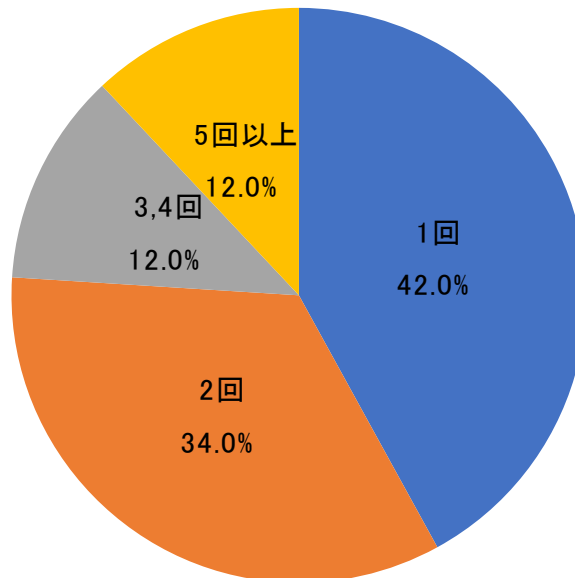
図 2-17 オーストラリア人訪日経験者における地方ごとの訪日経験(N=150)



■九州への訪問回数(訪九州経験者のみ)

- ・ 訪九州経験者における九州への訪問回数をみると、最も多いのは訪問回数1回で42.0%と半数近くを占めている。次いで2回が34.0%、3,4回と5回以上がそれぞれ12.0%であった。

図 2-18 オーストラリア人旅行者の九州への訪問回数(N=50)



■ 地方ごとのイメージ

- ・ 最もイメージが強い項目・地方は「自然や風景が美しい」における北海道で 47.3%であった。半数以上が回答した項目・地方は一つも見られなかった。
- ・ 関東地方は 10 のイメージのうち8項目で、近畿地方は5項目で3割以上の回答が集まった。
- ・ 九州地方のイメージはいずれの項目でも回答が少なかった。最も回答が集まったのが「自然や風景が美しい」で 28.7%であったが、これは東北地方、四国地方に次いで低い数字である。
- ・ 特に、「温泉が豊富で魅力的」の項目では 8.0%と全ての地方の中で最も低く、国別にみてもフランス(8.7%)と並んで九州＝温泉のイメージが最も根付いていない国であると言える。

表 2-18 オーストラリア人訪日経験者における地方ごとのイメージ

(単位: %)

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	分からない
自然や風景が美しい	47.3	24.0	36.7	34.0	32.0	29.3	26.0	28.7	30.0	8.0
街並みや建造物が魅力的	24.0	24.0	39.3	24.0	30.7	22.7	16.0	20.0	20.7	11.3
歴史が魅力的	25.3	24.7	36.0	24.0	27.3	23.3	16.0	20.0	22.7	12.0
祭りや工芸品などの 伝統文化が魅力的	26.7	20.7	34.7	27.3	33.3	20.0	17.3	20.7	21.3	11.3
温泉が豊富で魅力的	17.3	12.0	15.3	16.7	22.7	12.7	15.3	8.0	13.3	24.7
遊びたい・体験したい アクティビティがある	21.3	15.3	35.3	21.3	28.0	19.3	18.7	17.3	18.0	15.3
食べ物が美味しい	26.0	22.7	34.7	24.0	26.0	30.7	21.3	21.3	23.3	14.7
人が親切そう、 人情がありそう	28.0	27.3	42.7	33.3	35.3	28.0	28.7	26.7	26.7	8.0
ショッピングが 楽しめそう	18.7	13.3	42.7	12.7	24.0	11.3	15.3	10.0	15.3	10.7
秘境の地である	19.3	16.7	24.0	22.0	26.7	19.3	17.3	20.7	21.3	18.0

注) 色がついている項目は 30%以上の回答があったもの

■九州と聞いて思い浮かべるもの・こと

- ・ 回答者の3分の1が挙げたものが「食」に関するものであった。多くは「美味しい」という修飾語とともに書かれていた。具体的なイメージを見ると、「ラーメン」だけでなく「異なる味の麺」「うどん」「どこにも無いスープ」と麺類に関連する記述が多く見られたことが特徴である。
- ・ 次いで、「温泉」に関するものが多く挙げた。「温泉」については、他の国では見られた「天然の」という修飾語が見られず、かわりに「静かな環境にある」という記述がみられた。
- ・ 「火山」に関する記述が他の4カ国と比べて少なかった「山」とあわせても回答者は1割に満たず、オーストラリアは山や火山があまり九州のイメージに結びついていないことが分かる。

表 2-19 オーストラリア人訪日経験者が九州と聞いて思い浮かべるもの・こと(N=150)

回答数	キーワード	修飾語・具体的な固有名詞
50	食	美味しい、素晴らしい、シンプルな、本物の、美しい、刺身、寿司、ラーメン、異なる味の麺、うどん、エキゾチックな屋台、清潔で良い食べ物、豚肉、どこにも無いスープ、日本食
25	温泉	静かな環境にある
17	景色・風景	美しい、良い、素敵な、風景、山の、静かで美しい
9	人	フレンドリーな、親切な、素晴らしい、フレンドリーな、地元の人との触れ合い
8	火山	活火山、鹿児島の
5	山	素敵な
5	文化	異文化
5	ビーチ	

注)回答数が5以上のキーワードを抽出

■九州の主な観光資源への関心

- ・ 50 資源における「とても旅行してみたい」と回答した割合の平均値は 43.3%であった。対象 5カ国の中では、最も関心度の低い国である。
- ・ 「とても旅行してみたい」が最も多かったのは久住高原(大分県)で 54.7%であった。次いで、鵜戸神宮(宮崎県)が 53.3%、雲仙地獄(長崎県)と奄美のシーカヤック(鹿児島県)が 51.3%、河内藤園(福岡県)と沖ノ島(福岡県)が 50.0%の順に続いている。
- ・ 50 資源における「旅行したいと思わない」と回答した割合の平均値は 24.1%であった。対象 5カ国の中では最も高い結果である。
- ・ 「旅行したいと思わない」が最も多かったのは椎葉村(宮崎県)で 40.7%であった。次いで、五家荘(熊本県)が 32.0%、佐賀バルーンフェスタ(佐賀県)、有明海、かき小屋が 30.0%の順に続いている。

表 2-20 「とても旅行してみたい」「旅行したいと思わない」上位 10 資源

「とても旅行してみたい」上位		「旅行したいと思わない」上位	
久住高原	54.7%	椎葉村	40.7%
鵜戸神宮	53.3%	五家荘	32.0%
雲仙地獄	51.3%	佐賀バルーンフェスタ	30.0%
奄美のシーカヤック	51.3%	有明海	30.0%
河内藤園	50.0%	かき小屋	30.0%
沖ノ島	50.0%	長崎の平和公園	29.3%
杵築の城下町	48.0%	別府温泉	28.7%
市場	48.0%	南蔵院	28.7%
由布院温泉	47.3%	九十九島	28.7%
阿蘇山	46.0%	果物狩り	27.3%
黒川温泉	46.0%	サーフィン	27.3%
球磨川のラフティング	46.0%		
オーストラリア平均	43.3%	オーストラリア平均	24.1%

図 2-19 オーストラリア人訪日経験者における九州の主な観光資源への関心

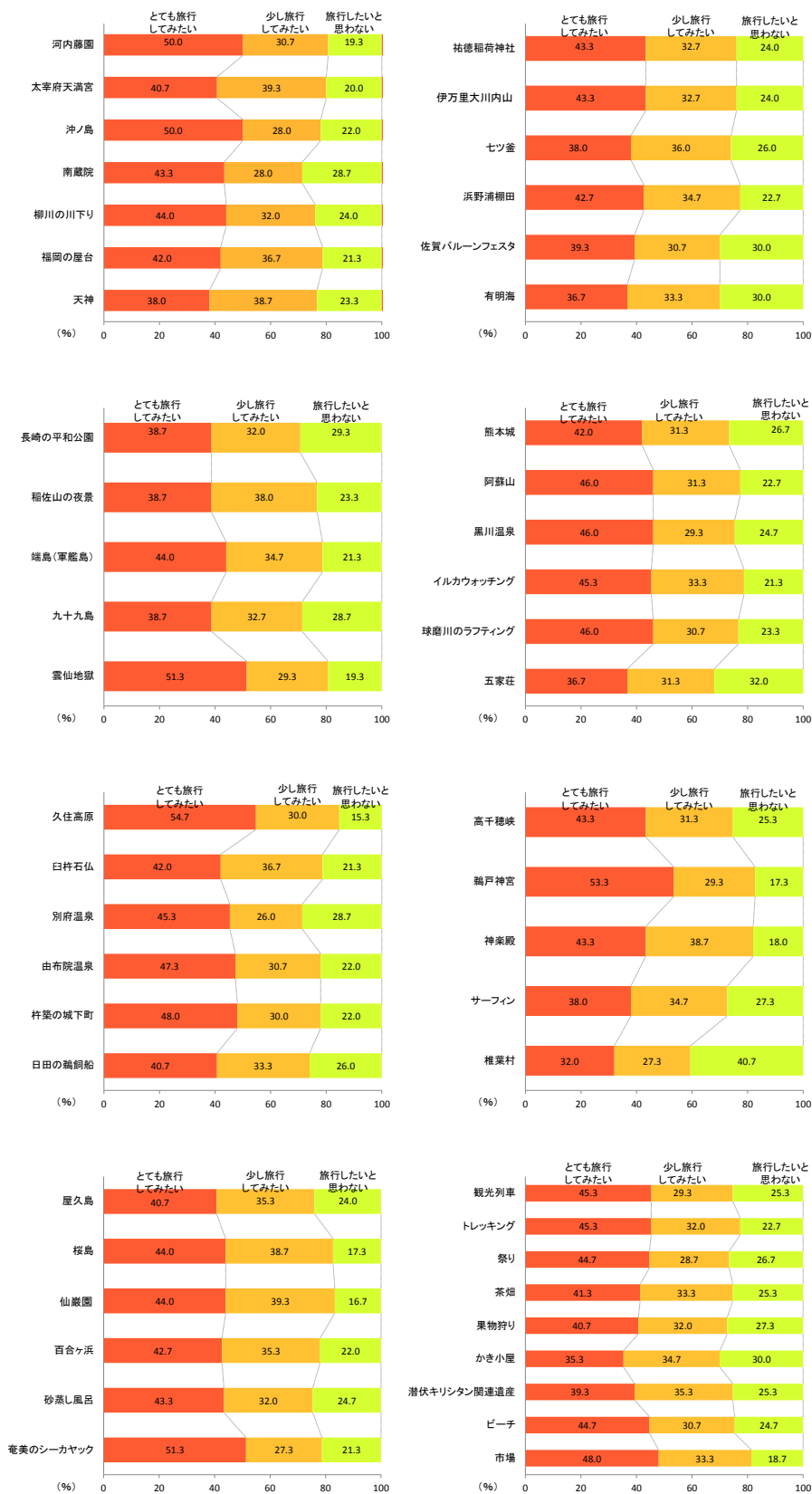
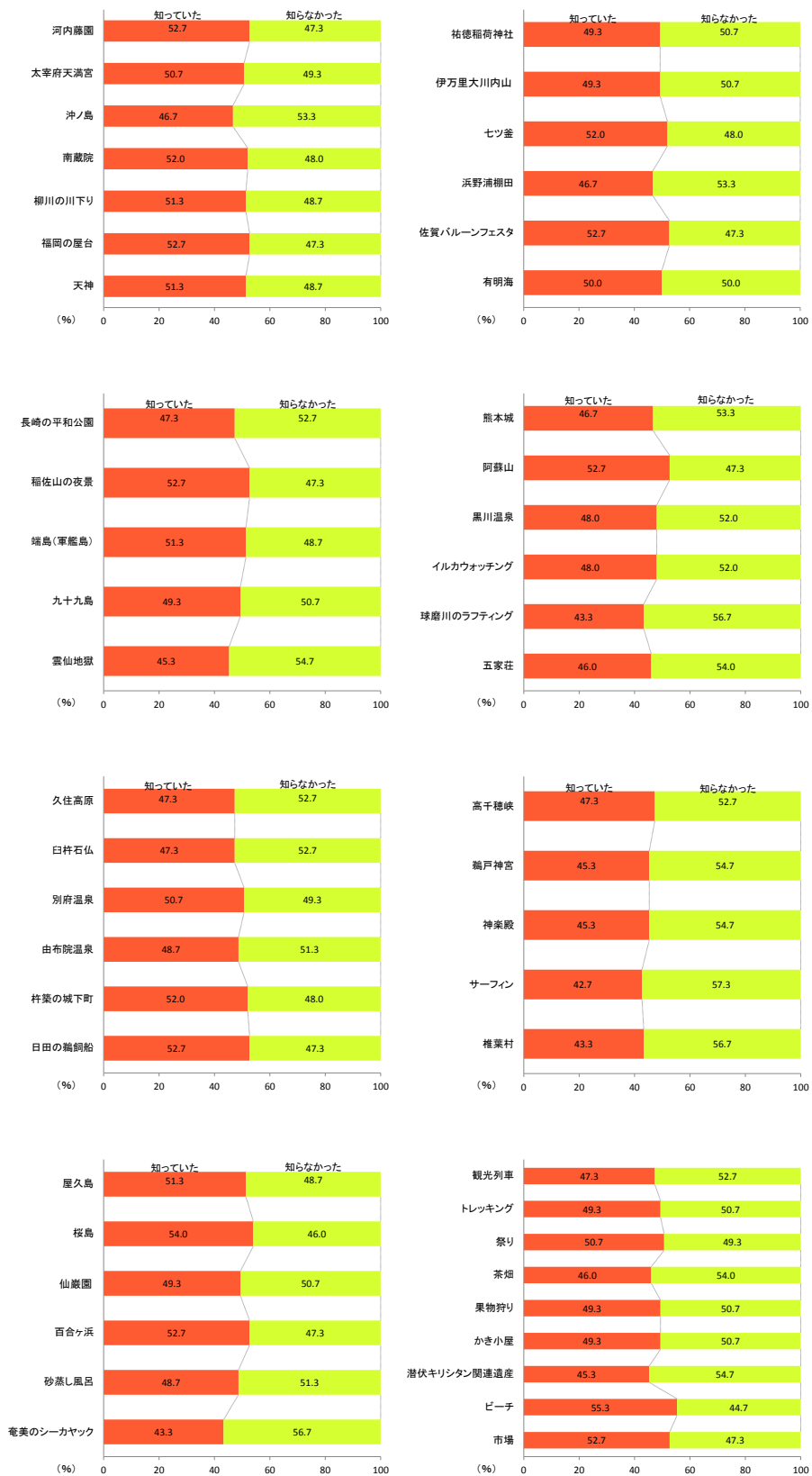


図 2-20 オーストラリア人訪日経験者における九州の主な観光資源の認知(参考)



おわりに

今回の調査により、現状ではまだ僅かに過ぎず、これまで情報に乏しかった欧米豪インバウンドの九州・日本での行動実態や旅行のニーズが明らかになった。

Tripadvisor の分析や外国人観光案内所へのヒアリングにより、同じインバウンドといえど欧米豪とアジアでは関心のアンテナが全く異なることを定性的に明らかにした。Ⅱ章で実施したネットアンケートをアジア各国向けにも実施することで、今後は欧米豪とアジアの関心の違いを定量的に比較することも可能になるだろう。

FF-Data の分析では、欧米豪5カ国それぞれの行動実態を明らかにした。5カ国共通して「関東－九州－関東」という行程が九州訪問の定番ルートであり、九州内での県間の周遊は少なく基本的に滞在型の行程である中、フランス人は相対的に県をまたいだ周遊が多く、4人に1人以上が九州内でのべ3県以上を訪問していることが分かった。

ネットアンケートでは、地方ごとのイメージが「北海道＝自然」のような突出したイメージを除けばほとんど形成されておらず、九州が売りとしている温泉についても全くイメージが無いという現状が明らかになった。また、主要な観光資源の関心度比較では、総じて自然景観への関心が高く、特に「山」を背景に持つ雄大な景観への関心が高いことが分かった。

九州が欧米豪インバウンドの誘客を進めていくためには、マクロな視点とミクロな視点の両面で取り組んでいく必要がある。

マクロな視点(九州全体)では、北海道の自然に匹敵するような強烈なイメージを構築することが最大の課題である。九州ではこれまでも「温泉アイランド九州」としてインバウンド向けにイメージづくりを進めてきたものの、本調査の結果を見る限り、欧米豪向けに成果が出ているとは言い難い。アジア向けと欧米豪向けで異なる戦略を立てることを前提として、例えば欧米豪インバウンドが関心の高い「山・火山」を前面に出し、火山に由来する「温泉」に結び付けてイメージを形成していくようなやり方も有効ではないか。

一方、ミクロな視点(各観光地)では、欧米豪インバウンドの受入体制の充実を図っていく必要がある。具体的な方策として、例えば地元の人と触れ合える機会を創出したり、歴史資源において英語説明を充実させたりすることなどが考えられる。

参考資料

■ 調査票(英語)

S-1 Please tell us your age.

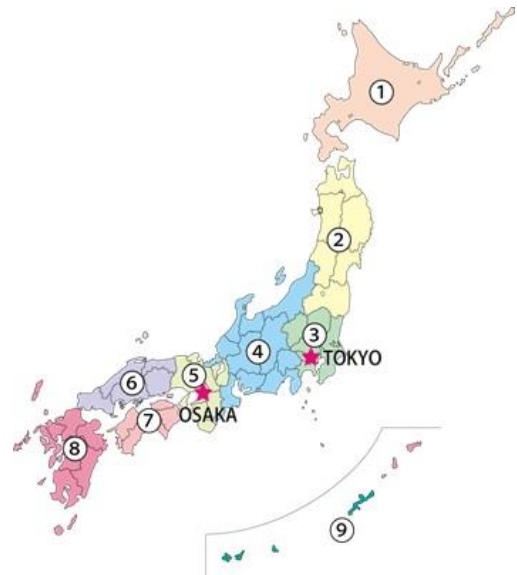
10 - 19 years old	20 - 29 years old	30 - 39 years old
40 - 49 years old	50 - 59 years old	60 - 69 years old
70 - 79 years old	Over 80 years old	

S-2 Please tell us your gender.

Male	Female
------	--------

S-3 Which region/s of Japan have you visited so far? Please also include the number of visits in your answer.

1. Hokkaido (the northernmost region of Japan, which includes Sapporo, Hakodate, and Niseko)
2. Tohoku region (north-eastern region of Japan, which includes Sendai, Aomori, and Fukushima)
3. Kanto region (eastern region of Japan, which includes Tokyo, Yokohama, Hakone, and Chiba)
4. Chubu region (central region of Japan, which includes Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, and Mount Fuji)
5. Kinki Region (central-western region of Japan, which includes Kyoto, Osaka, Kobe, and Nara)
6. Chugoku region (western region of Japan, which includes Hiroshima, Okayama, and Yamaguchi)
7. Shikoku region (western region of Japan, which includes Takamatsu, Kochi, and Tokushima)
8. Kyushu region (western region of Japan, which includes Fukuoka, Nagasaki, and Kagoshima)
9. Okinawa (Japan's southernmost and westernmost region, which includes Naha, Miyakojima, and Ishigakijima)

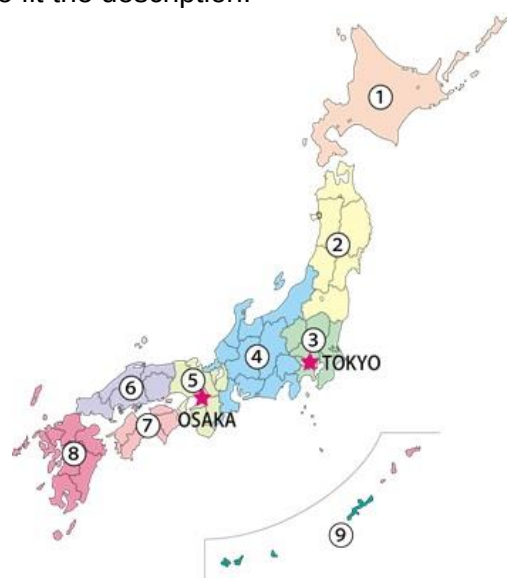


	Once	Twice	Three - four times	More than five times	Never visited / Don't know
1. Hokkaido					
2. Tohoku region					
3. Kanto region					
4. Chubu region					
5. Kinki region					
6. Chugoku region					
7. Shikoku region					
8. Kyushu region					
9. Okinawa					

問1 Which of the following descriptions do you think applies to each Japanese region?

Please select all the regions you think applies to fit the description.

1. Hokkaido (the northernmost region of Japan, which includes Sapporo, Hakodate, and Niseko)
2. Tohoku region (north-eastern region of Japan, which includes Sendai, Aomori, and Fukushima)
3. Kanto region (eastern region of Japan, which includes Tokyo, Yokohama, Hakone, and Chiba)
4. Chubu region (central region of Japan, which includes Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, and Mount Fuji)
5. Kinki Region (central-western region of Japan, which includes Kyoto, Osaka, Kobe, and Nara)
6. Chugoku region (western region of Japan, which includes Hiroshima, Okayama, and Yamaguchi)
7. Shikoku region (western region of Japan, which includes Takamatsu, Kochi, and Tokushima)
8. Kyushu region (western region of Japan, which includes Fukuoka, Nagasaki, and Kagoshima)
9. Okinawa (Japan's southernmost and westernmost region, which includes Naha, Miyakojima, and Ishigakijima)



	1 Hokkaido	2 Tohoku region	...	8 Kyushu region	9 Okinawa	Don't know / Don't have an idea of the region
Beautiful nature and landscapes						
Attractive townscapes and architecture						
Interesting history						
Fascinating traditional culture such as festivals and crafts						
A lot of attractive hot springs						
Many activities that I want to try						
Delicious food						
Kind and friendly people						
Great for shopping						
Secluded and peaceful						

問2 Please tell us what you know (what comes to mind) about the Kyushu region. It can be specific names or abstract ideas.

(Example: Hot springs, ramen, seems hot, food looks tasty, etc.)

問3 Do you know the content of the following pictures? After looking at the picture and reading the description, did it make you want to go there/experience it?

*Click anywhere on the photo to enlarge. (Clicking is optional)

I know (it made me want to go there/experience it)
 I know (it made me want to go there/experience it a little bit)
 I know (it did not make me want to go there/experience it)
 I did not know (it made me want to go there/experience it)
 I did not know (it made me want to go there/experience it a little bit)
 I did not know (it did not make me want to go there/experience it)

■ 問3で使用了観光資源の解説文(英語)

1. Kawachi Wisteria Garden	2. Dazaifu Tenmangū Shrine
A garden with an 80m and 110m wisteria tunnel, a wisteria dome, and wisteria trellises.	Worshipping the god of learning that is enshrined within, more than 2 million worshippers visit the shrine every New Years Day.
3. Okinoshima Island	4. Nanzouin Temple
An island said to be the home of gods. In 2017 the island and its shrines became a UNESCO World Heritage site.	Home to the world's largest bronze reclining Buddha, 41m in length, 11m tall, weighing 300 tons.
5. Yanagawa Kawakudari (Punt Tour)	6. Fukuoka Food Stalls
With rivers criss-crossing the landscape, a punt tour along the water routes is one of the popular attractions.	The food stall culture began after WWII, and even now in Fukuoka there are more than 150 stalls that continue to be loved by the people.
7. Tenjin	8. Yūtoku Inari Shrine
Large department stores and shopping arcades line the streets to meet both your daily shopping needs and luxury shopping.	Considered one of Japan's three biggest Inari shrines, this beautiful shrine's opulent Romon (storied gate) and main shrine are popular as photo spots.

9. Imari Ookawachiyama Village	10. Nanatsugama Caves
The birthplace of Japan's famous porcelain wares. With its stone architecture and brick chimneys, its unique cityscape is also one of its attractions.	As the name suggests, a line of seven caves were created by the erosion of basalt by the waves, deeply gouging the cliffs.
11. Terraced Rice Fields of Hamanoura	12. Saga International Balloon Festival
283 rice fields large and small run up from the coast like steps on a staircase, the atmosphere changes with the seasons, showing various expressions.	Asia's largest hot-air balloon competition held in autumn every year in Saga.
13. Ariake Sea	14. Nagasaki Peace Park
This sea has the largest tidal difference in all of Japan and, therefore, looks completely different between high tide and low tide. Because of this, there are many creatures that can only be seen in the Ariake Sea.	This peace memorial now stands in the park that was built around the epicenter of the atomic bomb that was dropped on August 9th, 1945. There is also a museum that exhibits various material and photos related to the atomic bomb.
15. Mount Inasa Night View	16. Hashima Island (Gunkanjima)
Given the nickname "Ten Million Dollar Night View", along with Monaco and Hong Kong, it is considered as the world's three best night views.	This island once flourished due to its marine coal mines. Though it is now an uninhabited island, the whole island still remains as its prosperity at that time. It became a UNESCO World Heritage site in 2015.
17. Kujukushima Islands	18. Unzen Jigoku (the Hell of Unzen)
The islands of ria coast. With 208 islands, it is known for its beautiful landscapes which can be enjoyed on pleasure boats.	Located within a volcanic region, the smell of sulfur, the scenery of steam and hot air blowing from the ground that covers the entire surface, is a representation of hell.
19. Kumamoto Castle	20. Mount Aso
One of the three best castles of Japan, it is visited by many tourists from both home and overseas.	The world's biggest caldera crater. Apart from being able to see a natural attraction created by a volcano, it is the only place in the world where you can see an active crater from up close.
21. Kurokawa Onsen (Hot Spring)	22. Dolphin Watching
One of Japan's most popular hot springs. In the 2009 edition of Michelin Green Guide Japan, it was given two stars, a rarity for hot springs. Apart from the hot springs, the spa town is also an attraction.	Approximately 300 bottlenose dolphins inhabit the waters of Amakusa. Board a ship and go around the coast to enjoy being surrounded by swimming dolphins.
23. Kuma River Rafting	24. Gokanoshō
One of Japan's three major rapids, Kuma River is a popular spot for white water rafting with its intense currents and scenic views of its nature rich environments.	Since ancient times it was known as a secluded area where people made and lived in small settlements created on riverbanks and slopes. There are still many natural areas untouched by human hands.

25. Kuju Kogen (Plateau)	26. Usuki Stone Buddhas
Thanks to controlled burn and grazing, this plateau has maintained a vast grassland. You can enjoy the two spectacular but contrasting views of the grassland stretched out flat before you and Mount Kuju towering behind.	These stone Buddhas are designated as National Treasures of Japan. It is said that more than 1000 years have passed since these stone buddhas were carved out of the rocky walls of the satoyama (area between mountain foothills and arable flat land).
27. Beppu Onsen (Hot Spring)	28. Yufuin Onsen (Hot Spring)
With hundreds of hot springs all around the city, Beppu boasts the highest number of hot springs and hot spring wells in all of Japan. The view of vapor from the hot water rising from every part of the city is a sight to behold.	Stylish grocery stores and restaurants stand along quaint streets with rural remains left. In the riverside and the forests outside the bustling cityscape, on top of the hill is dotted with a luxury hot spring resort that represent Japan.
29. Kitsuki Castle Town	30. Cormorant Fishing in Hita City
The samurai residences from the Edo period serve to tell the story of samurai culture. It is said to be the best castle town in Japan.	Watch traditional cormorant fishing while sitting in a Yakatabune (traditional private boat) and enjoying a meal.
31. Takachiho Gorge	32. Udo-jingū Shrine
A cliff that reaches as high as 80m-100m stretch on for 7km. The scenery can be enjoyed both from the top of the cliff and from below on a boat.	A Shinto shrine where the main shrine is located in a cave in the side of a cliff facing the sea. Climb the stone steps created along the cliffs to visit the shrine.
33. Kaguraden (Kagura Hall)	34. Surfing
Kaguras (Shinto theatrical dance) are held every night in the Kagura hall of Takachiho Shrine. Anyone can visit and experience traditional culture and Japanese myths.	The coasts of Miyazaki are known as some of Japan's best surfing spots with their warm waters and gnarly waves.
35. Shiiba Village	36. Yakushima
A mountain village located in the central mountainous regions of Kyushu. The original Japanese landscape can be felt from the beauty of the seasonal nature and people's lifestyles.	Japanese cedar forests and other pristine environments are preserved. About 20% of the island is registered as a UNESCO Natural Heritage site.
37. Sakurajima	38. Sengan-en Garden
A volcano located in Kagoshima bay. Active even today, the smoke can be seen every day from the cities in Kagoshima less than 10km away.	A Japanese garden built in 1658. It is characterized by its extensive area and magnificent views of Sakurajima and Kagoshima Bay, the symbols of Kagoshima.

39. Yurigahama Beach	40. Steamed Sand Baths
A small white sandy beach that reveals itself only at low tide in the offshore of Yoron Island. The white sand and the emerald green ocean makes it look like paradise on Earth.	The only naturally occurring steamed sand hot springs in the world. The sand on the beach is heated by hot springs where warm sand baths can be enjoyed.
41. Amami Sea Kayaking	42. Joyful Train / Cruise Train
A beautiful ria coast and a coral-filled underwater landscape. The calm waves also make it perfect to enjoy sea kayaking.	Though the scenic views from the windows are definitely a draw, the interior and exterior of the trains designed by Japanese industrial designers also hold a certain appeal.
43. Trekking	44. Matsuri Festivals
In Kyushu where forests occupy more than 60% of the region, there are various places where you can enjoy hiking, trekking, and even mountain climbing.	Various festivals are held throughout the year all around Kyushu, from audacious festivals that involve Dashi floats moving around at high speeds to dignified festivals that flow gently like a Noh play.
45. Tea Plantation Farm	46. Fruit Picking
Kyushu is the leading Japanese tea production area in the country. Enjoy the beautiful scenery when the plantations turn green around May.	There are many agrotourism farms all over Kyushu where fruit picking of different fruits can be enjoyed depending on the farm and season.
47. Kakigoya Oyster Huts	48. Hidden Christian Sites
In winter, oyster huts line the fishing ports where you can enjoy cooked oysters at reasonable prices. A common way to enjoy them is to sit around the grill to cook the oysters on your own.	The way believers lived and kept their faith during the 250 years of severe religious censorship of Christianity in the Edo Period have been preserved and were registered as a UNESCO World Heritage site in 2018.
49. Beaches	50. Markets
Enjoy Kyushu's many beaches with white sands and clear waters from summer to autumn.	Markets known as the people's kitchens are in all parts of Kyushu. Many of them have arcades so that they can be enjoyed on rainy days without an umbrella.

■ 調査票(フランス語)

S-1 Quel âge avez-vous ?

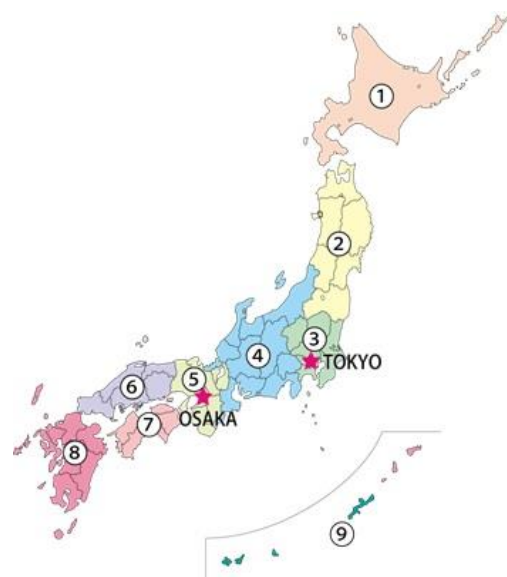
10 à 19 ans	20 à 29 ans	30 à 39 ans
40 à 49 ans	50 à 59 ans	60 à 69 ans
70 à 79 ans	80 ans ou plus	

S-2 Quel est votre sexe ?

Masculin	Féminin
----------	---------

S-3 Quelles régions japonaises avez-vous déjà visitées ? Veuillez indiquer combien de fois pour chaque région.

1. Hokkaido (région à l'extrémité nord du Japon où se trouvent Sapporo, Hakodate, Niseko, etc.)
2. Région de Tohoku (région dans le nord-est du Japon où se trouvent Sendai, Aomori, Fukushima, etc.)
3. Région de Kanto (régions dans l'est du Japon où se trouvent Tokyo, Yokohama, Hakone, Chiba, etc.)
4. Région de Chubu (région dans le centre du Japon où se trouvent Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, le mont Fuji, etc.)
5. Région de Kinki (région dans le centre-ouest du Japon où se trouvent Kyoto, Osaka, Kobe, Nara, etc.)
6. Région de Chugoku (région dans l'ouest du Japon où se trouvent Hiroshima, Okayama, Yamaguchi, etc.)
7. Région de Shikoku (région située dans l'ouest du Japon où se trouvent Takamatsu, Kochi, Tokushima, etc.)
8. Région de Kyushu (région située dans l'ouest du Japon où se trouvent Fukuoka, Nagasaki, Kagoshima, etc.)
9. Okinawa (région à l'extrémité sud / extrémité ouest du Japon où se trouvent Naha, Miyakojima, Ishigakijima, etc.)

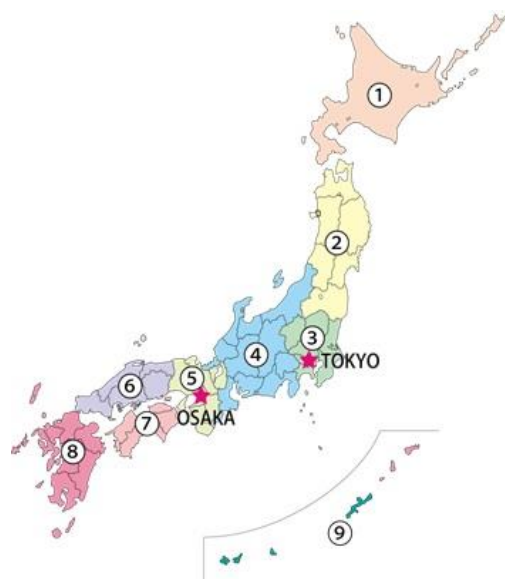


	1 fois	2 fois	3 ou 4 fois	5 fois ou plus	Je n'y suis jamais allé(e) / Je ne sais pas
1. Hokkaido					
2. Région de Tohoku					
3. Région de Kanto					
4. Région de Chubu					
5. Région de Kinki					
6. Région de Chugoku					
7. Région de Shikoku					
8. Région de Kyushu					
9. Okinawa					

問1 Quelle(s) région(s) du Japon correspond(ent) pour vous aux images suivantes ?

Veuillez choisir à chaque fois toutes les régions correspondantes.

1. Hokkaido (région à l'extrémité nord du Japon où se trouvent Sapporo, Hakodate, Niseko, etc.)
2. Région de Tohoku (région dans le nord-est du Japon où se trouvent Sendai, Aomori, Fukushima, etc.)
3. Région de Kanto (régions dans l'est du Japon où se trouvent Tokyo, Yokohama, Hakone, Chiba, etc.)
4. Région de Chubu (région dans le centre du Japon où se trouvent Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, le mont Fuji, etc.)
5. Région de Kinki (région dans le centre-ouest du Japon où se trouvent Kyoto, Osaka, Kobe, Nara, etc.)
6. Région de Chugoku (région dans l'ouest du Japon où se trouvent Hiroshima, Okayama, Yamaguchi, etc.)
7. Région de Shikoku (région située dans l'ouest du Japon où se trouvent Takamatsu, Kochi, Tokushima, etc.)
8. Région de Kyushu (région située dans l'ouest du Japon où se trouvent Fukuoka, Nagasaki, Kagoshima, etc.)
9. Okinawa (région à l'extrémité sud / extrémité ouest du Japon où se trouvent Naha, Miyakojima, Ishigakijima, etc.)



	1 Hokkaido	2 Région de Tohoku	...	8 Région de Kyushu	9 Okinawa	Je ne sais pas / Cela ne m'évoque aucune région en particulier
Magnifiques nature et paysages						
Paysages urbains et bâtiments attrayants						
Histoire attrayante						
Culture traditionnelle attrayante (fêtes populaires, objets artisanaux, etc.)						
Sources thermales riches et attrayantes						
Activités dont je veux profiter où que je veux essayer						
Aliments délicieux						
Personnes accueillantes et chaleureuses						
Joies du shopping						
Région lointaine à explorer						

問2 Veuillez nous indiquer ce que vous savez de Kyushu (ce que le mot Kyushu vous évoque) que ce soit aussi bien des noms précis qu'une image abstraite.

(Ex : Sources thermales, ramen, le climat a l'air chaud, les aliments ont l'air délicieux, etc.)

問3 Connaissez-vous le contenu des photos suivantes ? La consultation des photos et des explications vous a-t-elle donné envie d'y aller / d'essayer ?

* Cliquer sur une photo permet de l'agrandir. (Vous pouvez cliquer librement)

Je connaissais (Ça m'a donné très envie d'y voyager / d'essayer)
 Je connaissais (Ça m'a donné un peu envie d'y voyager / d'essayer)
 Je connaissais (Ça ne m'a pas donné envie d'y voyager / d'essayer)
 Je ne connaissais pas (Ça m'a donné très envie d'y voyager / d'essayer)
 Je ne connaissais pas (Ça m'a donné un peu envie d'y voyager / d'essayer)
 Je ne connaissais pas (Ça ne m'a pas donné envie d'y voyager / d'essayer)

■ 問3で使用了観光資源の解説文(フランス語)

1. Jardin aux glycines de Kawachi	2. Sanctuaire Dazaifu Tenman-gu
Il propose des tunnels de glycines d'une longueur de 80 m et de 110 m de long ainsi qu'un dôme, un treillis et un grand treillis de glycines	Dédié à la divinité des études, ce sanctuaire accueille chaque année au nouvel an plus de deux millions de visiteurs
3. Okinoshima Island	4. Temple Nanzoin
Baptisée l'« Île des dieux », cette île et son ensemble de sanctuaires ont été inscrits en 2017 sur la liste du patrimoine culturel mondial de l'UNESCO.	Il abrite la plus grande statue du bouddha Shakyamuni couchée en bronze de 41 m de long, 11 m de haut et 300 tonnes.
5. Descente de la rivière Yanagawa	6. Restaurants ambulants de Fukuoka
Le réseau des canaux qui parcourent cette ville d'eau peut être descendu à bord de petites embarcations qui sont une attraction touristique réputée.	Cette culture des restaurants ambulants est née aussitôt après la Seconde Guerre mondiale. Aujourd'hui encore, 150 établissements s'alignent à Fukuoka, créant une ambiance pittoresque très appréciée par le public.
7. Tenjin	8. Sanctuaire Yutoku Inari-jinja
Les grands magasins et les rues commerçantes en arcades se succèdent, permettant de s'adonner au shopping allant des produits d'usage quotidien aux produits de luxe.	Ce prestigieux sanctuaire qui compte parmi les trois plus grands sanctuaires d'Inari du Japon est un endroit très populaire pour les photos grâce à son portail d'entrée à deux étages et son pavillon principal particulièrement luxueux.

9. Village d'Okawachiyama à Imari	10. Cavernes de Nanatsugama
L'endroit a fleuri comme l'un des sites de production de porcelaine les plus réputés du Japon. Ses paysages formés par des falaises aux parois parfaitement verticales appelées « byobu-iwa » ou des cheminées en briques font partie du charme des lieux.	La violence des vagues a érodé les parois de basalte, creusant des falaises à pic où l'on trouve, comme le nom des lieux l'indique, sept grottes alignées.
11. Rizières en terrasse de Hamanoura	12. Festival international des ballons de Saga
283 rizières de toutes tailles disposées en de multiples étages comme un escalier qui s'élève depuis le littoral offrent un visage changeant au fil des saisons.	L'une des plus importantes compétitions de montgolfières d'Asie qui a lieu chaque automne dans la préfecture de Saga.
13. Mer d'Ariake	14. Parc de la Paix de Nagasaki
Cette mer affiche la plus grande amplitude de marée au Japon, offrant un visage totalement différent à marée basse et à marée haute. Cette particularité permet aux visiteurs d'observer des animaux rares que l'on ne peut voir que dans la mer d'Ariake.	Ce parc créé autour de la zone où la bombe atomique est tombée le 9 août 1945 abrite un mémorial pour la paix. On y trouve également un musée de la bombe atomique qui présente des documents et des photographies en rapport avec la bombe atomique.
15. Vue nocturne depuis le mont Inasa	16. Île Hashima (Gunkan-jima)
La beauté scénique a valu au lieu d'être baptisé « la vue nocturne à 10 millions de dollars » car elle fait partie des « trois nouvelles plus belles vues nocturnes du monde » avec Monaco et Hongkong.	L'île a autrefois fleuri grâce à ses mines de charbon sous-marines. Aujourd'hui inhabitée, elle a conservé dans son ensemble l'apparence de l'époque où elle était prospère et a été inscrite en 2015 sur la liste du patrimoine culturel mondial de l'UNESCO.
17. Îles Kujukushima Islands	18. Unzen Jigoku (enfers d'Unzen)
Cet archipel aux côtes à rias, formé de 208 îles, est connu pour sa beauté scénique que de nombreux visiteurs viennent admirer à bord des bateaux de plaisance.	L'ensemble de la zone étant volcanique, on peut sentir planer un parfum du soufre, et l'air chaud et les vapeurs qui s'échappent du sol pour couvrir les lieux forment un paysage qui évoque tout à fait l'enfer.
19. Château de Kumamoto	20. Mont Aso
Considéré comme l'un des trois plus beaux châteaux du pays, il attire un grand nombre de visiteurs aussi bien du Japon que de l'étranger.	L'une des plus grandes caldeiras du monde. On peut non seulement y admirer les attractions naturelles créées par le volcan mais c'est aussi le seul cratère actif au monde que l'on peut observer de si près.
21. Station thermale de Kurokawa	22. Observation des dauphins
Elle est connue comme l'une des stations thermales les plus populaires du Japon. Dans l'édition 2009 du « Guide Vert Michelin - Japon », elle s'est vue décerner deux étoiles, ce qui est rare pour une région thermale. Outre ses sources chaudes, les vues pittoresques de son quartier thermal font partie de ses charmes.	Environ 300 grands dauphins vivent au large des côtes d'Amakusa. Si vous montez à bord d'un des bateaux qui conduisent les visiteurs au large, vous pourrez admirer de très près les groupes de cétacés s'ébattre dans l'eau.
23. Rafting sur le fleuve Kuma-gawa	24. Gokanosho
Le fleuve Kuma-gawa qui offre l'un des trois plus importants rapides du Japon est très prisé pour le rafting car il permet d'admirer ses paysages formés par les eaux turbulentes du fleuve et les forêts de Kuma à la nature généreuse.	Connu depuis toujours comme un lieu bien caché, ses habitants y ont bâti de petits hameaux sur les collines en terrasses et les pentes inclinées bordant la rivière. Sa nature y a été préservée intacte.

25. Plateau de Kuju	26. Bouddhas en pierre d'Usuki
Le plateau de Kuju a toujours entretenu son immense prairie grâce aux brûlis et aux pâturages. Vous pourrez y admirer la vue magnifique formée par le contraste de deux éléments : la prairie s'étendant sous vos yeux et la chaîne des monts de Kuju qui se dresse en arrière-plan.	Ce groupe de sculptures du Bouddha appelées magaibutsu a été classé comme trésor national. On dit que plus de mille ans se sont écoulés depuis que la soixantaine de bouddhas en pierre ont été sculptés sur les parois en pente douce des monts.
27. Station thermale de Beppu	28. Station thermale de Yufuin
Plusieurs centaines de sources thermales sont disséminées un peu partout dans la municipalité de Beppu qui compte le plus grand nombre de sources et le plus fort débit du pays. Les fumées thermales qui s'élèvent ici et là dans la ville offrent une vue tout à fait insolite.	Des épiceries et des restaurants élégants s'alignent le long des rues pittoresques qui ont conservé leur charme rustique d'antan. En retrait de la zone urbaine animée, au bord de la rivière, dans les bois environnants ou au sommet de la colline, l'endroit est jalonné par les auberges thermales de haut standing les plus réputées du Japon.
29. Ancienne ville féodale de Kitsuki	30. Bateaux de pêche au cormoran de Hita
Dans les rues des anciennes résidences de samouraïs qui ont conservé le charme de l'époque d'Edo (1603-1868) s'alignent de magnifiques demeures qui témoignent de la culture de ces guerriers d'autrefois dans cette ancienne ville féodale considérée comme l'une des plus belles du Japon.	À bord d'une péniche yakatabune, tout en dînant, vous pourrez observer de près les techniques de pêche traditionnelles consistant à utiliser habilement des cormorans pour capturer les poissons depuis d'étroites embarcations à la pointe desquelles brûlent des torches.
31. Gorges de Takachiho	32. Sanctuaire Udo-jingu
Ces falaises pouvant atteindre 80 à 100 m de hauteur s'étendent sur 7 km. On peut jouir de la vue sur le canyon depuis leur sommet mais le paysage qu'elles offrent en bateau est également très populaire.	Le pavillon principal de ce sanctuaire se trouve dans les rochers au milieu d'une falaise faisant face à la mer. Pour le visiter, vous devrez descendre un escalier en pierre aménagé le long du précipice.
33. Kaguraden (Kagura Hall)	34. Surf
Dans le pavillon du kagura du sanctuaire Takachiho-jinja des représentations de kagura (danse cérémonielle) sont données tous les soirs. Tout le monde peut y assister et ainsi découvrir la culture traditionnelle et la mythologie du Japon.	La côte de la préfecture de Miyazaki est réputée comme l'un des meilleurs lieux pour le surf au Japon en raison de la température élevée de l'eau et de la qualité des vagues qui y naissent.
35. Village de Shiiba	36. Île Yakushima
Ce village montagnard se trouve dans la région de Kyushu Chuo Sanchi. La beauté de la nature au fil des quatre saisons qui rythme la vie de ses habitants permet de découvrir les paysages originels du Japon.	Jouissant d'une magnifique nature avec notamment des forêts naturelles de cèdres yakusugi, une surface correspondant à 20 % de l'île a été inscrite sur la liste du patrimoine naturel de l'UNESCO.
37. Sakurajima	38. Jardins Sengan-en
Ce volcan se dresse dans la baie de Kagoshima. Même aujourd'hui, il poursuit sa forte activité volcanique et depuis la zone urbaine de Kagoshima qui se trouve à moins de 10 km de distance, on peut admirer quotidiennement les volutes de fumée blanche qui s'élèvent de son cratère.	Ces jardins japonais ont été bâtis en 1658. Ils se caractérisent par leur vaste étendue et la magnifique vue qu'ils offrent sur la baie de Kagoshima et le volcan Sakurajima, symbole de Kagoshima.

39. Yurigahama Beach	40. Bains de sable chaud
Cette petite plage de sable blanc ne se révèle qu'à marée basse au large de l'île Yoron. On dit que les couleurs de la plage de sable blanc et de l'océan vert émeraude créent un véritable paradis terrestre.	Les seuls bains de sable à la vapeur naturelle au monde. Le sable de la plage chauffé par une source thermale vous permet de profiter d'un bain chaud en vous enfouissant sous le sable.
41. Kayak de mer à Amami	42. Trains touristiques / Trains de croisière
Les magnifiques côtes à rias et le paysage sous-marin peuplé de coraux offrent une vue merveilleuse. Les vagues sont également douces dans ce site parfait pour pratiquer le kayak de mer.	La vue depuis les fenêtres des wagons panoramiques est bien entendu attrayante, mais le design intérieur et extérieur des trains conçu par les meilleurs designers industriels du Japon l'est tout autant.
43. Randonnées	44. Fêtes
À Kyushu, où les forêts occupent plus de 60 % de l'espace, vous trouverez un peu partout des lieux pour vous adonner à la randonnée, au trekking ou à de la véritable escalade en montagne.	Les fêtes les plus diverses sont organisées au fil des quatre saisons à travers Kyushu. Vous trouverez aussi bien des fêtes impressionnantes où les chars parcourent les rues à toute vitesse que des fêtes solennelles dont les mouvements lents rappellent le théâtre nô.
45. Champs de thé	46. Cueillette des fruits
Kyushu est l'une des principales régions de production du thé japonais. Aux alentours du mois de mai, les champs de thé se couvrent de vert et offrent un magnifique paysage.	On trouve un peu partout à Kyushu des fermes touristiques qui permettent de s'adonner à la cueillette de divers fruits lorsque vient la saison.
47. Baraques à huîtres	48. Patrimoine en rapport avec les chrétiens cachés
En hiver, les baraques à huîtres s'alignent près des ports de pêche et vous permettent de déguster à un prix modique des huîtres grillées. Les convives s'assoient généralement autour d'un grill pour manger des huîtres qu'ils cuisent eux-mêmes.	Le mode de vie et l'existence des chrétiens cachés qui ont préservé leur foi malgré les persécutions pendant les 250 ans qu'a duré l'interdiction du christianisme prononcée pendant l'époque d'Edo (1603-1868) ont suscité l'admiration et ont été enregistrés sur la liste du patrimoine mondial de l'UNESCO en 2018.
49. Plages	50. Marchés
Kyushu compte de nombreuses plages au sable blanc et à la mer transparente qui permettent de s'adonner à la baignade de l'été à l'automne.	On trouve un peu partout à Kyushu des marchés qui sont très appréciés par la population qui s'en sert comme de véritables garde-manger. La plupart de ces marchés sont sous des arcades qui vous permettent de vous y promener les jours de pluie sans avoir besoin d'un parapluie.

■ 調査票(ドイツ語)

S-1 Geben Sie bitte die Altersgruppe an, der Sie angehören.

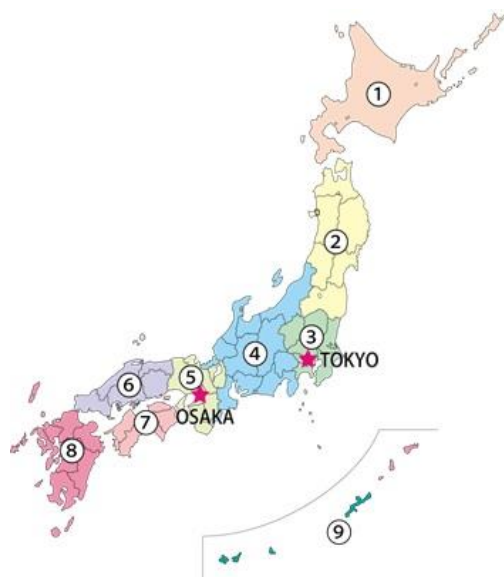
10 bis 19 Jahre	20 bis 29 Jahre	30 bis 39 Jahre
40 bis 49 Jahre	50 bis 59 Jahre	60 bis 69 Jahre
70 bis 79 Jahre	80 Jahre oder älter	

S-2 Geben Sie bitte Ihr Geschlecht an.

Männlich	Weiblich
----------	----------

S-3 Welche Region/-en Japans haben Sie schon einmal besucht? Geben Sie bitte an, wie oft Sie jeweilige Region besucht haben.

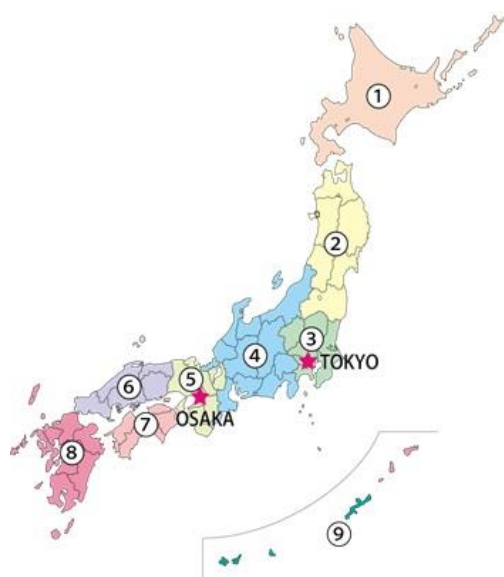
1. Hokkaido (Nördlichste Region Japans mit Orten wie Sapporo, Hakodate, Niseko usw.)
2. Tohoku-Region (Nordöstliche Region Japans mit Orten wie Sendai, Aomori, Fukushima usw.)
3. Kanto-Region (Östliche Region Japans mit Orten wie Tokyo, Yokohama, Hakone, Chiba usw.)
4. Chubu-Region (Zentrale Region Japans mit Orten wie Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, Fuji usw.)
5. Kinki-Region (Zentral-westliche Region Japans mit Orten wie Kyoto, Osaka, Kobe, Nara usw.)
6. Chugoku-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Hiroshima, Okayama, Yamaguchi usw.)
7. Shikoku-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Takamatsu, Kochi, Tokushima usw.)
8. Kyushu-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Fukuoka, Nagasaki, Kagoshima usw.)
9. Okinawa (Südlichste/westlichste Region Japans mit Orten wie Naha, Miyako-jima, Ishigaki-jima usw.)



	Einmal	Zweimal	Drei- bis viermal	Fünfmal oder öfter	Ich habe die Region noch nie besucht. /Ich weiß es nicht.
1. Hokkaido					
2. Tohoku-Region					
3. Kanto-Region					
4. Chubu-Region					
5. Kinki-Region					
6. Chugoku-Region					
7. Shikoku-Region					
8. Kyushu-Region					
9. Okinawa					

問1 Mit welchem Image verbinden Sie die einzelnen Regionen Japans? Wählen Sie bitte jeweils alle Regionen aus, auf die Ihrer Ansicht nach unten aufgeführte Aussagen zutreffen.

1. Hokkaido (Nördlichste Region Japans mit Orten wie Sapporo, Hakodate, Niseko usw.)
2. Tohoku-Region (Nordöstliche Region Japans mit Orten wie Sendai, Aomori, Fukushima usw.)
3. Kanto-Region (Östliche Region Japans mit Orten wie Tokyo, Yokohama, Hakone, Chiba usw.)
4. Chubu-Region (Zentrale Region Japans mit Orten wie Nagoya, Kanazawa, Shizuoka, Fuji usw.)
5. Kinki-Region (Zentral-westliche Region Japans mit Orten wie Kyoto, Osaka, Kobe, Nara usw.)
6. Chugoku-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Hiroshima, Okayama, Yamaguchi usw.)
7. Shikoku-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Takamatsu, Kochi, Tokushima usw.)
8. Kyushu-Region (Westliche Region Japans mit Orten wie Fukuoka, Nagasaki, Kagoshima usw.)
9. Okinawa (Südlichste/westlichste Region Japans mit Orten wie Naha, Miyako-jima, Ishigaki-jima usw.)



	1 Hokkaido	2 Tohoku -region	...	8 Kyushu -region	9 Okinawa	Ich weiß nicht. /Ich verbinde die Region mit keinem bestimmten Image.
Wunderschöne Natur und Landschaften						
Faszinierende Stadtlandschaften und/oder Bauwerke						
Interessante Geschichte						
Faszinierende traditionelle Kultur wie Feste und/oder kunsthandwerkliche Produkte						
Viele faszinierende heiße Quellen (Onsen)						
Reichhaltiges Freizeitangebot, das ich ausprobieren/erleben möchte						
Sehr gute Küche						
Freundliche und herzliche Menschen						
Tolle Shopping-Möglichkeiten						
Abgelegene und geheimnisvolle Gegend						

問2 Erzählen Sie uns bitte, was Sie über Kyushu wissen (was Ihnen in den Sinn kommt, wenn Sie Kyushu hören), unabhängig davon, ob es sich um konkrete Namen oder auch um ein abstraktes Image handelt.

(Beispiel: Heiße Quellen, Ramen, wirkt warm, Essen sieht lecker aus usw.)

問3 Kennen Sie den Inhalt des folgenden Fotos? Spüren Sie nach Ansehen des Fotos und Lesen der Beschreibung den Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben?

*Durch Anklicken wird das Bild vergrößert dargestellt (Anklicken ist optional).

Das kannte ich bereits (Es weckt in mir den starken Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

Das kannte ich bereits (Es weckt in mir ein bisschen den Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

Das kannte ich bereits (Es weckt in mir nicht den Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

Das kannte ich nicht (Es weckt in mir den starken Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

Das kannte ich nicht (Es weckt in mir ein bisschen den Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

Das kannte ich nicht (Es weckt in mir nicht den Wunsch, den Ort zu besuchen/das zu erleben).

■問3で使用了観光資源の解説文(ドイツ語)

1. Kawachi Glyzinien-Garten	2. Dazaifu Tenmangu Shrine
Hier gibt es "Glyzinien-Tunnels" mit einer Länge von 80 und 110 Metern, "Glyzinien-Kuppeln" und "Glyzinien-Gittern".	Hier wird der Gott der Wissenschaft verehrt. Über 2 Millionen Menschen besuchen den Schrein jedes Jahr während der Neujahrsfeiertage.
3. Okinoshima Island	4. Nanzoin-Tempel
Diese Insel wird als "Heimat der Götter" bezeichnet. Die Insel sowie die zugehörigen Stätten gehören seit 2017 zum UNESCO-Welterbe.	Mit einer Länge von 41 Metern, einer Höhe von 11 Metern und einem Gewicht von 300 Tonnen ist die Statue des Nanzoin-Tempels die weltweit größte bronzene Statue, die einen liegenden Buddha darstellt.
5. Yanagawa Kawakudari (Bootstour)	6. Fukuoka-Essensstände
Eine Flussgegend, die von einem weitverzweigten Netz aus Kanälen durchgezogen wird. Die Bootstour in den Kanälen ist eine beliebte Touristenattraktion.	Die Essensstand-Kultur begann mit dem Ende des 2. Weltkriegs. Auch heute noch erfreuen sich die 150 dicht beieinanderstehenden, stimmungsvollen Essenstände von Fukuoka großer Beliebtheit.
7. Tenjin	8. Yutoku Inari-Schrein
Ob man Produkte für den täglichen Gebrauch oder Luxuswaren kaufen möchte: In den großen Warenhäusern und Einkaufspassagen dieses Distrikts macht Shopping Spaß.	Einer der drei großen Schreine Japans, die zu Ehren des Gottes Inari erbaut wurden. Das prachtvolle Tor und der opulente Hauptschrein sind bei Fotografen beliebte Motive.

9. Imari Ookawachiyama Village	10. Nanatsugama-Höhlen
Imari ist einer der bedeutendsten Orte der Porzellanprodukt Japans. Schroffe Felswände, Schornsteine aus Ziegel prägen das einzigartige Stadtbild.	Einst wuschen Wellen das Basaltgestein aus, sodass tiefe Abgründe entstanden sind. Wie der Name besagt, gibt es hier sieben Höhlen in einer Reihe.
11. Reisterassen von Hamanoura	12. Internationales Heißluftballon-Fest von Saga
Die 283 verschieden großen Reisfelder sind terrassenförmig angeordnet, dass sie wie Treppenstufen wirken, die vom Meeresufer hinaufführen. Je nach Jahreszeit zeigen diese dem Betrachter ein anderes Gesicht.	Bei diesem jährlich im Herbst stattfindenden Heißluftballon-Fest handelt es sich um eines der größten seiner Art in Asien.
13. Ariake-See	14. Friedenspark von Nagasaki
Die Bucht weist den höchsten Tidenhub von ganz Japan auf und zeigt bei Ebbe und bei Flut komplett unterschiedliche Landschaften. Aufgrund dieser Eigenschaft können im Ariake-See seltene Tiere beobachtet werden, die man anderenorts nicht antreffen kann.	Der Park und die Statue des Friedens wurden in dem Bereich errichtet, an dem am 9. August 1945 die Atombombe abgeworfen wurde. Im Park befindet sich auch das Atombombenmuseum, in dem Relikte und Fotos ausgestellt sind.
15. Mount Inasa-Nachtaussicht	16. Hashima (Gunkan-Jima)
Der Nachtaussicht vom Mount Inasa aus wird als "10-Millionen-Dollar-Nachtaussicht" bezeichnet und ist neben Monaco und Macao zu den weltweit schönsten Nachtaussichten gewählt worden.	Eine Insel, die in der Ära des Unterwasser-Bergbaus ihre Blütezeit erfuhr. Heute ist sie unbewohnt, aber die Gebäude aus der Hochphase stehen immer noch dort. Seit 2015 gehört Hashima zum UNESCO-Weltkulturerbe.
17. Kujukushima-Inseln	18. Unzen Jigoku (the Hell of Unzen)
Eine Inselgruppe, deren Küsten von Rias geprägt sind. Sie besteht aus 208 Inseln und ist für ihre faszinierende Schönheit berühmt. Rundfahrten mit dem Schiff erfreuen sich großer Beliebtheit.	Die gesamte Gegend ist vulkanisch und wird von Schwefelgeruch durchdrungen. Der Dampf und die Hitze, die aus dem Boden steigen und die Landschaft prägen, rufen die Assoziation hervor, sich in der Hölle (Jigoku) aufzuhalten.
19. Burg Kumamoto	20. Mount Aso
Die Burg wird als eine der drei schönsten Burgen Japans bezeichnet und ist das Ziel von vielen Besuchern aus dem In- und Ausland.	Der Vulkan mit einer der größten Caldera der Welt. Neben der von dem Vulkan erschaffenen Landschaft kann man weltweit nur hier den Krater eines aktiven Vulkans aus unmittelbarer Nähe bestaunen.
21. Kurokawa-Onsen	22. Delfinbeobachtung
Einer der populärsten Onsen-Orte Japans. Er erhielt in der Ausgabe 2009 des Reiseführers "Michelin Green Guide Japon" für Onsen-Orte ungewöhnliche zwei Sterne. Nicht nur die heißen Quellen selbst, auch das stimmungsvolle Stadtbild übt eine besondere Faszination aus.	Vor der Küste von Amakusa leben etwa 300 Große Tümmler. Fährt man auf einem Boot ins Meer hinaus, kann man die Delfine aus der Nähe beim Schwimmen in der Gruppe beobachten.
23. Rafting auf Kumagawa	24. Gokanoshō
Der Kumagawa ist als einer der drei schnellsten Flüsse Japans bekannt. Wegen seiner sehr wechselhaften Flussgeschwindigkeit und der üppigen Natur des Kuma-Walds ist er bei Rafting-Freunden sehr beliebt.	In dieser seit dem Altertum als mystisch geltenden Gegend haben die Menschen auf Terrassen und Hängen am Flussufer kleine Siedlungen errichtet. An vielen Stellen ist die Natur hier bis heute unberührt geblieben.

25. Kuju-Hochebene	26. Stein-Buddhas von Usuki
Eine Hochebene mit einem riesigen Grünland, das durch kontrollierten Feldbrand und Freilandhaltung von Vieh erhalten wird. Die weitflächige Ebene im Vordergrund und das Kuju-Gebirge im Hintergrund bilden einen faszinierenden Kontrast.	Die in die Felswand gemeißelten Buddha-Statuen wurden zu Nationalschätzen Japans erklärt. In der Felswand dieses Bergs befinden sich über 60 Stein-Buddhas, von denen gesagt wird, dass sie über 1000 Jahre alt sind.
27. Beppu-Onsen	28. Yufuin-Onsen
In Beppu gibt es über das gesamte Stadtgebiet verteilt mehrere hundert Onsen. Die Stadt weist landesweit die meisten Quellen und die größte Quellwassermenge auf. Der an vielen Stellen steigende Dampf prägt das Stadtbild auf einzigartige Weise.	Elegante Geschäfte und Restaurants säumen hier das Stadtbild, das an vielen Stellen an eine ländliche Vergangenheit erinnert. Etwas abseits von dem lebhaften Zentrum befinden sich am Flussufer, in Hainen und auf Anhöhen luxuriöse Onsen-Hotels, mit denen sich Japan rühmt.
29. Burgstadt von Kitsuki	30. Kormoran-Fischerboote von Hita
Prachtvolle Residenzen, die von der vergangenen Samurai-Kultur erzählen, säumen die Straße der Samurai-Wohnhäuser, welche die Atmosphäre der Edo-Zeit wiedergibt. Die Burgstadt von Kitsuki gilt als das bedeutendste ihrer Art in Japan.	Die Kormoranfischerei ist eine traditionelle Fischereimethode, bei der am Bug länglicher Boote ein Feuer entzündet und unter Einsatz von Kormoranen gefischt wird. In Hita gibt es die Möglichkeit, sich auf einem Yakatabune (traditionelles japanisches Hausboot) am Essen zu erfreuen und zugleich den Fischern bei ihrer Arbeit zuzusehen.
31. Takachiho-Schlucht	32. Udo-Jingu (Schrein)
Eine 80 bis 100 Meter hohe Felswand, die sich über 7 Kilometer erstreckt. Man kann die Schlucht sowohl von oben als auch von unten, von einem Boot aus, betrachten.	Ein Schrein, dessen Hauptgebäude sich in einer Höhle im zentralen Bereich einer zum Meer zugewandten Felswand befindet. Um zu beten, muss man die steinerne Treppe hinabsteigen, die an der Felswand angebracht ist.
33. Kaguraden (Kagura Hall)	34. Surfen
Im Kaguraden-Gebäude des Takachiho-Schreins wird jeden Abend der Kagura-Tanz (traditioneller Shinto-Tanz) aufgeführt. Diese Veranstaltung, die von jedem besucht werden kann, bietet die Gelegenheit, der traditionellen Kultur und Mythologie Japans näherzukommen.	Die Küste der Präfektur Miyazaki mit ihren hohen Wassertemperaturen und Wellen, die zum Wellenreiten einladen, ist bei Surfern im ganzen Land bekannt.
35. Shiiba-Dorf	36. Yakushima
Ein abgelegenes Dorf im zentralen Gebirge von Kyushu. Die in allen Jahreszeiten faszinierend schöne Natur sowie die Aktivitäten der Menschen erinnern an ein Japan vergangener Tage.	In der Insel Yakushima wird eine üppige und wunderschöne Natur erhalten, die man z.B. bei den Yakusugi-Naturwäldern erleben kann. Etwa 20% der Inselfläche wurden als UNESCO-Weltnaturerbe registriert.
37. Sakurajima	38. Senganen-Garten
Ein Vulkan, der aus der Bucht von Kagoshima emporragt. Er ist auch gegenwärtig äußerst aktiv, sodass man von der weniger als 10 Kilometer entfernten Stadt von Kagoshima täglich den aus dem Vulkan steigenden Rauch beobachten kann.	Ein 1658 erbauter japanischer Garten. Vor der atemberaubenden Kulisse der Bucht von Kagoshima sowie der Insel Sakurajima, dem Wahrzeichen der Region, breitet sich dieser weitflächige Garten vor dem Betrachter aus.

39. Yurigahama Beach	40. Sandbäder
Ein kleiner weißer Sandstrand, der sich vor der Küste von Yoronjima nur bei Ebbe zeigt. Aufgrund des farblichen Zusammenspiels des weißen Strands und dem smaragdgrünen Meer wird Yurigahama als Paradies auf Erden bezeichnet.	Weltweit einziger Ort für natürliche Sandbäder. Onsen-Dampf erhitzt den Sand am Strand, sodass man sich - in Sand eingegraben - am Sandbad erfreuen kann.
41. Seekayaken in Amami	42. Joyful Train / Cruise Train
Hier gibt es wunderschöne Riasküsten und Meereslandschaften mit lebenden Korallen zu bestaunen. Da zudem die Wellen ruhig sind, eignet sich dieser Meeresabschnitt hervorragend zum Seekayaken.	Durch die großen Fenster die vorbeiziehende malerische Landschaft zu betrachten, ist eine atemberaubende Erfahrung. Auch die von einem führenden Industriedesigner Japans entworfene Inneneinrichtung der Waggons ziehen die Passagiere in ihren Bann.
43. Trekking	44. Matsuri-Feste
Kyushu ist zu über 60% seiner Fläche von Wäldern bedeckt, sodass es hier eine Vielzahl von Routen für Wanderer, Trekking-Freunde und auch Bergsteiger gibt.	An vielen Orten in Kyushu finden während der vier Jahreszeiten verschiedenste Feste statt. Auf manchen Festen werden Dashi (Festwagen), um Mut zu beweisen, mit hoher Geschwindigkeit gezogen, andere wiederum sind bedächtig und die Bewegungen erinnern an das No-Theater.
45. Teefeld	46. Obstpflücken
Kyushu ist eines der bedeutendsten Teeanbaugebiete Japans. Ungefähr im Mai nehmen die Teefeld eine grüne Farbe an und faszinieren den Betrachter mit ihrer Schönheit.	In Kyushu gibt es eine große Anzahl von Erlebnisbauernhöfen, wo man sich am Pflücken von je nach Jahreszeit unterschiedlichen Obstsorten erfreuen kann.
47. Kakigoya-Austernhütte	48. Verborgene christliche Stätten
Im Winter werden die Straßen in der Nähe von Fischereihäfen von Kakigoya (Austernhütten) gesäumt, wo man günstig Austern vom Grill verzehren kann. Für gewöhnlich sitzen die Gäste um einen Grill herum, essen die Austern, die sie selbst grillen.	Die Erinnerung an die Christen, die in der Edo-Zeit 250 Jahre lang unterdrückt und verfolgt wurden, ist 2018 von der UNESCO gewürdigt worden, als die christliche Stätten zu Welterbestätten erklärt wurden.
49. Strände	50. Märkte
Da es in Kyushu zahlreiche weiße Sandstrände gibt, kann man sich ab Sommer bis in den Herbst hinein an Schwimmausflügen ans Meer erfreuen.	An vielen Orten in Kyushu gibt es Märkte, die von den Menschen häufig und gern besucht werden. Viele der Märkte befinden sich in Arkaden, sodass man sie auch bei Regen ohne Regenschirm erkunden kann.